

Parallels[®] Plesk Panel

コントロールパネルユーザガイド

Panel 10.4

目次

はじめに 5

表記規則	5
フィードバック	6

Small Business Panel からの移行後に Panel を使い始める 7

SBP と Panel 10 の相違点	8
拡張されたユーザ役割パーミッション	8
Web Presence Builder ツール	9
SSL 保護	10
ウェブアプリケーション	10
拡張されたメール管理	11
Panel のその他の機能	11

Panel 9 からの主な変更の概要 12

Plesk Panel クイックスタート 15

最初のウェブサイトをセットアップする	16
1. サイトを作成する	16
2. サイトをプレビューする	20
3. サイトを検索エンジンに登録する	20
メールアカウントをセットアップする	22
1. ユーザアカウントを作成する	22
2. メールボックスにアクセスする	23
サイト訪問統計を表示する	39

ホスティングアカウントの管理 40

パスワードおよび連絡先情報を変更する	43
アカウント情報を表示する	44
アカウントと契約に関する情報	45
割り当て済みリソースおよび使用済みリソース	45
ウェブサイトで使用できるホスティング機能	47
アカウント残高と請求書を管理する	52
追加のリソースを注文する	54
統計を表示する	56
ログファイル	57
(高度) ホスティングアカウントへのアクセスを構成する	58
ユーザの役割	59
ユーザアカウント	61
カスタムリンク	63

ウェブサイトとドメイン **65**

ドメインと DNS	66
ドメインを追加する	67
サブドメインを追加する	70
ドメインエイリアスを追加する	72
(Linux) ワイルドカードサブドメインを追加する	74
(高度) ドメイン用に DNS を構成する	75
ホスティング設定を変更する	86
ウェブスクリプト設定	89
ウェブサイトを一時停止または起動する	94
ウェブサイトをメンテナンスのために一時停止する	95
ウェブサイトコンテンツを管理する	96
Web Presence Builder でウェブサイトを作成する	97
FTP 経由でコンテンツをアップロードする	98
ファイルマネージャを使用する	99
ウェブサイトをプレビューする	106
(高度) コンテンツへのアクセスを制限する	107
ウェブサイトアプリケーションを採用する	110
アプリケーションを構成する	112
Panel ユーザにアプリケーションへのアクセス権を付与する	113
アプリケーションと Panel のアカウントを関連付ける	114
インストール済みアプリケーションを更新する	115
(高度) ウェブサイトのセキュリティを強化する	115
接続を SSL 証明書で保護する	115
ホットリンクからサイトを保護する (Windows ホスティング)	122
(高度) 拡張ウェブサイト管理	123
ステージングサイトを使用する	123
モバイルサイトをセットアップする	126
カスタムエラーページをセットアップする	127
ドメインフォワーダを追加する	131
Google サービスを使用する	133
ドメイン下で個人ウェブページをホスティングする	135
ウェブサイトへの接続の帯域幅と数を制限する	137
Microsoft Frontpage ウェブサイトを使用する (Windows ホスティング)	138
仮想ディレクトリを使用する (Windows ホスティング)	143
IIS アプリケーションプールをセットアップする (Windows ホスティング)	159
Web Deploy によるウェブパブリッシング (Windows ホスティング)	161

ウェブサイトへの FTP アクセス **163**

FTP アクセスクレデンシャルを変更する	164
FTP アカウントを追加する	165
匿名 FTP アクセスをセットアップする	167

メール **169**

メールアカウントを追加する	170
メールを構成する	171
メールアカウントを構成する	172
(高度) メールグローバル設定を構成する	179

メーリングリストを使用する.....	180
タスクをスケジューリングする	181
タスクをスケジューリングする (Linux ホスティング)	182
タスクをスケジューリングする (Windows ホスティング)	185
(高度) データベースを使用する	188
データベースを管理する.....	189
データベースを作成する.....	189
データベースをインポートする.....	191
データベースユーザアカウントを作成する.....	192
外部データベースにアクセスする (Windows ホスティング)	194
(高度) データをバックアップおよび復元する	196
データをバックアップする	197
アカウントとウェブサイトをバックアップする	199
データベースをバックアップする (Windows ホスティング)	201
バックアップをスケジューリングする.....	202
バックアップファイルを管理する	203
バックアップファイルをアップロード/ダウンロードする.....	203
データベースバックアップファイルをアップロード/ダウンロードする (Windows ホスティング)	205
データを復元する.....	207
バックアップを復元する.....	207
データベースを復元する (Windows ホスティング)	207

はじめに

表記規則

当ガイドをご使用いただく前に、文書内の表記上の規則をご理解くださいますようお願い致します。

特殊な意味を持つ箇所は、以下のフォントで区別しています。

フォント	意味	例
特殊太字	メニューオプション、コマンドボタン、リスト内の項目など、選択する必要のある項目。	[システム] タブに進みます。
	章、セクション、サブセクションのタイトル。	「基本管理」の章をご参照ください。
斜体	初出用語または実際の名前や値に置き換えられるコマンドラインのプレースホルダーの指定などの、重要な箇所を強調。	システムはいわゆる <i>ワイルドカード</i> 文字検索に対応しています。
固定幅	コマンド、ファイル、ディレクトリの名前。	ライセンスファイルは http://docs/common/licenses ディレクトリにあります。
書式設定済み	コマンドラインセッションでのコンピュータ画面上への出力、XML や C++ やその他のプログラミング言語のソースコード。	<pre># ls -al /files total 14470</pre>
書式設定済み太字	入力した文字をコンピュータ画面上の出力と区別。	<pre># cd /root/rpms/php</pre>
アルファベット大文字	キーボード上のキーの名前	SHIFT、CTRL、ALT
KEY+KEY	ユーザがあるキーを押しながら他のキーを押す必要があるキーの組み合わせ。	CTRL+P、ALT+F4

フィードバック

当ガイドの表記ミスを見つけた場合や、当ガイドをより良いものにするアイデアがある方は、sales@parallels.co.jp 宛てにお知らせいただければ幸いです。間違いを見つけた場合は、章、セクション、サブセクション名や該当部分の文章を提示して問題を特定しやすいようにしてくださいようお願い致します。

第 1 章

Small Business Panel からの移行後に Panel を使い始める

この章は、Parallels Small Business Panel (SBP) を Panel に移行したユーザを対象に、管理オペレーションの変更内容と新たに利用可能になったオペレーションについて説明します。移行手順について詳しくは『[移行ガイド](#)』を参照してください。

SBP で行っていた作業の大部分は Panel でも実行できるため、Panel への移行はほぼシームレスです。ユーザにとって、SBP と Panel の主な違いは、一部の機能の位置や内容が変わったことです。さらに、Panel には、拡張されたユーザ役割パーミッション、Web Presence Builder ツール、新しいウェブアプリケーションへのアクセスなど、SBP にはない機能が多数用意されています。これらの製品の差異については、「[SBP と Panel 10 の相違点](#)」のセクション(8ページ)を参照してください。

移行後は、SBP インターフェースの代わりに Panel のパワーユーザビューを使用します。パワーユーザビューは SBP の GUI とほぼ同じです。Panel のパワーユーザビューは、基本的に、サーバ管理機能のあるコントロールパネルと言えます。パワーユーザビューについて詳しくは、『[管理者ガイド](#)』の「[Parallels Plesk Panel に慣れる](#)」のセクションを参照してください。

この章の内容:

SBP と Panel 10 の相違点	8
---------------------------	---

SBP と Panel 10 の相違点

SBP と Panel のパワーユーザビューのユーザーインターフェースはほぼ同じです。したがって、Panel での作業に影響を与える最も重要な変更に絞って説明します。

拡張されたユーザ役割パーミッション

Panel には SBP より多くのパーミッションが用意されているため、ユーザ役割に応じた権限を SBP より細かく調整することができます。たとえば、Panel では、メールアカウントを管理できるユーザと、会社のメーリングリストを管理できるユーザとを、区別することができます。Panel にはパーミッションが豊富に用意されているため、SBP パーミッションに関連する多数の Panel パーミッションに移行することができます。パーミッションの移行方法について詳しくは、下の表を参照してください。

SBP パーミッション	Panel パーミッション	移行に関する備考
ユーザの管理 役割の管理	ユーザと役割の管理	いずれかの SBP パーミッションが付与されている場合にパーミッションを付与。
ウェブサイトとドメインの管理	サイトの作成と管理 ログローテーションの構成 匿名 FTP サービスの構成 スケジュール済みタスクの作成と管理 データベースの作成と管理 データのバックアップと復元の構成と実行 統計の参照 Web Presence Builder でのサイト設計 追加 FTP アカウントの作成と管理 DNS 設定の管理 Java アプリケーションのインストールと管理	
サーバ設定の変更	-	このパーミッションは移行されません。Panel では、サーバ設定の変更は、管理者役割のみで許可されます。
メールの管理	メールアカウントの作成と管理 メーリングリストの作成と管理	

個人情報の更新	-	このパーミッションは移行されません。Panel では、個人情報の変更はすべてのユーザに許可されています。
-	ファイルのアップロードと管理	デフォルトでは、このパーミッションは移行後に却下されます。
-	スパムフィルタの構成	デフォルトでは、このパーミッションは移行後に却下されます。
-	アンチウイルスの構成	デフォルトでは、このパーミッションは移行後に却下されます。

ユーザ役割のプロパティについて詳しくは、「**ユーザ役割**」のセクション（59ページ）を参照してください。

Web Presence Builder ツール

SBP の使用中は、Site Editor ツールを使用して独自のウェブサイトを作成できます。同じ目的のために、Panel にはより高機能な Web Presence Builder というツールがあります。Site Editor と比べ、Web Presence Builder には次のような特長があります。

- 直感的に操作できる新しいインターフェースで、わずか数ステップでウェブサイトを作成可能。
- コンテンツが事前に含まれる約 100 種類のウェブサイトテンプレートを、サイトのベースとして使用可能。
- サイトに簡単に統合可能な追加コンポーネント（オンラインストアや埋め込み動画など）。
- ウェブサイトを Facebook などと統合可能。

Web Presence Builder について詳しくは、『Web Presence Builder ユーザガイド (User's Guide to Web Presence Builder)』を参照してください。

Site Editor で作成したウェブサイトは、Web Presence Builder に対応していません。ただし、Site Editor を Panel にインストールすれば、これらのウェブサイトを Site Editor で編集できます。この場合、「**ウェブサイトとドメイン**」リスト内のウェブサイトには【SiteBuilder 4 または Site Editor で編集】という追加ボタンが表示されます。

SSL 保護

Panel では、SBP と同様に安全な方法でウェブサイトには接続できます。これには、SSL 証明書を [サーバ] > [設定] > [SSL 証明書] で取得して、[サーバ] > [設定] > [IP アドレス] で IP アドレスに割り当てます。SBP と同様に、1 つの IP アドレスには証明書を 1 つだけ割り当てることができます。したがって、ホスティングリソースに共有 IP アドレスが 1 つだけ存在する場合、セキュリティを強化できるウェブサイトは 1 つだけです。一方、Panel には高度な SSL 保護機能があり、この問題を解決できます。

- **複数ウェブサイト用の複数 SSL 証明書**
SNI テクノロジーに対応する Linux オペレーティングシステムで Panel を使用している場合、共有 IP アドレス上でホスティングされている複数のサイトに対して真正の SSL 証明書を使用できません。つまり、Panel では、各ウェブサイトに対して個別の SSL 証明書を使用可能です。個別の SSL 証明書の使用については、『**管理者ガイド**』の「**単一 IP アドレスで複数の SSL サイトをホスティングする (Linux ホスティング)**」のセクションを参照してください。
- **多数のウェブサイトで共有の SSL 証明書**
Windows オペレーティングシステムで Panel を使用している場合、1 つの共有 SSL 証明書によってすべてのサイトへの接続のセキュリティを強化することができます。この場合、証明書のあるドメインに割り当てると、このドメインは他のドメインに対して証明書を共有します。このようなドメインをマスター SSL ドメインと呼びます。つまり、ただ 1 つのウェブサイトに対して発行された SSL 証明書が、すべてのウェブサイトに対して使用されます。共有 SSL 証明書については、『**管理者ガイド**』の「**単一の SSL 証明書によりサイトをセキュリティ保護する (Windows ホスティング)**」のセクションを参照してください。

SSL 証明書をウェブサイトには割り当てるプロセスは、「**接続を SSL 証明書で保護する**」のセクション (115 ページ) を参照してください。

ウェブアプリケーション

Panel でのアプリケーション管理は、SBP とほぼ (あるいは完全に) 同じです。SBP と同様に、使用可能なウェブアプリケーションのリストは [アプリケーション] タブで表示されます。アプリケーション管理については、「**ウェブサイトアプリケーションを採用する**」のセクション (110 ページ) を参照してください。

独自に作成したアプリケーションパッケージのアップロードには、今後はアプリケーションヴォルトを使用します。ヴォルトとは、ウェブアプリケーション用に Panel に用意されたローカルリポジトリです。利用可能なアプリケーションが増えることに加え、ヴォルトではアプリケーションの更新、サーバ全体の設定の構成、およびその他のオペレーションを実行することができます。アプリケーションヴォルトについては、『**管理者ガイド**』の「**アプリケーションを管理する**」のセクションを参照してください。

拡張されたメール管理

Panel でのメール管理は、SBP と少し異なります。基本的なメール設定は [メール] > [設定の変更] で行いますが、他の設定は [サーバ] > [設定] > [メール] で行います。

Panel には SBP のメール機能にさまざまなメール機能が追加されています。

- **拡張されたスパム保護：**
 - サーバのブラックリストとホワイトリスト。
これらのリストを使用して、選択したサーバからのメールを常に拒否または許可することができます。ブラックリストとホワイトリストの詳細については、『**管理者ガイド**』の「**スパム防御を設定する**」のセクションを参照してください。
 - 拡張した SpamAssassin 設定。
Panel を使用すると、SpamAssassin をより正確に構成することができます。たとえば、スパムフィルタの感度や SpamAssassin のブラックリストとホワイトリストといった設定を実行できます。さらに、個々のメールアカウントに対してスパムフィルタを個別に構成することができます。詳しくは「**スパムから防御する**」のセクション（176ページ）を参照してください。
- **メールサーバのメッセージキューをモニタリングする (Linux プラットフォーム)。**
これは、メールサーバが過負荷の場合や、受信メッセージ量を処理しきれない場合に便利です。メールキューを使用して、過負荷の原因を特定することができます。メッセージキューについて詳しくは、『**管理者ガイド**』の「**メールサーバメッセージキューおよびトラブルシューティングメール輻輳をモニタリングする (Linux ホスティング)**」のセクションを参照してください。

Panel のその他の機能

上記の主な変更点に加え、Panel には SBP で提供されていない機能が数多く搭載されています。たとえば、イベント管理、サーバヘルスマニタリング、カスタムブランディングテーマなどです。この章ではこれらすべてをカバーできません。他のサーバ管理オペレーションについて詳しくは、『**管理者ガイド**』を参照してください。アカウントやウェブサイトの管理に関連するその他のオペレーションについては、本書の各章を参照してください。

第 2 章

Panel 9 からの主な変更の概要

本章では、Parallels Plesk Panel バージョン 9 またはそれ以前のバージョンを使用していたホスティングサービス顧客を対象に、Panel の重要な変更点や、Panel のアップグレード中にアカウントやサイトを Parallels Plesk Panel 10 に移行すると発生する可能性がある問題について説明します。

アップグレード後にすべきこと

- *補助ユーザアカウント (旧「ドメイン管理者アカウント」)* をオンにします。

Panel 10 では、ドメイン管理者に代わり、新しいタイプのアカウントである *補助ユーザ* が追加されています。このユーザは、それを作成した顧客とともに、コントロールパネルにアクセスできます。前バージョンの Plesk でドメイン管理者アカウントを使用していた場合、ユーザアカウントに変換されるか、無効化されます。これはセキュリティ上の理由によるものです。たとえば、ある顧客に、コントロールパネルにログインしてウェブサイトを管理する権限があるユーザがいると、このユーザはこの顧客に属するすべてのサイトを閲覧・管理できてしまいます。このため、コントロールパネルへのログインを許可するユーザを改めて選び直してから、アカウントを有効に切り替える必要があります。

ウェブサイトコンテンツに関して他のユーザとコラボレーションする必要があり、これらのユーザにコントロールパネルへのログインを許可したくない場合には、これらのユーザに対して個別の FTP アカウントを作成し、アクセスできるディレクトリを指定することができます。

- *httpsdocs* を使用していたアプリケーションを新しいディレクトリ (*httpdocs*) に移動します。

これまで、SSL 保護されたコンテンツを他のコンテンツとは別のディレクトリに分けるオプションを使用しており、APS パッケージされたアプリケーションをウェブサイトの *httpsdocs* ディレクトリにインストールしていた場合、Panel をアップグレードすると、このウェブサイトに対して互換モードがオンになります。したがって、インターネットユーザは以前に *httpsdocs* ディレクトリにインストールしたアプリケーションに今後も引き続きアクセスできますが、Panel でこのアプリケーションを管理することや、*httpsdocs* ディレクトリに新しいアプリケーションをインストールすることはできなくなります。

このような作業を行う必要がある場合、上級ユーザは次のような手順で実施できます。

1. *httpsdocs* ディレクトリからすべてのコンテンツをバックアップし、他の場所に保存します。まだ *httpdocs* にはファイルを移動しないでください。
2. *httpsdocs* ディレクトリにインストールされているアプリケーションで使用されるデータベースをバックアップします。これには、`mysqldump` ユーティリティを使用します。

3. httpsdocs ディレクトリからアプリケーションを削除します。
4. Panel で互換モードをオフにします（ [ウェブサイトとドメイン] タブで <ドメイン名> をクリックします）。
5. 必要なアプリケーションを再インストールします。
6. ステップ 1 でバックアップしたデータを httpdocs ディレクトリにアップロードします。
7. アプリケーションのデータベースを MySQL データベースサーバにインポートして、データベースを復元します。

上級ユーザ以外は、以前にインストールしたアプリケーションとアップロードしたコンテンツを httpsdocs ディレクトリに残しておき、他のウェブサイトで新たにアプリケーションをホスティングすることをお勧めします。互換モードで稼働しているサイトにアプリケーションをインストールする必要がある場合は、このサイトの httpdocs (http://) ロケーションにアプリケーションをインストールします。

覚えておくべき重要なコンセプト

- 「ドメイン」に代わり、「契約」が導入されました。
「ドメイン」の概念に代わるものとして「契約」が導入されました。「契約」とは、特定のリソースとサービスを使用して複数のサイト（ドメインとサブドメイン）を実行できるホスティング単位です。1つの契約でマルチドメインホスティングを行う場合、IP アドレスは1つに限定されます。IP アドレスを複数使用してサイトをホスティングする必要がある場合は、契約を追加購入してください。
- クライアントのリソースは、契約のリソースとなりました。
ドメインや契約に対して顧客がリソースを再割り当てする必要はなくなりました。それぞれの契約には、ホスティングプランごとに決められたリソースセットが割り当てられます。
- 一般に、SSL 証明書は契約のすべてのドメインに共有されます。
一般に、契約内のすべてのサイトが1つの SSL 証明書を共有します。契約内のすべてのサイトを保護したい場合は、マルチドメイン用（ワイルドカード）SSL 証明書の購入をお勧めします。Panel が SNI をサポートする場合は、ドメインごとに証明書を持たせることもできます。

SiteBuilder のアップグレードに関する注記

- Panel 10 には Web Presence Builder (旧 SiteBuilder) が同梱されていますが、SiteBuilder 4.5 を使用することもできます。

Parallels Web Presence Builder は、ウェブサイトを迅速かつ効率的に作成するための Panel コンポーネントです。SiteBuilder 付きで Plesk を Parallels Plesk Panel 10 にアップグレードしても、SiteBuilder コンポーネントはアップグレードされず、代わりに Web Presence Builder がサーバにインストールされます。SiteBuilder 4.5 も引き続き使用できますが、SiteBuilder 4.5 で作成したウェブサイトに対して実行できる操作は、編集と公開に限られます。

- ウェブサイトを SiteBuilder 4.5 から Web Presence Builder に移行することはできません。
そのため、Web Presence Builder で新しいサイトを作成することをお勧めします。

セキュリティの高いコンテンツの保存に関する変更

- `httpdocs` は、セキュア SSL 経由でアクセスするウェブコンテンツの保存に唯一使用できるディレクトリです。
これらのウェブコンテンツを別ディレクトリに保存するオプションは廃止されました。1つのディレクトリ (`httpdocs`) にすべてのウェブコンテンツが保存されます。

Parallels Plesk Panel 10 へのアップグレード後も `httpsdocs` ディレクトリはウェブスペースに残りますが、FTP 経由でウェブスペースにファイルをアップロードするときは、すべてのコンテンツを `httpdocs` ディレクトリに保存することをお勧めします。

第 3 章

Plesk Panel クイックスタート

近年の調査によると、インターネットはテレビや新聞といった旧来のメディアを遥かに凌ぎ、重要な情報源となりました。今や、何らかのサービスを探す人は、真っ先にウェブ上の情報を調べるようになってきました。そのため、適切なウェブサイトを構築することはあらゆる企業にとって必要不可欠です。これには、様々な手法があります。たとえば、問い合わせページのみシンプルなものから、ERP システムへのアクセスが可能な大規模企業の複雑なウェブサイトまで、様々です。いずれの場合でも、同様の手順に従う必要があります。

作業を進めるためには、次の 2 つのアクションを完了していることが前提となります。

- **ホスティングプロバイダからホスティングアカウントを購入する。**
ホスティングアカウントとは、ウェブサイトの構築に不可欠なサービス（インターネット接続、ウェブコンテンツを格納するためのディスク領域など）を利用するためのアカウントです。Panel でのホスティングアカウントについて詳しくは、「**ホスティングアカウントの管理**」の章（40 ページ）を参照してください。
- **ドメイン名を登録する。**
ドメイン名とは、ユーザがウェブサイトにアクセスするためにブラウザに入力する名前です。たとえば、「www.example.com」のような形式です。

これら 2 つの要素（ホスティングアカウントとドメイン名）がウェブサイトの基盤となります。この章では、最初のウェブサイトを構築し、コンテンツを挿入し、サイトのユーザ用にメールボックスを作成し、サイト訪問履歴を確認する方法を説明します。

高度なホスティング機能

Panel の基本機能に慣れたところで、高度なホスティング機能を試してみましょう。たとえば、ウェブアプリケーションをインストールしてウェブサイトの機能を拡張する（11017 ページ）、SSL 証明書を使用してサイトのセキュリティを高める（11517 ページ）、データベースを導入する（18817 ページ）といった作業が可能です。ホスティングプロバイダが、顧客の GUI をよりシンプルで使いやすくするために、高度な機能の一部を無効化している場合があります。無効化されている可能性がある機能について説明するセクションには、「**(高度)**」というマークが付いています。これらのオプションを使用したい場合は、ホスティングプロバイダにお問い合わせください。

この章の内容:

最初のウェブサイトをセットアップする	16
メールアカウントをセットアップする	22
サイト訪問統計を表示する	39

最初のウェブサイトをセットアップする

ホスティングアカウントとドメイン名の準備ができれば、次の段階としてウェブサイトを作成することができます。ウェブサイトの作成には、主に次の2つの方法があります。

- ウェブデザイン会社にサイトの作成を依頼し、コンテンツのみ管理する。
- *Web Presence Builder* でサイトを自力で作成する。このツールを利用すれば、プロフェッショナルなウェブサイトをわずか数クリックで簡単に作成できます。詳しくは、「*Web Presence Builder* でウェブサイトを作成する」のセクション（17ページ）を参照してください。

サイトを注文し、コンテンツが既に手元にある場合は、いずれかの方法で Panel にコンテンツをアップロードします。

- *FTP 経由* でサイトにファイルをアップロードする。詳しくは、「*FTP 経由* でコンテンツをアップロードする」のセクション（1817ページ）を参照してください。
- *統合されたファイルマネージャ* でファイルをアップロードする。詳しくは、「*ファイルマネージャを使用する*」のセクション（1817ページ）を参照してください。

サイトの準備ができれば、ブラウザでサイトの外観を確認できます（2017ページ）。

完璧なサイトが完成しても、誰も見る人がいなければ効果がありません。そこで、デザイン作業が完了したら、サイトを有名検索エンジンに登録しましょう（2017ページ）。

1. サイトを作成する

ホスティングプランに *Web Presence Builder* によるウェブサイトの作成および管理サービスが含まれている場合は、*Web Presence Builder* を用いてウェブサイトを作成および管理できます。あるいは、家庭またはオフィスのコンピュータでサイトコンテンツ（サイトを構成するウェブページ、スクリプト、およびグラフィックファイル）を作成してから、次のいずれかの方法でコンテンツをサーバに公開することができます。

- *FTP 接続経由*（最も一般的で簡単な方法）。
- *コントロールパネルのファイルマネージャ経由*。
- *セキュアシェル接続経由*（Linux および FreeBSD オペレーティングシステムのユーザのみ）。
- *Adobe Dreamweaver* または *Microsoft FrontPage* ソフトウェア経由（Microsoft Windows オペレーティングシステムのユーザのみ）。

Web Presence Builder でウェブサイトを作成する

ホスティングサービスでオプションとして提供されている場合は、Web Presence Builder を使用してウェブサイトを作成し、公開することができます。

Web Presence Builder で公開されたサイトがホスティングサービスに含まれていない場合や、サイト公開数の上限に到達した場合でも、Web Presence Builder でウェブサイトを新規作成できます。この場合、Web Presence Builder のウェブサイト編集オプションをすべて使用することが可能です。このウェブサイトを公開するためには、ホスティングプランをアップグレードする必要があります。

Web Presence Builder は、HTML マークアップやグラフィックデザインのスキルがないユーザでもプロフェッショナルなサイトを作成できる便利なツールです。適切なページデザインとコンテンツテンプレートを選択し、ページにテキストを追加し、サイトを公開するだけです。

➤ **Web Presence Builder を使用してウェブサイトの作成を開始するには：**

1. [ホーム] タブまたは [ウェブサイトとドメイン] タブに進み、[Web Presence Builder を起動する] をクリックします。

構成されているドメイン名を1つだけの場合、Web Presence Builder は新しいウィンドウまたはタブで開きます。

2. 複数のドメイン名またはサブドメインがある場合、該当する [Web Presence Builder で編集する] リンクをクリックしてください。新しいブラウザウィンドウまたはタブにWeb Presence Builder ウィザードが開きます。

FTP 経由でコンテンツをアップロードする

➤ FTP 経由でウェブサイトを公開するには：

1. 自分のFTPアカウントのユーザ名とパスワードを使用して、FTPクライアントプログラムでサーバのウェブスペースに接続します。

Panel でユーザ名とパスワードを変更するには、[ウェブサイトとドメイン] タブで [ウェブホスティング設定] を選択します。

FTP アドレスは `ftp://your-domain-name.com` という形式 (`your-domain-name.com` はサイトのインターネットアドレス) にします。

ファイアウォールを使用している場合は、パッシブモードを有効にします。

2. サイトのファイルとディレクトリを `httpdocs` ディレクトリにアップロードします。CGIスクリプトを使用する場合、`cgi-bin` ディレクトリにスクリプトを置きます。
3. FTPセッションを終了します。

また、ウェブサイトコンテンツに関して他のユーザとコラボレーションする必要がある場合は、追加のFTPアカウントをセットアップすることもできます。詳しくは、「FTP アカウントを追加する」のセクションを参照してください。

ファイルマネージャを使用する

➤ Panel のファイルマネージャ経由でファイルをアップロードするには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、アカウントに関連付けられた複数のウェブスペースへのアクセス権がある場合は、画面上部にある [契約] メニューで必要なウェブスペースを選択してください。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブをクリックします。
3. [ファイルマネージャ] をクリックします。
4. ファイルまたはディレクトリを作成し、アップロードします。

サイトのファイルとディレクトリを `httpdocs` ディレクトリに置きます。CGIスクリプトを使用する場合、`cgi-bin` ディレクトリにスクリプトを置きます。

- コンピュータからファイルをアップロードするには、[新しいファイルを追加する] をクリックし、[参照] ボタンをクリックしてファイルを探すか、[ファイルへのパス] ボックスでファイルのパスを指定してから [OK] をクリックします。

- サーバに ZIP アーカイブをアップロードしてコンテンツを抽出するには、**【新しいファイルを追加する】** をクリックし、**【参照】** ボタンをクリックしてアーカイブファイルを見つけ、**【OK】** をクリックしてください。ファイルのアップロード後、左側のチェックボックスをオンにして、**【ファイルの抽出】** をクリックしてください。
- 現在のディレクトリ内に新しいディレクトリを作成するには、**【新しいディレクトリを追加】** をクリックします。
- 必要なディレクトリに新しいファイルを作成するには、**【新しいファイルを追加する】** をクリックします。**【ファイルを作成する】** オプションをオンにしてファイル名を指定し、（ファイルマネージャで新しいファイルに基本的な HTML タグを挿入する場合は）**【HTML テンプレートを使用する】** チェックボックスをオンにして、**【OK】** をクリックします。新しいページが開くので、ここで新しいファイルのコンテンツまたは HTML 形式のソースを入力します。終了したら **【OK】** をクリックします。
- ZIP アーカイブにファイルを追加するには、パックしたいファイルを選択して **【アーカイブに追加】** をクリックし、アーカイブファイルの名前を指定してください。

ウェブコンテンツをファイルマネージャまたは FTP 経由でアップロードすると、Panel はファイルやディレクトリに対して適切なアクセスパーミッションを自動的に設定します。Linux ベースのサーバでは、パーミッションを「`rw-rw-r--`」のように 3 セットの文字組み合わせで表現します。1 番目のセットはファイルまたはディレクトリの所有者がどのような権限を持つかを示し、2 番目のセットはファイルまたはディレクトリが属するユーザグループと、そのグループがファイルまたはディレクトリに対して持つ権限を示し、3 番目のセットは、他のユーザ（そのサイトを訪問したインターネットユーザなど）がファイルまたはディレクトリに対して持つ権限を示します。「`R`」はファイルまたはディレクトリの読み取り、「`W`」はファイルまたはディレクトリへの書き込み、「`X`」はファイルの実行またはディレクトリ内の閲覧を許可するパーミッションです。

Linux ベースのホスティングアカウントでファイルまたはディレクトリのパーミッションを変更するには、**【パーミッション】** 列でパーミッションのセットを示すハイパーリンクをクリックします。Windows ベースのホスティングアカウントを使用している場合、 アイコンをクリックしてください。必要に応じてパーミッションを変更して **【OK】** をクリックします。

ファイルのソースコードを編集するには、 をクリックします。

ビルトインの Visual Editor でウェブページを編集するには（Microsoft Internet Explorer ユーザのみ可能）、 をクリックします。HTML ファイルの編集時には、デフォルトで内部 WYSIWYG エディタが開きます。HTML ファイルのソースコードを編集するには、**【HTML】** をクリックします。WYSIWYG モードに戻るには、**【デザイン】** をクリックします。

ファイルを表示するには  をクリックします。

ディレクトリまたはファイルの名前を変更するには  をクリックします。ここで新しい名前を入力して **【OK】** をクリックします。

ディレクトリやファイルを新しい場所にコピーまたは移動するには、対応するチェックボックスで必要なディレクトリやファイルを選択し、**[コピー/移動]** アイコンをクリックします。コピーまたは名称変更するディレクトリやファイルのコピー先または移動先を指定し、コピーをする場合は **[コピー]** を、移動する場合は **[移動]** をクリックします。

ディレクトリまたはファイルの作成日を更新するには、**[タイムスタンプの変更]** をクリックします。タイムスタンプが現在のローカルタイムで更新されます。

ファイルをダウンロードするには、対応するアイコン  をクリックします。

ファイルまたはディレクトリを削除するには、対応するチェックボックスを選択し、**[削除]** をクリックします。削除を確認して **[OK]** をクリックします。

2. サイトをプレビューする

ウェブサイトファイルをウェブスペースにアップロードすると、新しいサイトに関する情報がドメインネームシステムにまだ反映されていなくても、ウェブブラウザでどのように表示されるのかを確認することができます。

➤ **サイトをプレビューするには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、アカウントに関連付けられた複数のウェブスペースへのアクセス権がある場合は、画面上部にある **[契約]** メニューで必要なウェブスペースを選択してください。
2. **[ウェブサイトとドメイン]** タブをクリックします。
3. 画面下にあるドメイン名のリストで、プレビュー対象のウェブサイトを探し、対応するアイコン  をクリックします。

新しいブラウザウィンドウにサイトが表示されます。

注： Web Presence Builder で作成したサイトの場合、サイトページへの保護アクセスがプレビューモードで正しく機能しない場合があります。

ドメイン名が未登録であっても、他のユーザにサイトを見せる必要がある場合があります。このユーザに貴社のホスティングアカウントへのアクセスを付与することなくこれを実現するには、いくつかの方法があります。詳しくは、「**ウェブサイトをプレビューする**」のセクション（10617ページ）を参照してください。

3. サイトを検索エンジンに登録する

サイト訪問者を増やし、サイトへのトラフィックを拡大するためには、サイトをインターネットで公開した後で検索エンジンに登録する必要があります。

検索結果で上位にランキングされるようにするためには、次のようにウェブページを最適化します。

- ウェブページに含まれるテキストに、検索でよく使用され、サイトのトピックに関連するキーワードフレーズを含める。たとえば、製品名や興味のあるトピックを、ウェブページのテキストで何度も言及します。
- <title> タグと <meta> タグに関連キーワードを追加する。一部の検索エンジンは、ウェブページのメタタグに含まれるキーワードや説明を検索し、これらのキーワードを検索結果に含めます。

たとえば、ホスティング自動化ソフトウェアを販売している場合、ウェブサイトの HTML ページに次のようなタグを使用すると良いでしょう。

```
<HEAD>
<TITLE>ホスティング自動化ソフトウェアのご注文
</TITLE>
<META name="keywords" content="注文,ホスティング,ソフトウェア">
<META name="description" content="ホスティング自動化ソフトウェアの注文">
</HEAD>
```

キーワードは、スペースなしでコンマで区切ります。

ウェブサイトを最適化し、ホスティングアカウントに対して公開してから、Google、Yahoo、Bing、その他の各国で人気がある検索エンジンに登録してください。

- Google にサイトを登録するには : <http://www.google.com/addurl/>
- Yahoo にサイトを登録するには : <https://siteexplorer.search.yahoo.com/submit>
- Bing にサイトを登録するには : <http://www.bing.com/webmaster/SubmitSitePage.aspx>

メールアカウントをセットアップする

ウェブサイトの準備が完了したら、メール機能を構成することができます。従業員 1 人 1 人に個別のアカウントを作成するなど、複数のメールアカウントを作成することができます。メールボックスの数とサイズは、ホスティングプランに応じて制限されます。

1. ユーザアカウントを作成する

➤ **メールアドレスを作成するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [メール] タブをクリックします。
3. [メールアドレスの作成] をクリックします。
4. メールアドレスの @ 記号の左側部分を入力し、（アカウントに複数のドメイン名がある場合は）メールアドレスを作成するドメイン名を選択します。
5. [メールボックス] チェックボックスはオンにしておきます。
このチェックボックスは、受信メールを他のアドレスに転送するメールフォワーダとしてこのアドレスを使用する場合に限ってオフにしてください。
6. メールボックスのサイズを指定するか、プロバイダのポリシーまたはサービスプランに定義されているデフォルトサイズを使用します。
7. 半角アルファベット5文字以上から成るパスワードを入力します。
8. [OK] をクリックします。

2. メールボックスにアクセスする

メールを送受信するためにメールボックスにアクセスするには、以下の2つの方法があります。

- コンピュータにメールクライアントプログラムをセットアップして使用する。
- ウェブブラウザを使用してウェブメールインターフェースに接続する。ウェブメールのインターフェースは、デフォルトでインストールされている Horde IMP ウェブメールソフトウェアです。デフォルトの Horde IMP ウェブメールを使用することも、Atmail Webmail Lite ソフトウェアをインストールすることもできます。

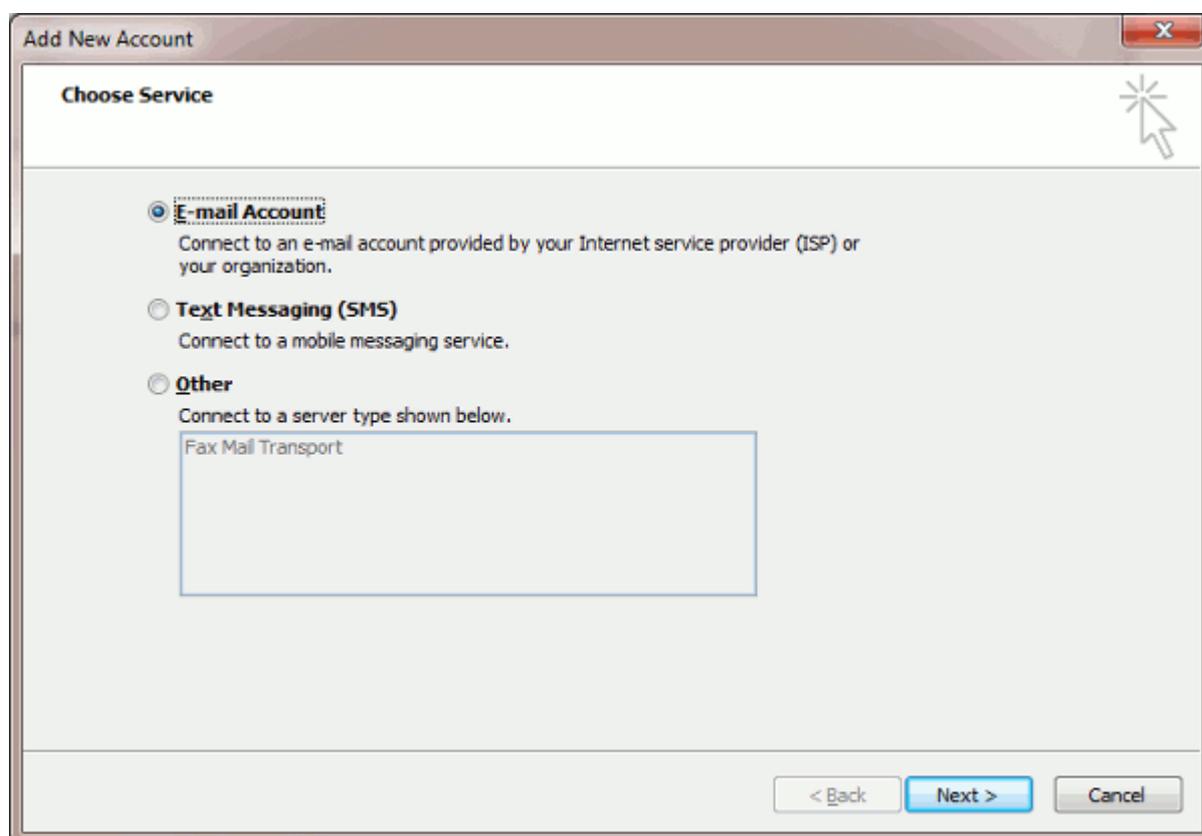
ウェブメールからのアクセス

- **ウェブメール経由でメールボックスにアクセスするには、以下のいずれかを実行します。**
 - ウェブブラウザで「webmail.example.com」という URL にアクセスします（「example.com」は貴社ウェブサイトのインターネットアドレスです）。プロンプトが表示されたら、ユーザ名としてメールアドレス全体を入力して（「mail@example.com」など）、Panel へのログインに使用するパスワードを入力します。
 - Panel にログインしたら [メール] タブをクリックして、メールアドレスのリストから該当のメールアドレスに対応する  アイコンをクリックします。

Microsoft Office Outlook からのアクセス

➤ *Microsoft Office Outlook 2010 をセットアップするには :*

1. Microsoft Office Outlookを開きます。
2. [ファイル] > [情報] > [アカウント設定] に進みます。
3. [メール] タブで [新規] をクリックします。
4. [電子メール アカウント] オプションはオンのままにしてください。 [次へ] をクリックします。



5. [サーバー設定または追加のサーバーの種類を手動で構成する] チェックボックスをオンにします。[次へ] をクリックします。

Add New Account

Auto Account Setup
Connect to other server types.

E-mail Account

Your Name:
Example: Ellen Adams

E-mail Address:
Example: ellen@contoso.com

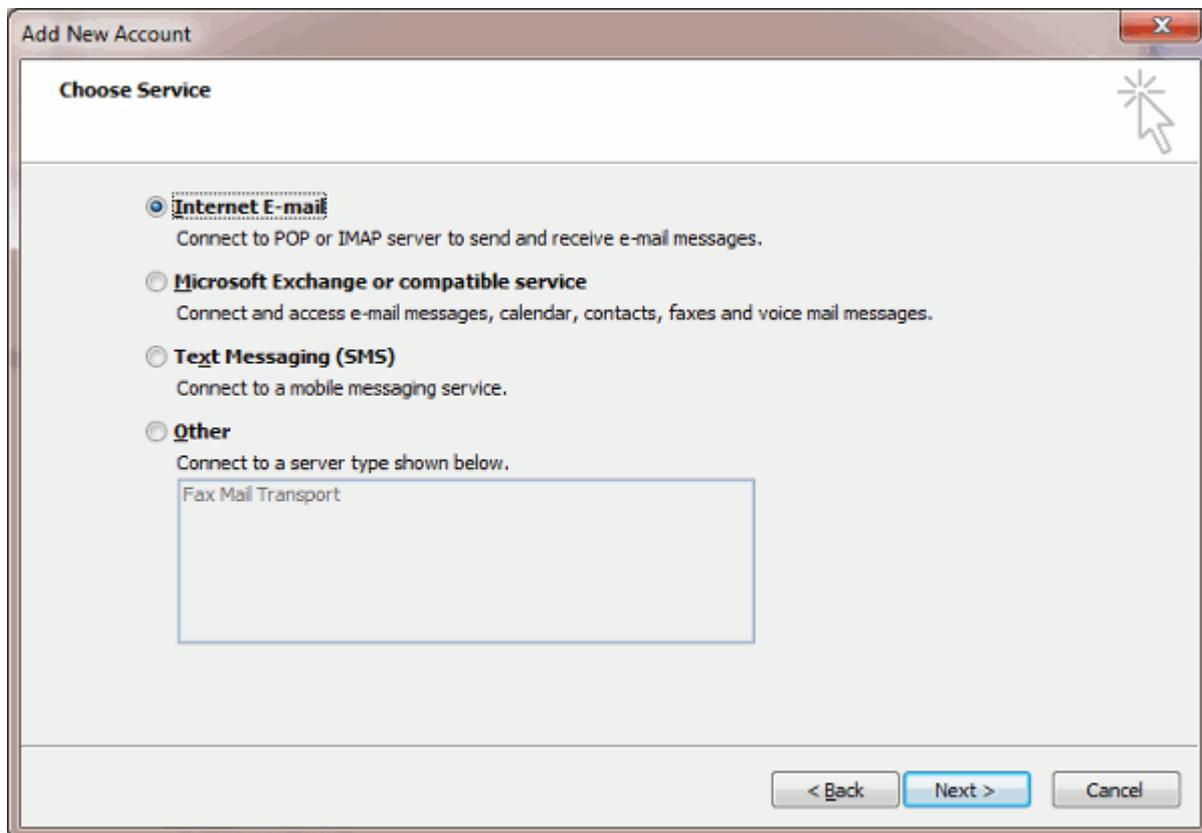
Password:
Retype Password:
Type the password your Internet service provider has given you.

Text Messaging (SMS)

Manually configure server settings or additional server types

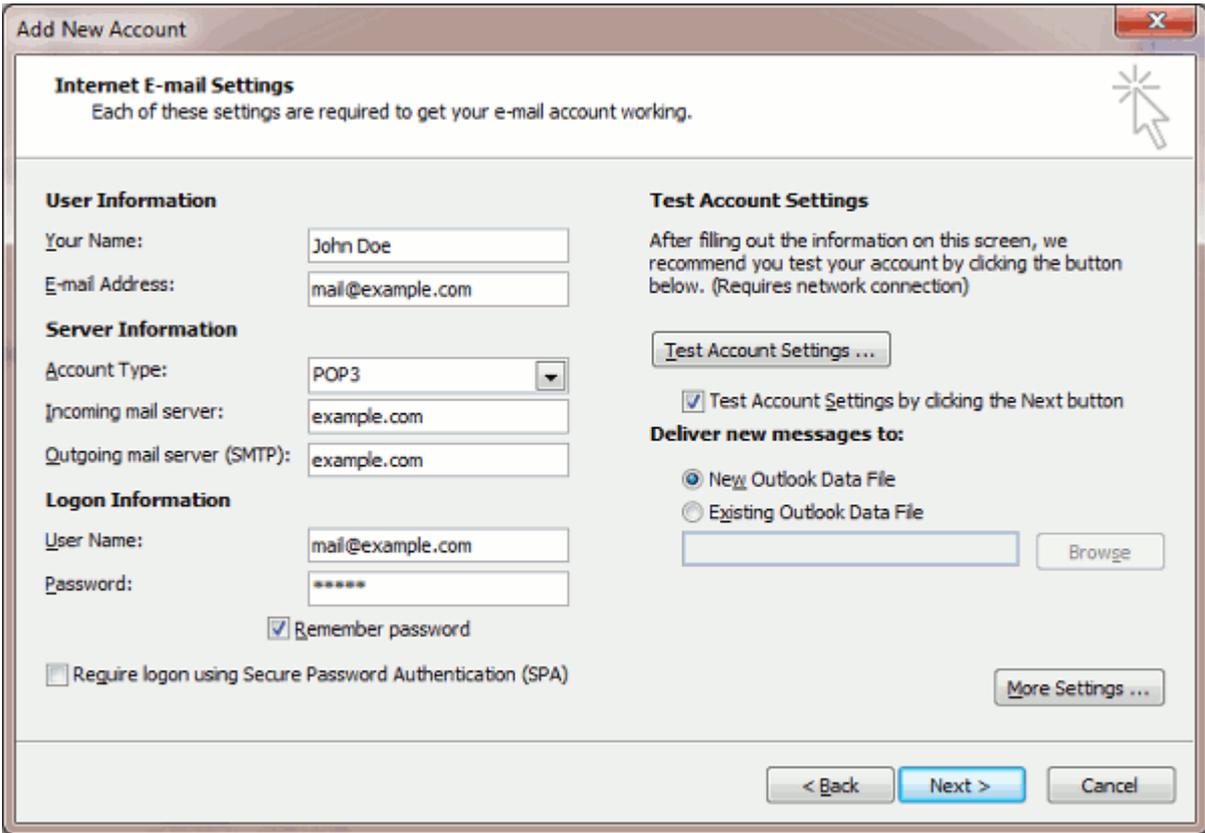
< Back Next > Cancel

6. [インターネット電子メール] オプションを選択して [次へ] をクリックします。



7. 以下を指定します。

- 名前。
- メールアドレス。
- アカウントタイプ。メッセージのコピーをサーバに残したい場合は、IMAP オプションを選択します。サーバにメッセージを残したくない場合は、POP3 オプションを選択します。IMAP を選択した場合、SpamAssassin がサーバで有効であれば、受信メールメッセージの SpamAssassin スпамフィルタに学習させることもできます。
- 受信メールサーバ。ドメイン名を入力します。例えば「example.com」のように入力します。
- 送信メールサーバ。ドメイン名を入力します。例えば「example.com」のように入力します。
- メールボックスにログインするためのユーザ名。メールアドレス全体を指定してください。
- メールボックスにログインするためのパスワード。通常、このパスワードは Panel にログインするときのパスワードと同じです。



The screenshot shows a window titled "Add New Account" with a close button (X) in the top right corner. Below the title bar, there is a section for "Internet E-mail Settings" with a sub-header "Each of these settings are required to get your e-mail account working." and a help icon (a star with a mouse cursor). The settings are organized into several sections:

- User Information:** "Your Name:" (John Doe) and "E-mail Address:" (mail@example.com).
- Server Information:** "Account Type:" (POP3), "Incoming mail server:" (example.com), and "Outgoing mail server (SMTP):" (example.com).
- Logon Information:** "User Name:" (mail@example.com), "Password:" (masked with asterisks), a checked "Remember password" checkbox, and an unchecked "Require logon using Secure Password Authentication (SPA)" checkbox.
- Test Account Settings:** A "Test Account Settings ..." button, a checked checkbox "Test Account Settings by clicking the Next button", and a note: "After filling out the information on this screen, we recommend you test your account by clicking the button below. (Requires network connection)".
- Deliver new messages to:** Radio buttons for "New Outlook Data File" (selected) and "Existing Outlook Data File", followed by a text input field and a "Browse" button.

At the bottom of the window, there are three buttons: "< Back", "Next >" (highlighted in blue), and "Cancel". A "More Settings ..." button is also present in the bottom right area.

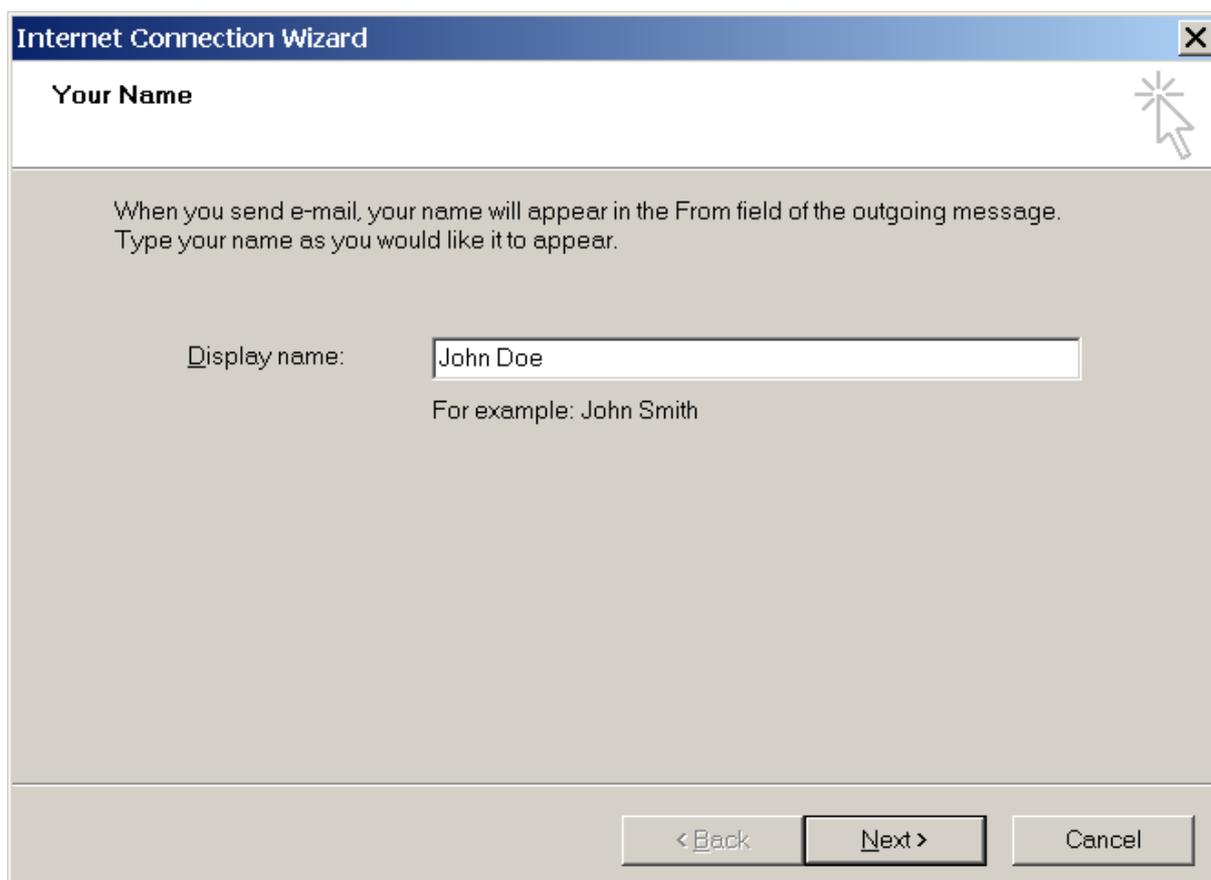
8. [次へ] をクリックします。
9. [終了] をクリックします。

Microsoft Outlook Express からのアクセス

このセクションの内容は、Microsoft Outlook Express 6 に対して検証されており、これより前または後のバージョンの Microsoft Outlook Express では該当しない場合があります。

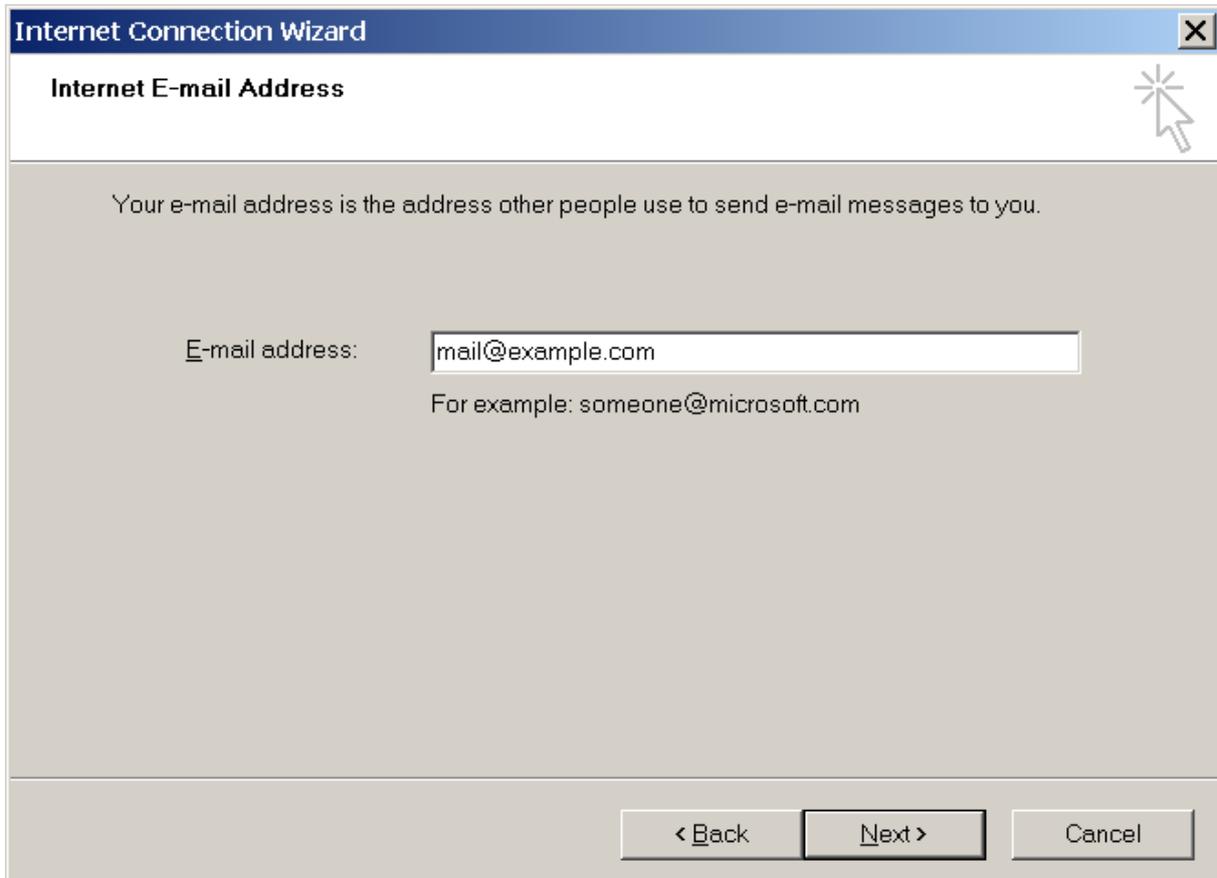
➤ *Microsoft Outlook Express をセットアップするには :*

1. Microsoft Outlook Express を開きます。
2. [ツール] > [アカウント] に進みます。
3. [追加] ボタンをクリックし、[メール] 項目を選択します。
4. 送信する全てのメッセージに表示される名前を入力し、[次へ] をクリックします。



The screenshot shows a window titled "Internet Connection Wizard" with a close button (X) in the top right corner. The main area is titled "Your Name" and contains the following text: "When you send e-mail, your name will appear in the From field of the outgoing message. Type your name as you would like it to appear." Below this text is a text input field labeled "Display name:" containing the text "John Doe". Underneath the input field, it says "For example: John Smith". At the bottom of the window, there are three buttons: "< Back", "Next >", and "Cancel".

5. メールアドレスを入力して [次へ] をクリックします。



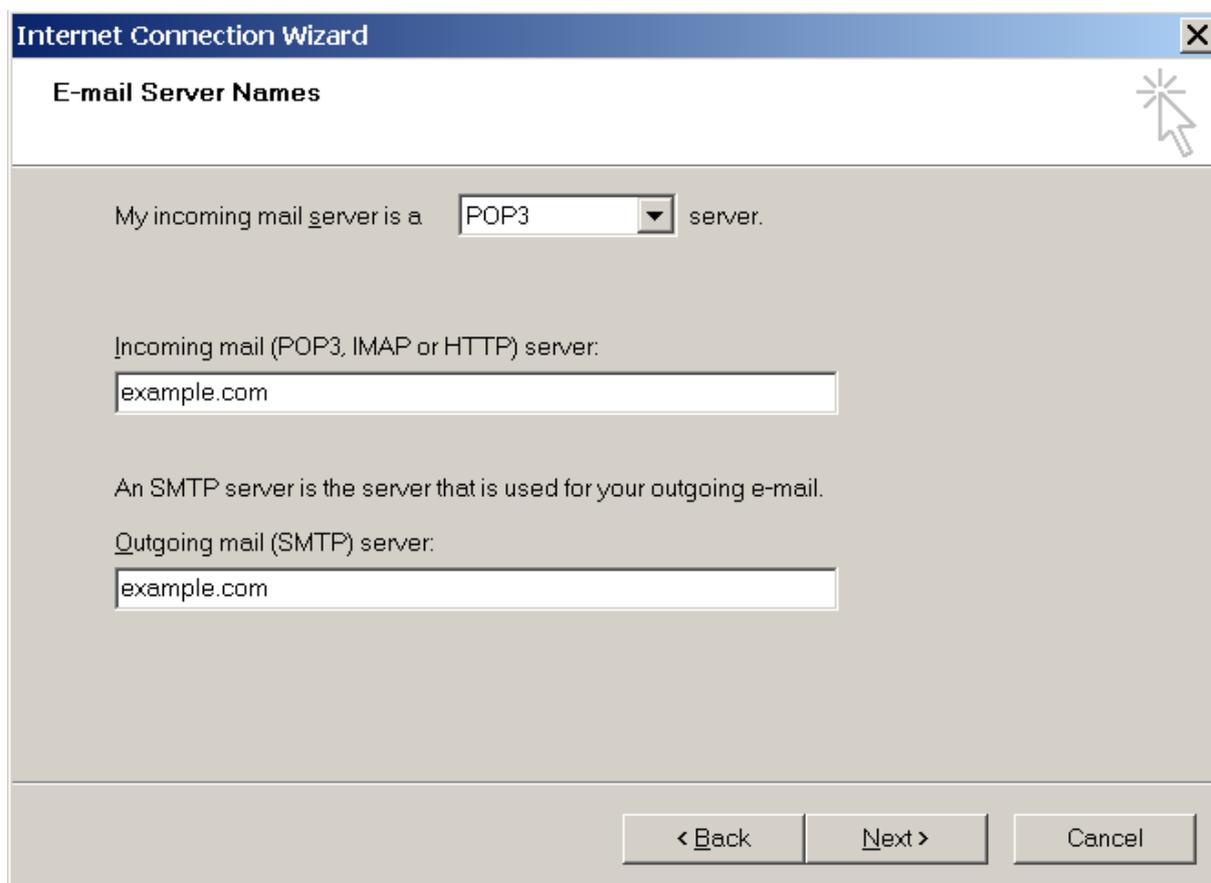
The screenshot shows a dialog box titled "Internet Connection Wizard" with a close button (X) in the top right corner. The main title of the dialog is "Internet E-mail Address". Below the title, there is a mouse cursor icon. The main content area contains the text: "Your e-mail address is the address other people use to send e-mail messages to you." Below this text, there is a label "E-mail address:" followed by a text input field containing "mail@example.com". Underneath the input field, there is a hint text: "For example: someone@microsoft.com". At the bottom of the dialog, there are three buttons: "< Back", "Next >", and "Cancel".

6. 以下の設定を指定します。

- 受信メールサーバのプロトコル。

メッセージのコピーをサーバに残したい場合は、IMAP オプションを選択します。サーバにメッセージを残したくない場合は、POP3 オプションを選択します。IMAP を選択した場合、SpamAssassin がサーバで有効であれば、受信メールメッセージの SpamAssassin スпамフィルタに学習させることもできます。

- 受信メールサーバ。ウェブサイトのインターネットアドレスを指定します。
- 送信メールサーバ。ウェブサイトのインターネットアドレスを指定します。



The screenshot shows a window titled "Internet Connection Wizard" with a close button (X) in the top right corner. The main title of the window is "E-mail Server Names".

The first section contains the text: "My incoming mail server is a server." The dropdown menu is currently set to "POP3".

The second section is labeled "Incoming mail (POP3, IMAP or HTTP) server:" and has a text input field containing "example.com".

The third section is labeled "An SMTP server is the server that is used for your outgoing e-mail." and "Outgoing mail (SMTP) server:". It has a text input field containing "example.com".

At the bottom of the window, there are three buttons: "< Back", "Next >", and "Cancel".

7. [次へ] をクリックします。

8. 以下を指定します。

- アカウント名。[アカウント名] ボックスにメールアドレスを入力します。
- パスワード。通常、このパスワードは Panel にログインするときのパスワードと同じです。
- [パスワードを保存する] チェックボックス。メールプログラムがメールサーバに接続して到着メールをチェックするたびにパスワードの入力が要求されないようにするには、このチェックボックスをオンにして [次へ] をクリックします。

Internet Connection Wizard

Internet Mail Logon

Type the account name and password your Internet service provider has given you.

Account name: mail@example.com

Password: ●●●●●●

Remember password

If your Internet service provider requires you to use Secure Password Authentication (SPA) to access your mail account, select the 'Log On Using Secure Password Authentication (SPA)' check box.

Log on using Secure Password Authentication (SPA)

< Back Next > Cancel

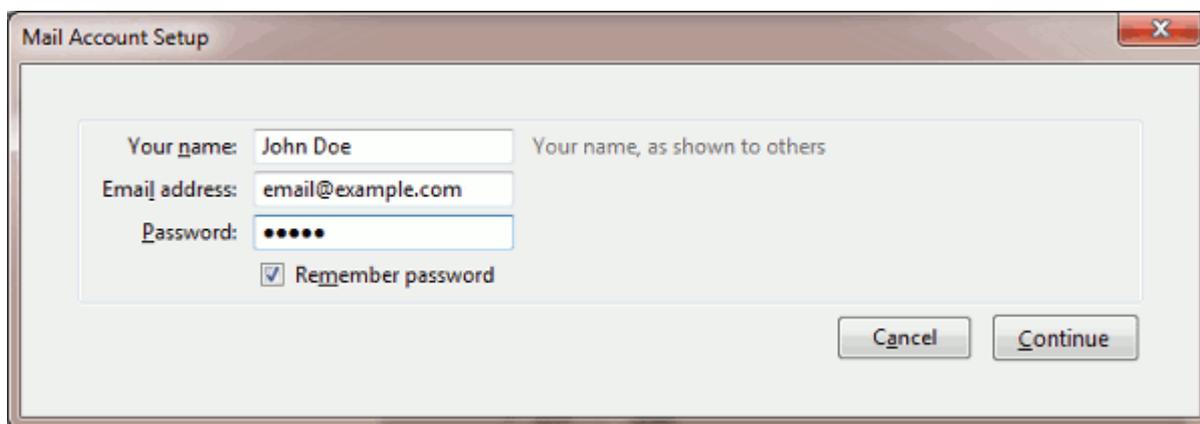
9. メールプログラムのセットアップを終了する場合は、[完了] をクリックします。

Mozilla Thunderbird からのアクセス

このセクションの内容は、Mozilla Thunderbird 3 に対して検証されており、これより前または後のバージョンの Mozilla Thunderbird では該当しない場合があります。

➤ *Mozilla Thunderbird をセットアップするには :*

1. Mozilla Thunderbirdを開きます。
2. [ファイル] > [新規] > [メールアカウント] に進みます。
3. 以下を指定します。
 - 名前（送信するすべてのメッセージに表示されます）。
 - メールアドレスとパスワード。



Mail Account Setup

Your name: John Doe Your name, as shown to others

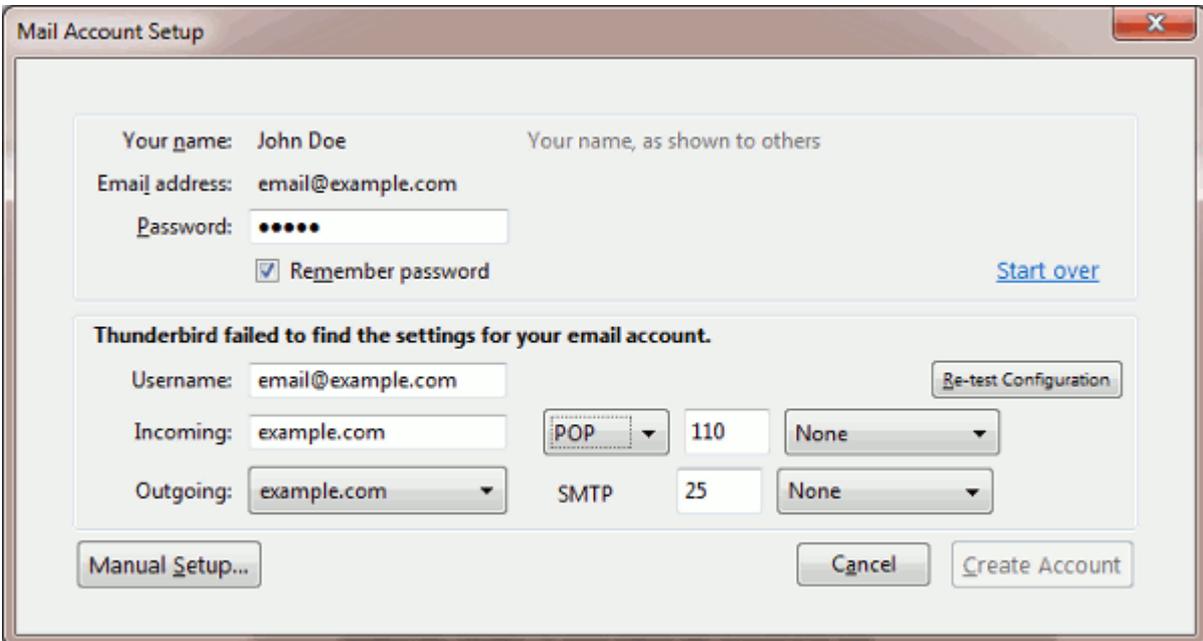
Email address: email@example.com

Password: ●●●●

Remember password

Cancel Continue

4. [続ける] をクリックします。
5. Thunderbirdが設定を自動検索できなかった場合、以下を指定してください。
 - 受信メールサーバのプロトコル。
メッセージのコピーをサーバに残したい場合は、IMAP オプションを選択します。サーバにメッセージを残したくない場合は、POP3 オプションを選択します。IMAP を選択した場合、SpamAssassin がサーバで有効であれば、受信メールメッセージのSpamAssassin スпамフィルタに学習させることもできます。
 - 受信サーバアドレス。ウェブサイトのインターネットアドレスを指定します。
 - 送信サーバアドレス。ウェブサイトのインターネットアドレスを指定します。



Mail Account Setup

Your name: John Doe Your name, as shown to others

Email address: email@example.com

Password: ●●●●

Remember password [Start over](#)

Thunderbird failed to find the settings for your email account.

Username: email@example.com [Re-test Configuration](#)

Incoming: example.com POP 110 None

Outgoing: example.com SMTP 25 None

[Manual Setup...](#) [Cancel](#) [Create Account](#)

6. [アカウントの作成] をクリックします。

Apple Mail からのアクセス

このセクションでは、Apple Mail 3.6 (Leopard) について説明します。他のバージョンの Apple Mail には該当しない場合があります。

➤ *Apple Mail* をセットアップするには :

1. Apple Mail を実行します。

これが初めての実行で、まだメールアカウントを設定していない場合は、次のステップはスキップします。代わりに、メールアカウントの新規作成用の画面が表示されます。

2. メールアカウントの追加ウィザードを開きます。

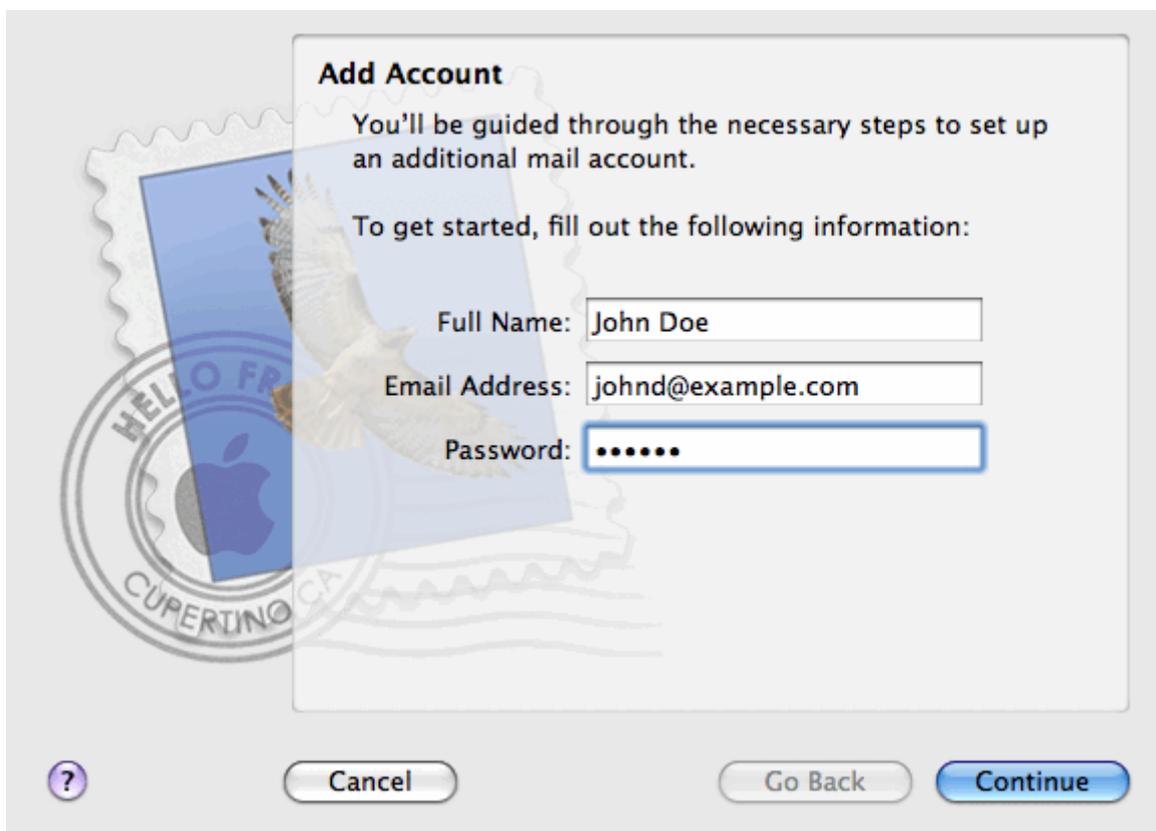
a. [Mail] > [環境設定...] をクリックします。

b. [アカウント] タブを選択します。

c. 左下隅の [+] ボタンをクリックします。

3. 以下のアカウント情報を入力します。

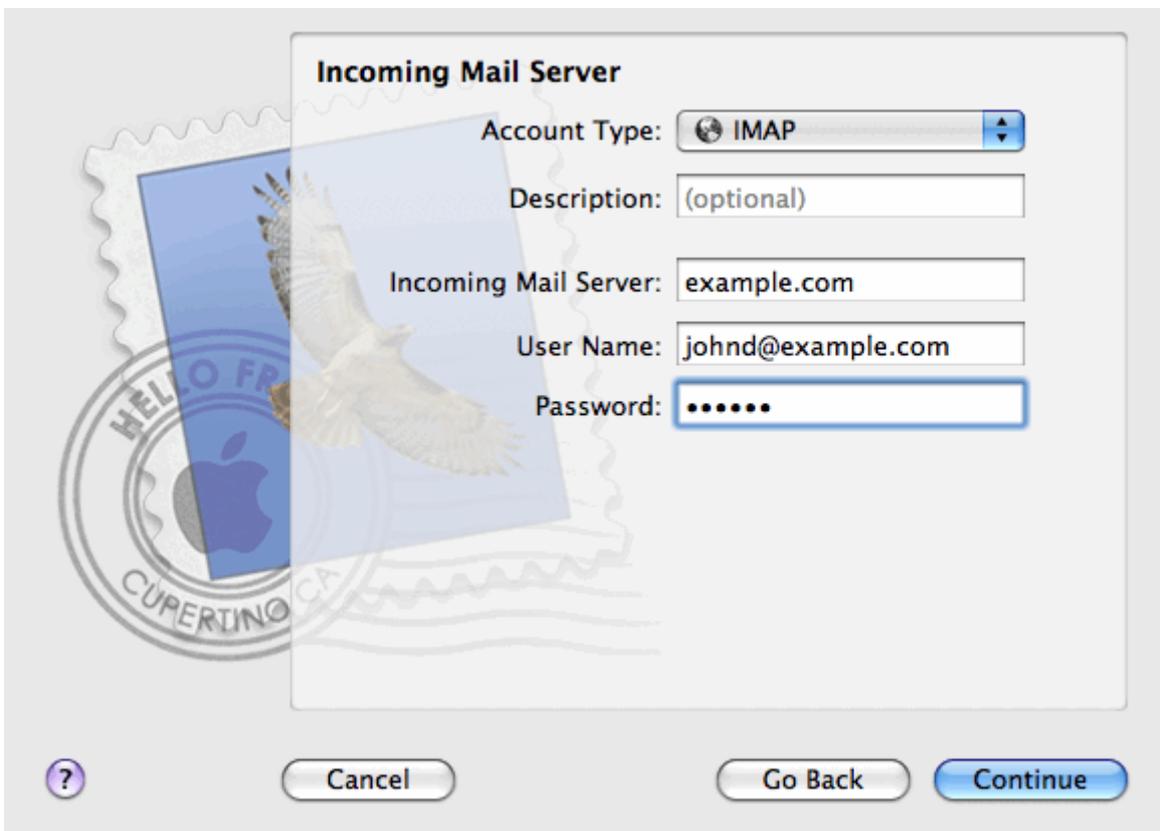
- 氏名
- メールアドレス
- Panel にログインするときのパスワード



4. [続ける] をクリックします。

5. 以下の受信用メールサーバ情報を入力します。

- **アカウントの種類**：使用するプロトコルを選択します（IMAP または POP）。
スパムフィルタリングのソリューションに SpamAssassin を使用する場合は、IMAP を選択することをお勧めします。IMAP アカウントは、SpamAssassin がスパムメッセージと通常メッセージを学習するために必要です。
- **受信用メールサーバ**：メールサービスを提供するドメインの名前を入力します（メールアドレスの @ 記号の右側）。
- **ユーザ名**：メールアドレス全体を入力します。
- **パスワード**：そのままにします（Apple Mail が前のステップから取得します）。



Incoming Mail Server

Account Type:

Description:

Incoming Mail Server:

User Name:

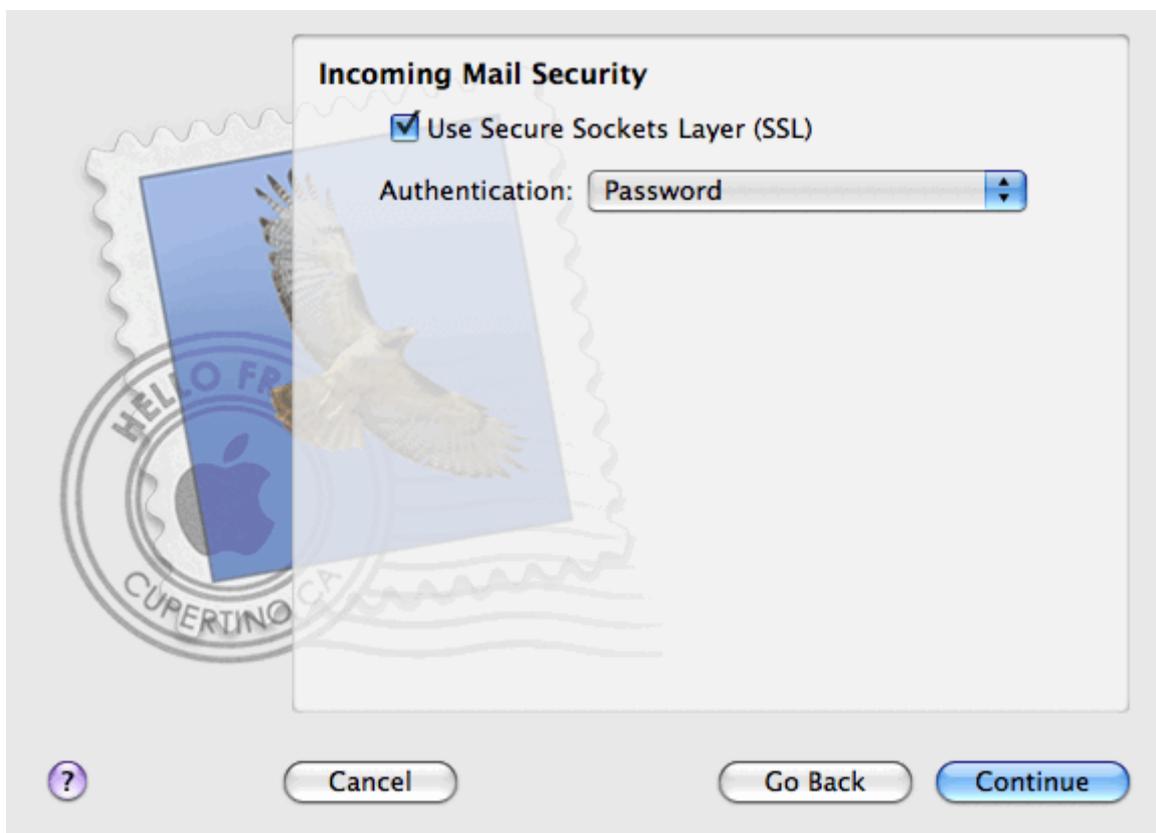
Password:

? Cancel Go Back Continue

6. **【続ける】** をクリックします。
7. (オプション) 受信メールのセキュリティオプションを指定します。
 - a. **【SSL (Secure Sockets Layer) を使用】** チェックボックスをオンにします。
 - b. 認証方法を選択します。

どれを選択すべきか分からない場合は、デフォルトのままにしてください。

Parallels Small Business Panel に組み込まれているメールサーバが、選択した種類のアカウント (POP または IMAP) に対して SSL をサポートする場合にのみ、この設定画面が表示されます。



8. [続ける] をクリックします。

9. 以下の送信用メールサーバ情報を入力します。

- **送信用メールサーバ**：メールサービスを提供するドメインの名前を入力します（メールアドレスの @ 記号の右側）。
- **このサーバのみを使用**：オンにします。
- **認証を使用**：オンにします。
- **ユーザ名**：メールアドレス全体を入力します。
- **パスワード**：そのままにします（Apple Mail が前のステップから取得します）。

Outgoing Mail Server

Description: (optional)

Outgoing Mail Server: example.com

Use only this server

Use Authentication

User Name: johnd@example.com

Password:

? Cancel Go Back Continue

10. [続ける] をクリックします。

作成されるメールアカウントの概要が表示されます。

11. [アカウントをオンラインにする] チェックボックスをオンにして、[作成] をクリックします。



サイト訪問統計を表示する

サイトが適切に機能するようになり、検索エンジンで検索結果が適切に表示されるようになったら、訪問統計を利用してサイトの効率を評価するとよいでしょう。

➤ **サイトの訪問者数、訪問者の国、および閲覧ページを調べるには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある **[契約]** メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. **[ウェブサイトとドメイン]** タブで **[ウェブ統計]** に進みます。
新しいブラウザウィンドウが開き、サイト訪問の統計が表示されます。
3. サイト内のSSLで保護されたエリアで閲覧されたウェブページの統計を表示するには、メニューの **[SSLウェブ統計]** を選択します。
4. FTP経由でダウンロードしたファイルの統計を表示するには、メニューの **[FTP統計]** を選択します。

あるいは、URL: <https://your-domain.com/plesk-stat/webstat> を指定して、サイトの訪問統計を確認できます。ユーザ名とパスワードの入力画面が表示されたら、FTPアカウントのユーザ名とパスワードを指定します。

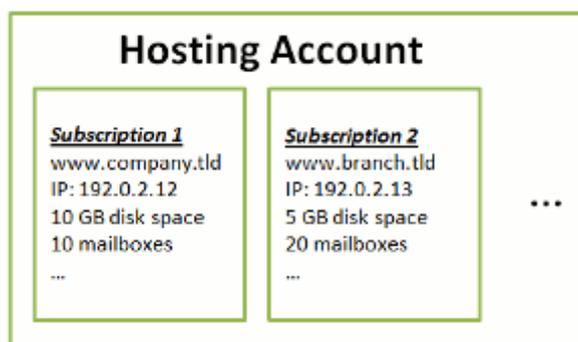
第 4 章

ホスティングアカウントの管理

「Parallels Panel クイックスタート」のセクション（1517ページ）で説明したように、企業ウェブサイトを構築する最初の一步はホスティングアカウントの購入、つまりホスティングプランの契約です。ホスティングアカウントは、ホスティングサービスおよびリソース（メールボックス、ディスク領域、月単位の帯域幅など）へのアクセスを可能にし、期間と設定がそれぞれ定められています。

ホスティングアカウントと複数契約

Panel では、必要に応じて好きな数のホスティングプランを契約できます。メインサイトのホスティングリソースを支店のサイトと共用したくない場合、新たなホスティングプランを契約することができます。新しい契約は、同じホスティングアカウント下で利用可能になります。つまり、ホスティングアカウントには、すべての契約へのアクセスが個別に設定されています（下の図を参照してください）。



複数の契約を使用するもう1つの理由に、1つの契約ではIPv4アドレスとIPv6アドレスを1つずつしか使用できないということがあります。つまり、1つの契約内のすべてのドメインが同じIP（IPv4またはIPv6）を共用することになります。異なるIPアドレスでサイトをホスティングする必要がある場合、必要なIPアドレスの数だけ、同じプランを追加注文する必要があります。これは、各サイトを別々のSSL証明書で保護する場合などに便利です。追加の契約の購入方法については、「[追加のリソースを注文する](#)」のセクション（5417ページ）を参照してください。

単一のホスティングアカウント下に複数の契約がある場合、**[アカウント]** タブで簡単に契約を切り替えることができます。より詳しく説明すると、**[アカウント]** タブにあるアクションは、**すべての契約**に適用されます。一方、他のすべてのタブ（**[メール]**、**[ユーザ]**、**[ドメインとウェブサイト]**）は、1つの契約が対象となります。つまり、特定の契約のメール設定を変更するには、**まずこの契約に切り替えてから**、**[メール]** をクリックします。

契約にリソースを追加する

ホスティングリソースを拡張するために、必ずしも新しい契約を購入する必要はありません。複数の契約から1つだけ選んで拡張することが可能です（SSLサポートの追加やディスク領域の増強など）。これには、他のホスティングプランに切り替えるか、ホスティングプランのアドオンを購入します。詳しくは、「[追加のリソースを注文する](#)」のセクション（5417ページ）を参照してください。

ホスティングアカウントを管理する

Panel では、ホスティングアカウントの管理のために、以下のようなオペレーションを実行できます。

- パスワードや個人情報を変更する。詳しくは、「[パスワードと連絡先情報を変更する](#)」セクション（4317ページ）を参照してください。
- **[アカウント]** タブで、契約で提供されているサービスとリソースのリストを確認する。契約に関するすべての機能については、「[アカウント情報を表示する](#)」のセクション（4417ページ）を参照してください。
- 契約更新のために支払いを行う。詳しくは「[アカウント残高と請求書を管理する](#)」のセクション（5217ページ）を参照してください。
- アカウントの統計を参照する。ディスク領域やトラフィック使用量などについての統計を提供します。詳しくは、「[統計を表示する](#)」のセクション（5617ページ）を参照してください。

他のユーザが自分のアカウントにアクセスできるようにする

ホスティングメンテナンス作業が多く、1人で行うのが困難であれば、一部を他のユーザに委託することができます。このために、補助ユーザアカウントを作成し、ユーザの役割ごとにグループ分けすることができます。たとえば、ウェブサイトにコンテンツをアップロードする作業のみが許可されたグループを作成できます。このグループのユーザは、サイトコンテンツの管理を除くいかなるオペレーションも実行できません。補助ユーザについて詳しくは、「(高度)ホスティングアカウントへのアクセスを構成する」のセクション(5817ページ)を参照してください。

この章の内容:

パスワードおよび連絡先情報を変更する	43
アカウント情報を表示する	44
アカウント残高と請求書を管理する	52
追加のリソースを注文する	54
統計を表示する	56
(高度)ホスティングアカウントへのアクセスを構成する	58

パスワードおよび連絡先情報を変更する

- **コントロールパネルへのアクセス用のパスワードを変更するには：**
 1. 画面上部で、自分の名前のリンクをクリックします。
 2. 新しいパスワードを入力し [OK] をクリックします。

- **ウェブスペースへの接続に使用するユーザ名またはパスワードを変更するには：**
 1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、アカウントに関連付けられた複数のウェブスペースに対するアクセスが許可されている場合は、画面上部にある [契約] メニューで必要なウェブスペースを選択してください。
 2. [ウェブサイトとドメイン] タブをクリックします。
 3. [ウェブホスティング設定] をクリックします。
 4. 新しいユーザ名またはパスワードを入力し、[OK] をクリックします。

- **連絡先情報を変更するには：**
 1. 画面上部で、自分の名前のリンクをクリックします。
 2. [連絡先の詳細] タブをクリックします。
 3. 連絡先情報を更新し、[OK] をクリックします。

アカウント情報を表示する

ホスティングサービスの契約をすると、Panel にユーザアカウントが作成され、自分のウェブサイトとメールボックスを管理できるようになります。

閲覧可能なアカウント情報は以下のとおりです。

- サービスプランに対する現在の契約。
一度に複数のサービスプランを契約できるため、自分のアカウントに複数の契約が関連付けられている場合もあります。Panel に課金システムが統合されている場合、このシステムを使用して、契約の追加購入、契約のアップグレード/ダウングレード、および請求額の支払いが可能です。
- 割り当て済みリソースおよび使用済みリソース。
- ウェブサイトで使用できるホスティング機能。
- Panel で実行可能な操作。
- 勘定残高、未払い請求書、ホスティングパッケージの月額使用料。

➤ アカウントと現在の契約に関する情報を表示するには：

1. [アカウント] タブをクリックします。
現在の契約のリストが表示されます。
2. Panel に課金システムを統合している場合、次の情報が表示されます。
 - **口座残高**：課金口座に残っている残高です。
 - **未払い請求書の残高**：プロバイダに支払う必要がある金額です。ここで、[すべて支払う] をクリックしてすべての請求書を支払うことや、[未払い請求書をすべて支払う] というリストで [今すぐ支払う] リンクをクリックしていずれかの請求書を支払うことができます。また、[すべての請求書を表示する] リンクをクリックしてすべての請求書を表示することや、請求書番号に続いて [プリント] をクリックして任意の請求書を印刷することができます。
 - **最新の To-do アイテム**：行うべきアクションに関するシステムからのリマインダが表示されます。
 - **すべての契約のリスト**：リスト内のリンクを使用して、次の操作を実行できます。
 - 契約名のリンクをクリックして、契約のプロパティを表示する。
 - 対応する [契約に切り替え] リンクをクリックして、コントロールパネルで管理する契約を選択する。
 - [SSL 証明書をリクエストする] をクリックして、サイト用の SSL 証明書を注文する。このオペレーションについては、「SSL 証明書を注文する」のセクション（11917 ページ）を参照してください。

- **【証明書情報を表示する】**をクリックして、既に注文済みである SSL 証明書のプロパティを表示する。
 - **【ドメイン情報を表示する】**をクリックして、レジストラのサイトに指定したドメイン情報、連絡先情報、DNS 設定を表示または変更する。これらのオペレーションについては、「PanelにおけるレジストラのDNS設定」のセクション（8317ページ）を参照してください。
3. リソース割り当て、使用可能なホスティングオプション、操作パーミッションの詳細は、契約名をクリックすると表示されます。
 4. 以下のいずれかを実行します。
 - 割り当て済みのリソースと使用済みのリソースを確認するには、**【リソース】**タブをクリックします。
 - アカウントで使用可能なホスティング機能のリストを確認するには、**【ホスティングオプション】**タブをクリックします。
 - ホスティングパネルで実行できる操作のリストを確認するには、**【パーミッション】**タブをクリックします。

アカウントと契約に関する情報

パネルの**【アカウント】**タブで<契約名>をクリックすると、次の契約プロパティが表示されます。

- **契約名**：パネルの契約は、それぞれの契約で作成された最初のウェブサイトのドメイン名で表示されます。
- **プラン名**：契約しているサービスプランの名前です。
- **セットアップ日**：契約が有効になった日付です。
- **価格**：契約期間におけるホスティングパッケージの価格です。プロバイダのポリシーと契約期間に応じて、1ヶ月、数ヶ月、または1年間の価格を表示できます。
- **最後の更新日**：課金システムをコントロールパネルと統合している場合に表示されます。契約が前回延長された日付または新しい期間が開始された日付を示します。
- **次回更新日**：課金システムをコントロールパネルと統合している場合に表示されず。次に契約を更新すべき日付を示します。
- **ステータス**：課金システムをコントロールパネルと統合している場合に表示されます。1つの契約に複数のステータスをもたせることができます。一般的なステータスには、**有効**、**保留**、**失敗**などがあります。契約のステータスが「有効」である場合、ホスティングアカウントで作業を行うことができます。「保留」の場合、ホスティングアカウントで作業を開始できるようになるまでしばらく待つ必要があります。「失敗」の場合、ホスティングサービスプロバイダにサポートを依頼してください。

割り当て済みリソースおよび使用済みリソース

一度に複数のサービスプランの契約をしている場合、契約が複数存在します。パネルの [アカウント] タブで **契約名** をクリックし、 [リソース] タブを選択すると、それぞれの契約に対して、次のような割り当て済みリソースが一覧表示されます。

- **ディスク容量**：この契約でホスティングアカウントに割り当てられているディスク容量の合計です。この容量には、ウェブサイト、メールアカウント、アプリケーション、バックアップ、ログファイルに関連するすべてのデータが含まれます。
- **トラフィック**：すべてのウェブサイトから月あたりに転送可能なデータの合計量（メガバイト単位）です。
- **ドメイン**：独立したセカンドレベルドメイン名（example.com など）を持つことができるウェブサイトの数です。
ウェブサイトのセットアップについて詳しくは、「**最初のウェブサイトをセットアップする**（1617ページ）」および「**ドメインを追加する**（6717ページ）」のセクションを参照してください。
- **サブドメイン**：サードレベルドメイン名（news.example.com など）を持つことができる追加ウェブサイトの数です。
サブドメインのセットアップについて詳しくは、「**サブドメインを追加する**」のセクション（7017ページ）を参照してください。
- **ドメインエイリアス**：顧客のサイトに割り当てることができる追加ドメイン名の数です。たとえば、example.fr と example.de がいずれも example.com をポイントするように設定することができます。
ドメインエイリアスのセットアップについて詳しくは、「**ドメインエイリアスを追加する**」のセクション（7217ページ）を参照してください。
- **メールボックス**：顧客のすべてのウェブサイトに対して作成できるメールボックスの数です。
メールボックスの作成について詳しくは、「**メール**」の章（16917ページ）を参照してください。
- **メールボックスのサイズ**：1つのメールボックスで占有可能なディスク容量です。
- **総メールボックスクォータ**：すべてのドメインのすべてのメールボックスで使用できるディスク容量の合計です。このオプションは Windows ベースのホスティングアカウントのみで使用できます。
- **メーリングリスト**：顧客のすべてのウェブサイトでセットアップできるメーリングリストの合計です。メーリングリストとは別にメールグループもあり、いずれも同じ目的で使用できますが、機能がわずかに異なります。メーリングリストはメッセージのアーカイブおよび事前モデレーションをサポートしていますが、メールグループは一度に複数の受信者にメッセージを送信するためだけに使用できます。
メーリングリストのセットアップと使用について詳しくは、「**メーリングリストを使用する**」のセクション（18017ページ）を参照してください。
- **追加 FTP アカウント**：契約の有効化時に作成されたメイン FTP アカウントに加え、ウェブスペースへのアクセス用にセットアップできる FTP アカウントの数です。
FTP アカウントのセットアップについて詳しくは、「**FTP アクセスクレデンシャルを変更する**（16417ページ）」および「**FTP アカウントを追加する**（16517ページ）」のセクションを参照してください。

- **データベース (Linux ホスティング)** : 顧客のすべてのウェブサイトでホスティング可能なデータベースの数です。データベースはデータストレージ管理の標準的な手段であり、ダイナミックウェブサイト、ウェブアプリケーション、およびアプリケーションのユーザはデータベースを使用して情報を保存、検索、収集できます。データベースでの作業については、「**(高度) データベースを使用する**」の章 (18817 ページ) を参照してください。
- **MySQL データベースおよび Microsoft SQL Server データベース (Windows ホスティング)** : Panel のデータベースサーバ上で作成して契約内のウェブサイトで使用できる MySQL データベースと Microsoft SQL Server データベースの最大数です。
- **MySQL データベースクォータおよび Microsoft SQL データベースクォータ (Windows ホスティング)** : 契約内の MySQL データベースと Microsoft SQL Server データベースがそれぞれ占有できるディスク容量の上限 (メガバイト) です。
- **Java アプリケーション** : WAR フォーマットでパッケージされており、サイトにインストールできる Java アプリケーションの数です。
- **Web Presence Builder で公開されたサイト** : Web Presence Builder オプションがホスティングパッケージに含まれる場合に、Web Presence Builder を使用して作成および公開できるサイトの数です。
- **モバイルサイト** : (サイトをモバイルデバイスでの閲覧用に最適化する) UNITY Mobile オンラインサービスでホスティングできるウェブサイトの総数です。
- **ウェブユーザ** : 顧客のドメイン下で他のユーザのウェブページをホスティングするために作成できるユーザアカウントの数です。
- **FrontPage アカウント** : FrontPage を使用するサイトコンテンツでのコラボレーション用に作成できる Microsoft FrontPage ユーザアカウントの数です。このオプションは Windows ベースのホスティングアカウントのみで使用できます。
- **共有 SSL リンク** : プロバイダで共有している SSL 証明書でセキュリティ保護できるウェブサイトの数です。このオプションは Windows ベースのホスティングアカウントのみで使用できます。
- **ODBC DSN 接続** : 顧客のホスティングアカウントで稼働しているウェブアプリケーションに設定できる外部データベース接続の数です。このオプションは Windows ベースのホスティングアカウントのみで使用できます。
- **ColdFusion DSN 接続** : 顧客のホスティングアカウント上で稼働している Adobe ColdFusion で記述されたウェブアプリケーションに設定できる外部データベース接続の数です。このオプションは Windows ベースのホスティングアカウントのみで使用できます。

ウェブサイトで使用できるホスティング機能

サービスプランに応じて、以下のホスティング機能をウェブサイトで使用できます ([**アカウント**] タブで **契約名** をクリックし、 [**ホスティングオプション**] タブを選択すると、機能のリストが表示されます)。

- **SSL 対応** : SSL 暗号化でウェブサイト接続をセキュリティ保護できます。SSL によるサイトのセキュリティ保護について詳しくは、「**接続を SSL 証明書で保護する**」のセクション (11517 ページ) を参照してください。

- **ウェブ統計**：ウェブサイト訪問者の統計を図とチャートで表示できます。
ウェブサイト訪問者の統計の表示について詳しくは、「**統計を表示する**」のセクション（5617ページ）を参照してください。
- **カスタムエラードキュメント**：カスタム HTML ページを作成し、一般的なエラーメッセージ（404 Not Found など）の代わりにこのページが表示されるようにウェブサーバを構成できます。
カスタムエラードキュメントのセットアップについて詳しくは、「**カスタムエラーページをセットアップする**」（12717ページ）を参照してください。
- **プログラム言語とスクリプト言語のサポート**：PHP、CGI、Perl、Python、Microsoft ASP、ASP.NET、Adobe ColdFusion、SSI など。
- **Microsoft FrontPage のサポートおよび Microsoft FrontPage over SSL のサポート**：Microsoft FrontPage を使用してウェブサイトコンテンツを作成および編集できます。これらのオプションは Windows ベースのホスティングアカウントのみで使用できます。
- **Microsoft FrontPage オーサリング（Windows ホスティング）**：Microsoft FrontPage を使用してウェブサイトコンテンツをサーバ上で直接作成および編集できます。このオプションは Windows ベースのホスティングアカウントのみで使用できます。
- **専用 IIS アプリケーションプール（Windows ホスティング）**：サイト上のウェブアプリケーションの独立性と安定性が向上します。
- **追加の書き込み/変更パーミッション（Windows ホスティング）**：httpdocs フォルダの root にあるファイルベースのデータベース（Jet など）をウェブアプリケーションで使用できます。
- **ウェブユーザにスクリプトの使用を許可する**：http://example.com/~<ユーザ名>/<ウェブページ>（<ユーザ名> はウェブユーザ）のような URL のウェブページでスクリプトを許可することができます。ウェブユーザとは、専用のドメイン名を必要としない個人です。このサービスは主に、教育機関が、学生やスタッフの個人用ページをホスティングする目的で使用します。

ここでは、Panel で実行できる操作に対するパーミッションを説明します（[アカウント] タブで**契約名**をクリックし、[パーミッション] タブを選択すると表示されます）。

- **DNS ゾーン管理**：ウェブサイトの DNS ゾーンにあるリソースレコードを管理します。DNS とは、「Domain Name System（ドメインネームシステム）」の略です。ウェブブラウザはこのサービスを利用して、ドメイン名でウェブサイトを検索します。ウェブサイトの DNS 設定を構成する方法について詳しくは、「**（高度）ドメイン用に DNS を構成する（7517ページ）**」を参照してください。
- **ホスティング設定管理**：スクリプト言語のサポートなど、ウェブホスティング設定を管理します。

- **PHP セーフモード管理**：このオプションは Linux ベースのホスティングアカウントのみで使用できます。ウェブサイトに対して PHP セーフモードのオン/オフを切り替えることができます。セーフモードとはセキュリティ上の制限であり、PHP で記述したスクリプトがサーバ上で危険な操作を実行できないようにします。PHP で記述したウェブアプリケーションが PHP セーフモードで正しく機能しない場合は、PHP セーフモードをオフにする必要があります。
- **SSH 経由のサーバアクセスの管理とリモートデスクトップ経由のサーバアクセスの管理**：セキュアシェル経由（Linux ホスティング）またはリモートデスクトップ接続経由（Windows ホスティング）で、ウェブコンテンツをサーバへ安全にアップロードします。
- **匿名 FTP 管理**：フォルダをサーバ上にセットアップし、インターネットユーザが FTP プロトコル経由でアクセスできるようにします。このフォルダのアドレスは「ftp://downloads.example.com」のようにします。ファイルの閲覧、ダウンロード、アップロードのためにユーザ名とパスワードを指定する必要がないため、この機能を「匿名 FTP (anonymous FTP)」と呼びます。
FTP フォルダをアクセス無制限でセットアップする方法については、「匿名 FTP アクセスをセットアップする」のセクション（16717ページ）を参照してください。
- **スケジューラ管理**：サーバの OS でプログラムまたはスクリプトの実行をスケジュールします。
タスクのスケジューリングについては、「タスクをスケジューリングする」の章（18117ページ）を参照してください。
- **スパムフィルタ管理**：迷惑メール（スパム）防御のカスタム設定を行います。
スパムフィルタリングのセットアップについては、「メールボックスをスパムから防御する」のセクションを参照してください。
- **アンチウイルス管理**：ウイルスをはじめとする自己増殖する悪意あるソフトウェアからシステムを防御するために、カスタム設定をセットアップします。
ウイルス防御のセットアップについては、「メールボックスをウイルスから防御する」のセクションを参照してください。
- **サーバリポジトリを使用したデータのバックアップおよび復元**：Panel のバックアップおよび復元機能を使用して、ウェブサイト、メールアカウント、設定のバックアップおよび復元、バックアップファイルのサーバ保管を行います。
データのバックアップと復元については、「（高度）データをバックアップおよび復元する」の章（19617ページ）を参照してください。
- **個人用 FTP リポジトリを使用したデータのバックアップおよび復元**：Panel のバックアップおよび復元機能を使用して、ウェブサイト、メールアカウント、設定をバックアップおよび復元し、他のサーバの FTP フォルダにバックアップファイルを保管します。
データのバックアップと復元については、「（高度）データをバックアップおよび復元する」の章（19617ページ）を参照してください。
- **ウェブ統計管理**：訪問者統計レポートのカスタムプリファレンスをセットアップします。

ウェブサイト訪問者の統計の構成と表示について詳しくは、「**統計を表示する**」のセクション（5617ページ）を参照してください。

- **ログローテーション管理**：ウェブサーバログのリサイクル（ローテーション）に関するカスタムプリファレンスをセットアップします。ウェブサーバには、サイトへの接続に関する情報や、存在しないファイルの取得を試行したときに発生するエラーに関する情報が記録されます。これらのログファイルは、ウェブサイトのデバッグのために使用できます。

ウェブサーバへのアクセスログに関する作業について詳しくは、「**ログファイル**」のセクション（5717ページ）を参照してください。

- **アプリケーションカタログへのアクセス**：ウェブサイト上でアプリケーションを表示およびインストールします。アプリケーションについて詳しくは、「**ウェブアプリケーションを導入する**」のセクション（11017ページ）を参照してください。
- **プロバイダのポリシーを上書きする、安全ではない可能性があるウェブスクリプトオプションのセットアップ**：プロバイダが適用したホスティングセキュリティポリシーを上書きすることができます。

- **ドメイン作成**：新しいウェブサイトをセットアップし、管理します。

ウェブサイトのセットアップについて詳しくは、「**最初のウェブサイトをセットアップする**（1617ページ）」および「**ドメインを追加する**（6717ページ）」のセクションを参照してください。

- **サブドメイン管理**：「forum.example.com」のようなアドレスで新しいウェブサイトをセットアップし、管理します。

サブドメインのセットアップについて詳しくは、「**サブドメインを追加する**」のセクション（7017ページ）を参照してください。

- **ドメインエイリアスの管理**：サイトに対して追加のドメイン名をセットアップし、管理します。

ドメインエイリアスのセットアップについて詳しくは、「**ドメインエイリアスを追加する**」の章（7217ページ）を参照してください。

- **追加 FTP アカウントの管理**：追加 FTP アカウントをセットアップし、管理します。ウェブサイトコンテンツでのコラボレーションを有効にするためには、他のユーザに FTP アカウントをセットアップして、これらのユーザがアクセスできるディレクトリを指定します。

FTP アカウントのセットアップについて詳しくは、「**FTP アカウントを追加する**」のセクション（16517ページ）を参照してください。

- **Java アプリケーション管理**：WAR アーカイブで配布されている Java アプリケーションや、サードパーティベンダーまたはアプリケーション開発者から入手した Java アプリケーションをインストールし、管理できます。

Java アプリケーションのインストールについて詳しくは、「**Java アプリケーションをインストールする**」のセクションを参照してください。

- **メーリングリスト管理**：メーリングリストのセットアップと管理を行います。

メーリングリストのセットアップと使用について詳しくは、「**メーリングリストを使用する**」のセクション（18017ページ）を参照してください。

- **ホスティングパフォーマンス設定の管理**：ウェブサイトへの接続の帯域幅と数を制限します。

サイトの帯域幅使用制限について詳しくは、「**ウェブサイトへの接続の帯域幅と数を制限する**（13717ページ）」を参照してください。

- **IIS アプリケーションプール管理**：IIS アプリケーションプールのカスタムプリファレンスをセットアップします（Windows ベースのホスティングアカウントのみ）。IIS アプリケーションプールのセットアップについて詳しくは、「**IIS アプリケーションプールをセットアップする（Windows ホスティング）**（15917ページ）」のセクションを参照してください。
- **追加の書込/変更パーミッションの管理**：ファイルベースのデータベースを使用するウェブサイトに対して、追加の書込/変更パーミッションをセットアップします（Windows ベースのホスティングアカウントのみ）。
- **共有 SSL 管理**：プロバイダが共有する SSL 証明書を使用して、SSL 防御を行い、サイト接続のセキュリティを維持します。
詳しくは、「**共有 SSL 証明書を使用する（Windows ホスティング）**（12117ページ）」のセクションを参照してください。
- **ハードディスククォータの割り当て**：ホスティングアカウントでサポートされている場合は、ディスク容量のハードクォータを調整します。
- **データベースサーバの選択**：複数のデータベースサーバが存在する場合、データベース作成用のデータベースサーバを選択します。

アカウント残高と請求書を管理する

ここでの説明は、コントロールパネルに課金システムを統合している場合のみ有効です。

➤ アカウント残高を確認してホスティングサービスの支払いを行うには：

1. [アカウント] タブをクリックします。
2. 以下の情報が表示されます。
 - アカウント残高：アカウントで使用可能な残高です。
 - 未払い請求書の残高：プロバイダに支払う必要がある金額です。ここで、[すべて支払う] をクリックしてすべての請求書を支払うことや、[未払い請求書をすべて支払う] というリストで [今すぐ支払う] リンクをクリックしていずれかの請求書を支払うことができます。
 - 最新の To-do アイテム：行うべきアクションに関するシステムからのリマインダが表示されます。
 - すべての契約のリスト：リスト内のリンクを使用して、次の操作を実行できます。
 - 契約のプロパティを表示するには、契約名のリンクをクリックします。
 - コントロールパネルで管理する契約を選択するには、対応する [契約に切り替え] リンクをクリックします。
 - サイトの SSL 証明書を注文するには、[証明書を注文する] をクリックします。この操作について詳しくは、「SSL 証明書を注文する」のセクション（11917ページ）を参照してください。
 - 既に注文済みである SSL 証明書のプロパティを表示するには、[証明書情報を表示する] をクリックします。
 - レジストラのサイトに指定したドメイン情報、連絡先情報、DNS 設定を表示または変更するには、[ドメイン情報を表示する] をクリックします。これらのオペレーションについて詳しくは、「Panel におけるレジストラの DNS 設定」のセクション（8317ページ）を参照してください。

➤ サービスの支払いに使用する支払い方法を選択するには：

1. [アカウント] タブで [課金アカウント] に進みます。

最初のサービスを購入するときに使用した支払い方法に関する記録が表示されます。
2. 以下のいずれかを実行します。
 - 課金アカウントの設定を表示または変更するには、[課金アカウント名] 列で該当するリンクをクリックし、自分の銀行カードまたはアカウントに関する情報を指定し、支払い対象とする契約を選択します。[OK] をクリックします。

- 新しい課金アカウントを追加するには、[新しい課金アカウントを追加する] をクリックし、支払い方法を選択して [次へ] をクリックして、自分の銀行カードまたはアカウントに関する必要な情報を指定し、支払い対象とする契約を選択します。 [OK] をクリックします。
- 課金アカウントを削除するには、該当する [削除] リンクをクリックします。

追加のリソースを注文する

ここでの説明は、コントロールパネルに課金システムを統合している場合のみ有効です。

➤ **契約にリソースを追加するか、他のサービスプランにアップグレードするには：**

1. [アカウント] タブをクリックします。
2. 契約リストで、他のサービスプランにアップグレードしたい契約を特定し、現在使用しているプラン名のリンクをクリックします。
3. [アップグレード] をクリックします。

[アップグレード] リンクがない場合は、コントロールパネルで他のホスティングプランにアップグレードすることはできません。この場合、プロバイダに連絡する必要があります。

4. 以下のいずれかを実行します。
 - 他のプランにアップグレードせず、契約にリソースを追加するには、追加したいオプションを選択して [アドオン調整] をクリックします。
 - 他のサービスプランにアップグレードするには、[アップグレードを注文する] をクリックします。

➤ **リソース数を減らすか、他のサービスプランにダウングレードするには：**

1. [アカウント] タブをクリックします。
2. 契約リストで、他のサービスプランにダウングレードしたい契約を特定し、現在使用しているプラン名のリンクをクリックします。
3. [ダウングレード] をクリックします。

[ダウングレード] リンクがない場合、コントロールパネルで他のホスティングプランにダウングレードすることはできません。この場合、プロバイダに連絡する必要があります。

4. 以下のいずれかを実行します。
 - 他のプランにダウングレードせず、割り当てられたリソース数を減らすには、減らしたいオプションを選択して [アドオン調整] をクリックします。
 - 他のサービスプランにダウングレードするには、[ダウングレードを注文する] をクリックします。

➤ **メインプランに加えてホスティングプランを契約するには：**

1. [アカウント] タブで [契約を追加] リンクをクリックします。
2. 契約したいホスティングプランを選択し、[購入する] をクリックします。画面の指示に従って注文を完了します。

統計を表示する

➤ アカウントのディスク容量とトラフィック使用量レポートを表示するには：

1. アカウントに複数の契約が関連付けられている場合、画面上部の【契約】メニューで、必要な契約を選択します。

2. 【統計】タブをクリックします。

チャートに次の情報が表示されます。

- ウェブスペース内のウェブサイト、メールアカウント、データベース、およびウェブスペース内のその他のファイルで使用されているディスク容量。
- 当月中にFTP、ウェブ、メールサービスで使用されたトラフィック。

【FTP】フィールドは、FTP 経由でウェブスペースから送受信されたファイルの合計サイズを示します。

【HTTP】フィールドは、HTTP プロトコル経由ですべてのウェブサイトから送受信された（つまり、ウェブブラウザが取得した）データの合計量を示します。

【POP3/IMAP】フィールドは、ドメイン下のすべてのメールアカウントで受信したデータの合計量を示します。

【SMTP】フィールドは、ドメイン下のすべてのメールアカウントで送信したデータの合計量を示します。

3. 以下のいずれかを実行します。

- FTP 経由でサイトで送受信したデータ量に関するレポートを表示するには、【FTP 統計】をクリックします。
- FTP ディレクトリで送受信したデータ量に関するレポートを表示するには、【匿名 FTP 統計】をクリックします。
- 特定の月にサービスで使用されたトラフィックの量に関するレポートを表示するには、【データ転送統計】をクリックし、メニューから月を選択します。

ログファイル

ログファイルには、ウェブサーバへのすべての接続と、サーバで見つからなかったファイルのリクエストが記録されます。これらのログファイルの分析はサーバ上で稼働する統計プログラムで行われ、オンデマンドでグラフィカルレポートとして表示されます。これらのログファイルをコンピュータにダウンロードして、サードパーティ製の統計プログラムで処理したり、ウェブサーバのデバッグに使用することができます。

➤ **これらのログファイルが増加するのを防ぐために、ログファイルの自動クリーンアップとリサイクルを有効にする必要があります。**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループの [ログ] に進み、[ログローテーション] を選択します。
3. [スイッチオン] をクリックします。[スイッチオフ] ボタンしか表示されない場合、ログのリサイクルはすでに有効になっています。
4. ログファイルをリサイクルするタイミングと、サーバに保管するログファイルのコピー数を指定します。ログファイルを圧縮するか、処理の後にメールアドレスに送信するかを指定します。
5. [OK] をクリックします。

➤ **ログファイルのコンテンツを表示するか、コンピュータにダウンロードするには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [ログ] に進みます。ログファイルのリストが表示されます。
3. 以下のいずれかを実行します。
 - ログファイル内の全エントリを表示するには、ログファイル名をクリックします。ログファイルの最新行を数行だけ表示したい場合は、[設定] グループの入力ボックスに行数を入力し、ログファイル名をクリックします。
 - ファイルをコンピュータにダウンロードするには、対応するアイコン  をクリックします。
 - 処理済みのログファイルをサーバから削除するには、対応するチェックボックスをオンにして、[削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

➤ ログファイルをFTP経由でコンピュータにダウンロードするには：

1. PanelサーバにFTP経由で接続し、ダウンロードする契約ログのアクセスクレデンシャルを使用してログインします。
2. /statistics/logsディレクトリに進み、ログファイルをコンピュータにコピーします。

(高度)ホスティングアカウントへのアクセスを構成する

他のユーザがPanelにアクセスし、ウェブサイトやインストール済みアプリケーションを管理したり、貴社のドメインのメールサービスを使用することを許可する場合は、これらのユーザ用にユーザアカウントを作成する必要があります

ユーザおよびユーザの役割

ユーザアカウントはユーザの役割に基づいて作成されます。この役割には、Panelの特定のエリアにアクセスするための権限や、Panelで操作を実行するための権限などが含まれます。会計担当者、アプリケーションユーザ、所有者、ウェブマスターなどのユーザ役割があらかじめ設定されています。会計担当者、アプリケーションユーザ、ウェブマネージャの役割を貴社のニーズに合わせて変更したり、独自の役割を作成することができます。ユーザの役割とユーザアカウントの作成について詳しくは、「[ユーザ役割 \(5917ページ\)](#)」および「[ユーザアカウント \(6117ページ\)](#)」のセクションを参照してください。

ユーザアカウントを作成すると、ユーザはPanel内のアカウントにログインして、ショートカットからメールボックスにアクセスし、アプリケーションで作業できるようになります。さらに、補助ユーザが利用できるリンクのリストに、社内のリソースやウェブ上のサイトなどへのカスタムリンクを追加することができます。詳しくは、「[カスタムリンク \(6317ページ\)](#)」を参照してください。

ユーザと複数の契約

Panel 10.4 より、複数の契約が含まれるホスティングアカウントで、ユーザがアクセスできる契約を指定することが可能になりました。あるユーザアカウントで **[契約へのアクセス]** プロパティが特定の契約に設定されていると、このユーザは常にこの契約にログインすることになり、他の契約に切り替えることはできません。

ユーザの役割

➤ ユーザ役割を作成するには：

1. [ユーザ] タブ > [ユーザ役割] タブ > [ユーザ役割の作成] に進みます。
2. 以下を指定します。

- **ユーザ役割名**
- **Panel サービスにアクセス**：オペレーションに必要な権限をユーザに与えます。
 - **ユーザと役割の管理**：ユーザアカウントと役割を追加、変更、削除します。この権限がユーザに付与されていない場合でも、ユーザは Panel へのログイン後に他のユーザの連絡先情報を参照できます。
 - **サイトの作成と管理**：ドメイン名およびサブドメインのセットアップ・変更・削除、ウェブサイトのホスティング、ウェブホスティング設定の変更を行います。
 - **ログローテーションの設定**：ウェブサーバアクセスおよびエラーログファイルのリサイクル関連の設定を管理します。ログファイルを表示、ダウンロード、削除します。
 - **匿名 FTP サービスの設定**：すべてのインターネットユーザが認証なしで FTP アクセスできるディレクトリをセットアップします。
 - **スケジュール済みタスクの作成と管理**：貴社のホスティングアカウントでスクリプトまたはプログラムの実行をスケジュールします。
 - **スパムフィルタの設定**：メールボックスのスパム防御をセットアップします。
 - **アンチウイルスの設定**：メールボックスのウイルス防御をセットアップします。
 - **データベースの作成と管理**：貴社のホスティングアカウントに保存されるデータベースを追加、変更、削除します。
 - **データのバックアップおよび復元の構成および実行**：貴社のドメイン下のホスティングアカウント、ウェブサイト、メールボックスに関連するデータをバックアップおよび復元します。
 - **統計の表示**：ウェブサイトおよびウェブサイトへの訪問別に、ディスク容量とトラフィック使用量のレポートを表示します。
 - **アプリケーションのインストールと管理**：ウェブサイトにアプリケーションをインストールし、管理します。
 - **Web Presence Builder でのサイト設計**：Web Presence Builder を使用してウェブサイトを作成します。
 - **ファイルのアップロードと管理**：Panel のファイルマネージャを使用してウェブスペース内のファイルとディレクトリを管理します。
 - **追加 FTP アカウントの作成と管理**：他のユーザに追加 FTP アカウントをセットアップします。
 - **DNS 設定の管理**：ドメインの DNS 設定を管理します。

- Java アプリケーションのインストールと管理：サードパーティ製 Java アプリケーションをウェブサイトにインストールします。
- メールアカウントの作成と管理：メールアカウントを作成、変更、削除します。
- メールリングリストの作成と管理：メールリングリストを作成、変更、削除します。
- アプリケーションへのアクセス：ユーザがアクセスし、使用できるアプリケーションを選択します。サーバにインストールされているすべてのウェブアプリケーションが表示されます。

アプリケーションのインストールおよびユーザへのアクセス付与について詳しくは、「Panel ユーザにアプリケーションへのアクセス権を付与する」のセクション（11317 ページ）を参照してください。

3. [OK] をクリックします。

➤ **ユーザ役割のプロパティを変更するには：**

1. [ユーザ] タブで [ユーザ役割] タブに進みます。
2. 変更したい役割名のリンクをクリックします。
3. 必要に応じて役割のプロパティを変更し、[OK] をクリックします。

➤ **ユーザ役割を削除するには：**

1. [ユーザ] タブで [ユーザ役割] タブに進みます。
2. 削除する役割に対応するチェックボックスをオンにして、[削除] をクリックします。所有者役割や、1人以上のユーザに割り当てられている役割は、削除できません。
3. [はい] をクリックして削除を確認します。

ユーザアカウント

➤ ユーザアカウントを作成するには：

1. [ユーザ] タブで [ユーザアカウントの作成] に進みます。
2. 以下を指定します。
 - 担当者：
 - メールアドレス： このメールアドレスは、Panel にログインする際のユーザ名としても使用されます。
 - ユーザ用に新しいメールアドレスを作成するには、[自分のアカウント下にメールアドレスを作成する] オプションをオンにします。
メールアドレスの @ 記号の左側部分を入力し、（アカウントに複数のドメインがあれば）メールアドレスの作成に使用するドメイン名を選択します。
 - このユーザアカウントを外部メールアドレスに関連付けるには、[外部メールアドレスを使用する] オプションをオンにして、既存の外部メールアドレスを指定します。
 - ユーザ役割： 必要なユーザ役割をメニューから選択します。
 - 契約へのアクセス： ユーザに対し、指定した契約へのアクセスのみを許可します。「すべて」を選択すると、このユーザはホスティングアカウント内のすべての契約にアクセスできるようになります。
 - パスワード： Panel にアクセスするためのパスワードを入力します。
3. [アクティブなユーザ] チェックボックスはオンにしておきます。これをオフにすると、ユーザはPanelへのアクセスや貴社のホスティングアカウントでのアプリケーションの使用ができなくなります。
4. [OK] をクリックします。
5. ユーザに連絡先情報を追加したい場合は、ユーザ名のリンクをクリックし、[連絡先の詳細] タブをクリックして、ユーザの連絡先情報を入力します。
6. [OK] をクリックします。

これで、アカウントの作成と Panel へのアクセス権の付与をユーザに通知できるようになりました。ブラウザで表示するためのアドレスと、アカウント設定に指定したユーザ名/パスワードをユーザに知らせます。

➤ ユーザアカウントのプロパティを変更するには：

1. [ユーザ] タブをクリックします。
2. ユーザ名のリンクをクリックします。

3. 必要な変更を行い、[OK] をクリックします。

➤ **ユーザアカウントを一時停止するか、有効にするには：**

1. [ユーザ] タブをクリックします。

2. ユーザ名のリンクをクリックします。

3. 以下のいずれかを実行します。

- ユーザアカウントを一時停止するには、[アクティブなユーザ] チェックボックスをオフにします。ユーザは Panel にログインしてアプリケーションにアクセスできなくなります。
- ユーザアカウントを有効にするには、[アクティブなユーザ] チェックボックスをオンにします。

4. [OK] をクリックします。

➤ **ユーザアカウントを削除するには：**

1. [ユーザ] タブをクリックします。

2. 削除するユーザアカウントのチェックボックスをオンにして、[削除] をクリックします。自分自身のアカウントを削除することはできません。

3. [はい] をクリックして削除を確認します。

カスタムリンク

Panelにカスタムハイパーリンクを追加し、ユーザに対して表示することができます。このハイパーリンクのリンク先は、ウェブリソース（貴社のサイトなど）やウェブアプリケーション（オンラインリクエストの処理、クリックしたユーザに関する追加情報の収集などを実行するアプリケーション）にすることができます。

ユーザに関してどのような情報を受け渡すのかを指定することができます。

- 契約 ID
- 契約に関連付けられたプライマリドメイン名
- FTP アカウントのユーザ名とパスワード
- 顧客のアカウント ID、名前、メールアドレス、会社名

コントロールパネルで次のような場所にリンクを配置し、表示対象とするユーザを決めることができます。

- コントロールパネルの [ホーム] ページで、自分のみに表示する。このように設定するには、リンクのプロパティで [顧客のホームページ] オプションをオンにします。
- コントロールパネルの [ホーム] ページで、自分とそのユーザ（コントロールパネルへのログインが許可されているユーザ）のみに対して表示する。このように設定するには、リンクのプロパティで [共通アクセス] オプションをオンにします。
- コントロールパネルの [ウェブサイトとドメイン] タブで、自分とそのユーザ（コントロールパネルへのログインが許可されているユーザ）のみに対して表示する。このように設定するには、リンクのプロパティで [契約の [ウェブサイトとドメイン] ページ] オプションをオンにします。

➤ コントロールパネルにカスタムハイパーリンクを追加するには：

1. [アカウント] タブで [追加サービス] に進み、[サービスにリンクを追加する] をクリックします。
2. 以下の設定を指定します。
 - [ボタンラベル] ボックスに、ボタンに表示されるテキストを入力します。
 - ボタンの配置場所を選択します。
 - ボタンの優先度を指定します。カスタムボタンは、定義した優先度に従って Panel に配置されます。数字が小さいほど、優先度が高くなります。ボタンは左から右に配置されます。
 - ボタン背景に画像を使用するには、その画像の保存場所へのパスを入力するか、[参照] をクリックしてそのファイルを参照します。ナビゲーションペインに配置するボタンの画像には 16×16 ピクセルの GIF または JPEG ファイルを、メインフレームやデスクトップに配置するボタンの画像には 32×32 ピクセルの GIF または JPEG ファイルをお勧めします。
 - [URL] ボックスに、ボタンのハイパーリンクを入力します。

- チェックボックスで、顧客情報などのデータを URL に含めて転送するかどうかを指定します。これらの情報は外部のウェブアプリケーションで使用できます。
 - **【ツールヒントのテキスト】**の入力フィールドに、ボタンの上にカーソルを動かすと表示されるヒントを入力します。
 - リンク先 URL をパネルのメインフレームで開く場合は、**【Parallels Panel で URL を開く】**チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにすると、URL は別のウィンドウまたはタブに表示されます。
 - 自分以外にこのボタンを表示させない場合は、**【自分にもみ表示する】**チェックボックスをオンにします。
3. **【終了】** をクリックして作成を完了します。

➤ **Panel からハイパーリンクボタンを削除するには :**

1. **【アカウント】** タブで **【追加サービス】** に進みます。
2. 削除するボタンのチェックボックスをオンにして、**【削除】** をクリックします。

第 7 章

ウェブサイトとドメイン

「Parallels Panel クイックスタート」の章（1517ページ）で説明したように、ウェブサイト構築の第一歩はドメイン名の購入から始まります。ドメイン名（あるいは単に「ドメイン」）とは、ユーザがウェブサイトにアクセスするためにブラウザに入力する名前です。たとえば、「www.example.com」のような形式です。ドメイン登録は、ドメインネームレジストラという認定機関が行います。多くの場合、ホスティングプロバイダがこの役割を担います。Panelでのドメイン管理について詳しくは、「ドメインとDNS」のセクション（6617ページ）を参照してください。

ただし、ドメインだけではウェブサイトはできません。ウェブ上からアクセス可能にし、コンテンツを追加するためには、ホスティングアカウントを入手する必要があります。つまり、インターネット接続、コンテンツを格納するディスク領域、メールサービスなどをドメインに補足する必要があります。したがって、ウェブサイトとは、ホスティングサービスが付加されたドメインであると言えます。

Panelはドメインとウェブサイトに対し、次のようなあらゆるオペレーションを実行できます。

- ドメイン、サブドメイン、エイリアスの追加と削除。
- ウェブサイトのコンテンツの管理。
- 各種ウェブアプリケーションのインストール。
- ウェブサイトへの接続などのセキュリティ管理。

この章では、ウェブサイトとドメインについて Panel で実行できるすべてのオペレーションについて詳しく説明します。ただし、ホスティングプランによっては、これらのオペレーションの一部を実行できない場合があります。

この章の内容:

ドメインとDNS.....	66
ホスティング設定を変更する	86
ウェブサイトを一時停止または起動する	94
ウェブサイトコンテンツを管理する.....	96
ウェブサイトアプリケーションを採用する.....	110
（高度）ウェブサイトのセキュリティを強化する	115
（高度）拡張ウェブサイト管理.....	123

ドメインと DNS

既に説明したように、ドメイン名とは、ウェブサイトアクセスしたい人がブラウザに入力する名前です。

ドメイン名は階層構造であり、ラベルと呼ばれる複数のパーツから構成されています。

- 一番右に位置するラベルが「トップレベルドメイン」です。たとえば、「`www.example.com`」のトップレベルドメインは「`com`」です。トップレベルドメインの数は限られており、これらはすべて、国際的な管理団体によって管理されています。
- 主にウェブサイトの使用目的を示すために使用するラベルが「セカンドレベルドメイン」です。たとえば、「`www.example.com`」のセカンドレベルドメインは「`example`」です。セカンドレベルドメインとトップレベルドメインの組み合わせにより、ウェブサイトの具体的な所在地が決まります。
- 左側の各レベルは、右側のドメインのサブドメインです。たとえば、「`www`」は「`example.com`」のサブドメインです。サブドメインは、メインサイトの一部のコンテンツを隔離したい場合に便利です。たとえば、個人用のブログを「`myblog.example.com`」にまとめることができます。Panelでのサブドメイン追加方法について詳しくは、「サブドメインを追加する」のセクション（7017ページ）を参照してください。

1つの契約で複数のウェブサイトをホスティングしたい場合は、ドメインを追加購入し、契約に追加してください。Panelでのドメイン追加方法について詳しくは、「ドメインを追加する」のセクション（67ページ）を参照してください。

ドメイン名は人がわかりやすいように便宜的に使用されるだけであり、ブラウザとウェブサーバの実際の通信は、IP アドレス（ホストを数字で示す識別子）を利用して行われます。たとえば、「`www.example.com`」の実際のアドレスは（例）`192.0.2.12`（※IPv4）です。ドメイン名を IP アドレスに名前解決するために、ウェブホストは DNS テクノロジーを使用します。Panel への DNS の導入方法について詳しくは、「（高度）ドメイン用に DNS を構成する（7517ページ）」を参照してください。

DNS では、複数のドメインを 1つの IP アドレスに名前解決することができます。このような追加のドメイン名を「ドメインエイリアス」と呼びます。これは、複数のドメインを購入して同じウェブサイトに関連付けたい場合に便利です。既存のドメインへのエイリアス追加方法について詳しくは、「ドメインエイリアスを追加する」のセクション（7217ページ）を参照してください。

ドメインを追加する

ホスティングパッケージに複数のドメイン名（ウェブサイト）が含まれている場合、新しいドメインをサーバに簡単に追加できます。セカンドレベルドメイン名（例：example.com）を使用する新しいドメインを追加する前に、このドメイン名をサービスプロバイダまたは他のドメイン名登録機関に必ず登録してください。

Panel では、次のようなサイト構成をセットアップできます。

- **アドレスがセカンドレベルドメイン名であるウェブサイト。** ウェブサイトでは、次のようなサービスを使用できます。
 - 一意のインターネットアドレス（ドメイン名）（例：example.com）。
 - 追加のドメイン名（ドメインエイリアス）。
 - サブドメイン：メインサイトに付加された覚えやすいアドレス（例：mail.example.com）でアクセスできる、サイトの一部。
 - サイトコンテンツでのコラボレーションに使用する独立した FTP アカウント。FTP アカウントごとに、そのアカウントでアクセス可能なディレクトリを指定できます。
 - Web Presence Builder を使用してウェブサイトを作成する。
 - コンテンツ管理システム、フォトギャラリー、ショッピングカート、ブログプラットフォームなどのアプリケーションを簡単にデプロイする。
 - SSL プロトコルによるセキュアなデータ交換。これには、他のユーザやサイトと共有されない専用 IP アドレスでサイトをホスティングする必要があります。
 - メールボックスおよびメーリングリスト。
 - サイト訪問に関する統計を表示する。
- **アドレスがサードレベルドメイン名（サブドメイン）であるウェブサイトまたはその一部。** これは通常、既存のサイトの一部です。インターネットアドレスは、ドットで区切られた 3 つの部分から構成されています。サブドメインでは、次のようなサービスを使用できます。
 - メインサイトとは別のドキュメントルート。ドキュメントルートとは、サーバ上の 1 ディレクトリであり、サイトのウェブページが格納されます。
 - コンテンツ管理への FTP アクセス。
 - Web Presence Builder を使用してウェブサイトを作成する。
 - アプリケーションを簡単にデプロイする。
 - SSL プロトコルによるセキュアなデータ交換。
 - サイト訪問に関する統計を表示する。



- **ドメインを追加する**
- **セカンドレベルドメイン名で新しいウェブサイトをホスティングするには：**
 1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、アカウントに関連付けられた複数のウェブスペースへのアクセス権がある場合は、画面上部にある **[契約]** メニューで必要なウェブスペースを選択してください。
 2. **[ウェブサイトとドメイン]** タブをクリックし、**[新しいドメインを追加]** をクリックして、画面の指示に従います。

注：推奨されるオプションを選択する場合、関連する DNS 設定とドメイン名を、レジストラ側のドメイン名と関連付ける必要があります。これを行うには、Panel ネームサーバの IP アドレスをレジストラの各 NS レコードに入力します。IP の取得方法は次のとおりです。**[ウェブサイトとドメイン]** > **[DNS 設定]** で NS レコードを検索し、NS レコード値に対応する A レコードを検索します。

たとえば、次のような NS レコードの場合：
example.com. NS ns.example.com
ns.example.com の A レコードを検索します。
ns.example.com. A 192.0.2.12

見つかった値 192.0.2.12 が、必要な Panel ネームサーバの IP です。

3. **[OK]** をクリックします。
新しいドメイン名が画面下にリストされます。
4. ホスティング設定の変更操作が許可されているアカウントの場合、新しいウェブサイトのドメイン名をクリックしてホスティング設定を表示または変更することができます。この手順は、「**ホスティング設定を変更する**」のセクション（8617ページ）を参照してください。

Web Presence Builder でウェブサイトの作成を開始したり、新しいウェブサイトのウェブスペースにウェブコンテンツをアップロードすることができます。この手順は、「**ウェブサイトのコンテンツを管理する**（9617ページ）」を参照してください。

ドメインを削除する

Panel からドメインを削除すると、該当するサイトに関連するすべてのデータがサーバから削除されます。アカウントに対して最初に作成されたドメイン名（デフォルトドメイン）は削除できませんが、名前を変更することは可能です。

- **ドメインを削除するには：**
 1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、アカウントに関連付けられた複数のウェブスペースへのアクセス権がある場合は、画面上部にある **[契約]** メニューで必要なウェブスペースを選択してください。

2. [ウェブサイトとドメイン] タブをクリックします。
3. ドメイン名のリストで、削除対象のドメインまたはサブドメインを選択し、[削除する] をクリックします。
4. 削除を確認して [OK] をクリックします。

サブドメインを追加する

ホスティングパッケージに、アドレスがサードレベルドメイン名であるサブドメインが含まれている場合、これを使用して以下を実行できます。

- サイトの構造を論理的に編成する。
- 同じサーバで追加ウェブサイトやウェブサイトの一部をホスティングすることで、ドメイン名の追加登録に必要な費用を節減できます。

サブドメインの使用例：

「your-product.com」というウェブサイトを、製品の販促や販売に使用しているとします。顧客サービスとオンライン注文のトラッキングに関する情報を公開するために、サブドメイン「orders」を構築します。これにより、ユーザはドメイン名「orders.your-product.com」にアクセスすればこれらの情報を直接参照できるようになります。

サブドメインは追加ドメインと同じステータスとなるため、同じツールとサービスをサブドメインに対して設定できます。たとえば、SSL 保護、Web Presence Builder、ウェブ統計などを使用できます。

➤ サイトの一部または独立サイトにサブドメインをセットアップするには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、アカウントに関連付けられた複数のウェブスペースへのアクセス権がある場合は、画面上部にある **[契約]** メニューで必要なウェブスペースを選択してください。
2. **[ウェブサイトとドメイン]** タブをクリックします。
3. **[新しいサブドメインの追加]** をクリックします。
4. 以下を指定します。
 - a. **[サブドメイン名]** ボックスに、メインサイトのドメイン名に追加するアドレスの一部を入力します。
 - b. **[ドキュメントルート]** ボックスに、このサイトのすべてのファイルとサブディレクトリを格納するディレクトリのロケーションを入力します。メインサイトのデフォルトディレクトリ「httpdocs」を使用することも、他のディレクトリを指定することもできます。
5. **[OK]** をクリックします。

新しいサブドメイン名が画面下にリストされます。

サブドメインのウェブスペース（サーバ上のディレクトリ）にウェブコンテンツをアップロードできます。この手順は「FTP 経由でコンテンツをアップロードする（9817ページ）」を参照してください。

ワイルドカードサブドメイン

サブドメイン名にアスタリスク（*）を入力すると、Panelはいわゆる「ワイルドカードサブドメイン」を作成します。Panelに登録されていない任意のサブドメイン名を入力したサイト訪問者は、このワイルドカードサブドメインにリダイレクトされます。ワイルドカードサブドメインは任意のドメイン名レベルに作成でき、たとえば `*.mystore.example.com` サブドメインなどを作成可能です（詳細は74ページ）。

ドメインエイリアスを追加する

ドメイン名レジストラに、このサーバでホスティングする同一のウェブサイトのポイントする複数のドメイン名を登録している場合、ドメインエイリアスをセットアップする必要があります。

➤ **ドメインエイリアスをセットアップするには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある **[契約]** メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. **[ウェブサイトとドメイン]** タブで **[高度なオペレーション]** グループにある **[ドメインエイリアス]** に進みます。
3. **[ドメインエイリアスの追加]** をクリックします。
4. 希望するドメインエイリアス名を入力します(例：alias.com)。
ドメインエイリアスには、文字、数字、ハイフンを使用できます。ドメインエイリアスのドット間の長さは、63文字以内にしてください。
5. ドメインエイリアスでプライマリドメインと同じDNSゾーンリソースレコードを使用したい場合は、**[プライマリドメインとDNSゾーンを同期する]** チェックボックスをオンにします。この設定により、今後プライマリドメインゾーンのリソースレコードに変更があれば、このドメインエイリアスのDNSゾーンにも適用されます。
6. ドメインエイリアスの下のメールアドレスに送信されたメールを、オリジナルドメイン名の下のメールアドレスにリダイレクトしたい場合、**[メールサービス]** チェックボックスをオンにします。
例えば、mail@yourdomain.com というメールアドレスがあり、ドメイン名のエイリアスとして alias.com を設定しているとします。この場合、mail@alias.com 宛てに送信されたメールをメールボックス mail@yourdomain.com で受け取るには、**[メールサービス]** チェックボックスをオンにします。
7. **[ウェブサービス]** チェックボックスをオンにします。この設定を行わないと、ブラウザでドメインエイリアスを指定してサイトを訪問してきたユーザに、ウェブコンテンツが表示されません。
8. Linuxプラットフォームがベースのホスティングサービスを使用しており、ドメインエイリアス経由でアクセス可能にしたいサイトにJavaアプリケーションがインストールされている場合は、**[Javaウェブアプリケーション]** チェックボックスをオンにします。
9. **[OK]** をクリックします。

➤ **エイリアスのプロパティを変更するには：**

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [ドメインエイリアス] に進みます。
2. 必要なエイリアス名をクリックします。
3. [ツール] グループの [プリファレンス] をクリックします。
4. 必要に応じてドメインエイリアスのプロパティを変更し、[OK] をクリックします。

➤ **ドメインエイリアスのDNSゾーンのリソースレコードを変更するには：**

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [ドメインエイリアス] に進みます。
2. 必要なエイリアス名をクリックします。
3. [DNS設定] をクリックします。
4. 必要に応じてリソースレコードを追加、編集、削除します。
 - ゾーンにリソースレコードを追加するには、[新しいレコードの追加] をクリックします。必要な値を指定し、[OK] をクリックしてゾーンに値を書き込みます。
 - リソースレコードを変更するには、[ホスト] 列で当該レコードのハイパーリンクをクリックします。
 - レコードを削除するには、削除するレコードのチェックボックスをオンにして [削除] をクリックします。

➤ **ドメインからエイリアスを削除するには：**

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [ドメインエイリアス] に進みます。
2. 削除するドメインエイリアスのチェックボックスをオンにします。
3. [削除] をクリックします。
4. 削除を確認して [OK] をクリックします。

(Linux) ワイルドカードサブドメインを追加する

ワイルドカードサブドメインは、存在しないサブドメインへの訪問者を、いずれかのウェブサイト（通常はメインウェブサイト）にリダイレクトするために使用します。この機能を使用して、次のようなことが可能です。

- ウェブサイトの構成を改良し、マーケティングキャンペーンを実施する。
たとえば、「*vps-limited-offer*」というサブドメインが存在せず、「*limited-vps-offer.example.com*」から「*example.com*」にユーザを転送したい場合があります。
- ユーザがサブドメイン名を誤入力しても、ウェブサイトを閲覧できるようにする。
「*www*」という接頭辞が付くウェブサイト名を「*ww.example.com*」のように誤入力することはよくあります。
- 最後に、一部のウェブサイトアプリケーション（WordPress など）では、ユーザエクスペリエンス向上のために、ワイルドカードサブドメインを使用して動的サブドメインを作成します。

注：ワイルドカードサブドメインを追加しても、既存のサブドメインからのトラフィックは影響を受けません。

ワイルドカードサブドメインを追加するには

1つの契約下のドメイン名に対し、ワイルドカードサブドメインを1つずつ追加することができます。これを行うには、**[ウェブサイトとドメイン]** タブで、任意のドメイン名に「***」という名前の新しいサブドメインを追加します（例：**.example.com*）。このサブドメインに、カスタマイズしたスクリプトやウェブサイトコンテンツを挿入するには、サブドメインに対してカスタムのドキュメントルートを指定します。

ワイルドカードサブドメインの制限事項

ワイルドカードサブドメインは通常のサブドメインと同様に機能しますが、以下の例外があります。

- *Linux* 限定の機能である。現在、ワイルドカードサブドメインに対応しているのは Panel for Linux のみです。
- 名前の変更ができない。このようなサブドメインは名前を変更できません。
- DNS ゾーンがない。ワイルドカードサブドメインは、Panel DNS サーバで独自のゾーンレコードを持ちません。代わりに、対応するドメイン名に関連付けられた IP アドレスをポイントする A レコードを持ちます。

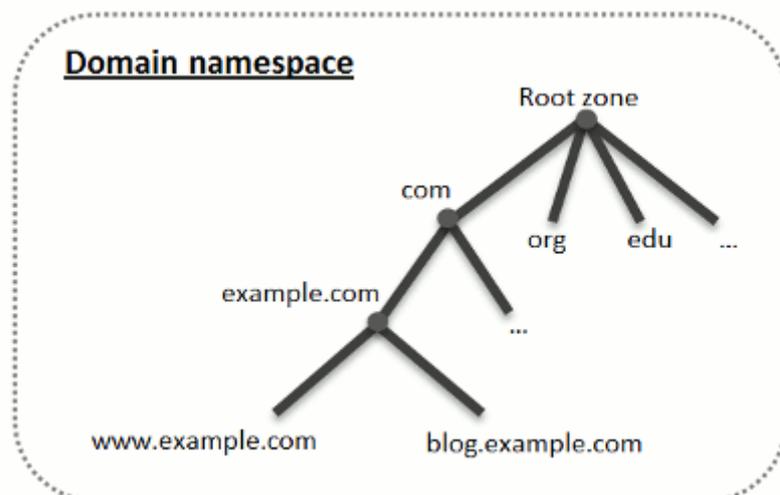
- APS アプリケーションをインストールできない。Plesk ユーザは、APS アプリケーションをワイルドカードサブドメインにインストールできません。
- *Web Presence Builder* サイトは使用不可。Plesk ユーザは、Web Presence Builder のサイトをワイルドカードサブドメインに対して編集および公開できません。

(高度) ドメイン用に DNS を構成する

ドメインネームシステム (DNS) とは、階層構造のネーミングシステムであり、人が理解できるドメイン名をウェブホストに関連付けられた数字の識別子 (IP アドレス) に変換します。このような変換を「名前解決」と呼びます。

DNS 名前解決

DNS のベースになるのは、「ドメイン名前空間」という階層状のツリー構造です。このグローバルな名前空間にはすべての可能なドメイン名が含まれ、「ドメインゾーン」という論理的な部分に分割されます (下図参照)。ドメインゾーンは名前空間の一部であり、特定のドメインのアドレスが含まれます。アドレスは、当該ゾーンに対して権限を持つ別のネームサーバ上のファイルに保存されます。たとえば、ブラウザが「`www.example.com`」へのアクセスを試行すると、「`example.com`」ゾーンに対して権限を持つサーバからサイトの IP アドレスを受け取ります。DNS の機能について詳しくは、該当するドキュメント (Microsoft TechNet の <http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc958978.aspx> など) を参照してください。



ドメインを購入すると、レジストラから、このドメインとサブドメインに対応する DNS ゾーンへのアクセスが付与されます。レジストラにゾーンの管理を許可することも、ゾーンの管理を Panel に移管することもできます。大半の Panel ユーザは、ゾーン管理を Panel に移管することにより、Panel ホスティングアカウントからのゾーンの直接管理やその他のメリットを活用しています。Panel にゾーンの管理を移管する方法について詳しくは、「**プライマリ DNS サーバとして Panel を使用する**」のセクション(7717 ページ)を参照してください。

ゾーンに対する権限を持たせたい DNS サーバが他に存在する場合、上級ユーザは Panel をセカンダリ DNS サーバとしてセットアップすることができます。この場合、Panel にはゾーンのコピーのみが保存され、コントロールパネルからゾーンを管理することはできません。Panel DNS サーバは、プライマリネームサーバにアクセスできなくなった場合やプライマリネームサーバが停止した場合にのみ使用されます。Panel をセカンダリ DNS サーバとして使用する方法について詳しくは、「**セカンダリ DNS サーバとして Panel を使用する**」のセクション(8217 ページ)を参照してください。

Panel を DNS サーバとして使用しない場合、ゾーン管理に関するすべての作業はレジストラのサイトで行う必要があります。一部のレジストラは、リモート DNS ゾーン管理をサポートしています。ホスティングプロバイダがこの機能を使用している場合も、権限を持つネームサーバを問わず、DNS ゾーンを Panel で変更することが可能です。Panel DNS サーバを無効化し、ゾーンをリモート管理する方法について詳しくは、「**Panel におけるレジストラの DNS 設定**」のセクション(8317 ページ)を参照してください。

プライマリ DNS サーバとして Panel を使用する

Panel はそれぞれの新しいドメイン名に対し、サービスプロバイダが構成された設定に従って DNS ゾーンを自動作成します。自動構成で問題ないはずですが、ドメイン名ゾーンにカスタム変更を施す必要がある場合は、Parallels Panel を使用して実行可能です。

➤ *ドメインの DNS ゾーンのリソースレコードを表示するには：*

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [DNS設定] に進みます。
2. ドメイン名が複数存在する場合は、管理したいDNS設定を持つドメイン名を選択してください。

画面に、該当ドメインのリソースレコードがすべて表示されます。

➤ *ゾーンに新しいリソースレコードを追加するには：*

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [DNS設定] に進みます。
2. ドメイン名が複数存在する場合は、管理したいDNS設定を持つドメイン名を選択してください。
3. [レコードを追加する] をクリックします。
4. リソースレコードのタイプを選択し、適切なデータを指定します。
 - **【NS レコード】**（ドメインの DNS ゾーンを決めるネームサーバのドメイン名を指定するレコード）の場合：ドメイン名（またはサブドメイン）を指定して、該当するネームサーバのドメイン名を入力する必要があります。メインドメインの NS レコードを定義する場合は、ドメイン名フィールドを空欄にしてください。サブドメイン用のネームサーバを定義する場合は、ドメイン名の入力フィールドにサブドメイン名を入力してください。次に、ネームサーバの入力フィールドにネームサーバのドメイン名を入力します（例：ns1.mynameserver.com）。
 - **【A および AAAA レコード】**（IP アドレスとドメイン名を関連付けるレコード）の場合：ドメイン名と IP アドレスを指定する必要があります。メインドメインのレコードを定義する場合は、ドメイン名の入力フィールドを空欄にしてください。ネームサーバのレコードを定義する場合は、ドメイン名のフィールドに「ns1」または「ns2」と入力します。次に、ドメイン名を関連付ける IP アドレスを入力します。
 - **【CNAME レコード】**（ドメインネームシステムでメインのドメインアドレスに関連付けるサブドメイン（または www など、サブドメインに似たドメインエイリアスを指定するレコード）の場合：サブドメイン名または www エイリアスを入力してから、メインドメイン名を入力します。

- 【MX レコード】（該当ドメインで推奨されるメールサーバのホスト名を指定するレコード）の場合：メールドメイン（またはサブドメイン）、メールを受信するメールエクスチェンジサーバのドメイン名、およびサーバの優先度を指定する必要があります。メインドメインに MX レコードを設定する場合は、入力フィールドを空欄にしてください。次に、メールサーバのドメイン名を入力します。「mail.myhostname.com」という名前のリモートメールサーバを実行している場合は、【メールエクスチェンジサーバ】フィールドに「mail.myhostname.com」と入力します。続いて、優先度を指定します。優先度は「0」が最高で「50」が最低となります。
 - 【PTR レコード】（リバース DNS ルックアップ（IP アドレスをドメイン名に変換）に必要なレコード）の場合：IP アドレス/マスクを入力してから、この IP アドレスを変換する際のドメイン名を入力します。
 - 【TXT レコード】（人間が判読できるテキストの入力に使用するレコード）の場合：任意のテキスト文字列または SPF レコードを入力することができます。
 - 【SRV レコード】メール以外のサービスのロケーション指定に使用するレコードの場合：サービス名、プロトコル名、ポート番号、およびターゲットホストを入力する必要があります。サーバおよびプロトコル名の先頭はアンダースコア（`_`）にします。ターゲットホストの優先度も指定できます。優先度が同じフィールドは、重み付けすることができます。
4. 【OK】をクリックして【アップデート】をクリックします。

➤ **リソースレコードのプロパティを変更するには：**

1. 【ウェブサイトとドメイン】タブで【DNS設定】に進みます。
2. ドメイン名が複数存在する場合は、管理したいDNS設定を持つドメイン名を選択してください。
3. 【ホスト】列で、変更したいリソースレコードに対応するハイパーリンクをクリックします。
4. レコードを変更して【OK】をクリックし、【アップデート】をクリックします。

上記で説明したリソースレコードに加えて、SOA（Start of Authority）レコードもあります。このレコードは、この DNS ネームサーバがドメインの DNS ゾーン用であることを表します。また、ドメインネームシステム内の DNS ゾーンに関する情報の伝搬に影響を与える設定も含まれています。

➤ **ドメインの SOA レコード内のエントリを変更するには：**

1. 【ウェブサイトとドメイン】タブで【DNS設定】に進みます。
2. ドメイン名が複数存在する場合は、管理したいDNS設定を持つドメイン名を選択してください。
3. 【SOAレコード】をクリックします。

4. 必要な値を指定します。

- **更新間隔**：セカンダリネームサーバが、プライマリネームサーバに対して、ドメインのゾーンファイルが変更されていないかを確認する間隔です。Panelでのデフォルト値は3時間です。
- **再試行間隔**：セカンダリサーバが、失敗したゾーン転送を再試行するまで待機する時間です。一般に、この時間は更新間隔より短くします。Panelでのデフォルト値は1時間です。
- **失効間隔**：更新期間中にゾーンが変更または更新されなかった場合に、セカンダリサーバが問い合わせに回答しなくなるまでの時間です。Panelでのデフォルト値は1週間です。
- **最小 TTL**：セカンダリサーバがマイナスの応答をキャッシュするまでの時間です。Panelでのデフォルト値は3時間です。
- **デフォルト TTL**：他のDNSサーバがレコードをキャッシュに保存するまでの時間です。Panelでのデフォルト値は1日です。

5. [OK] をクリックして [アップデート] をクリックします。

一部のハイレベルDNSゾーン（大部分はヨーロッパ）に登録された多くのドメインでは、IETFとRIPEの推奨するシリアル番号フォーマットを使用することが義務付けられています。これらのゾーンに登録されているドメインを使用しており、レジストラにSOAシリアル番号を拒否された場合は、IETFとRIPEが推奨するシリアル番号フォーマットを使用すれば問題が解決します。

Panelが管理するサーバは、UNIXタイムスタンプ構文を使用してDNSゾーンを構成します。UNIXタイムスタンプとは、1970年1月1日（Unix Epoch）を起点にした秒数です。この32ビットのタイムスタンプは、2038年6月8日にオーバーフローしてしまいます。

RIPEでは、YYYYMMDDNNフォーマットの使用を推奨しています。YYYYは年（4桁）、MMは月（2桁）、DDは日（2桁）、NNは同じ日付に作成されたバージョンです（2桁）。YYYYMMDDNNフォーマットは4294年までオーバーフローしません。

➤ **ドメインのSOAシリアル番号フォーマットをYYYYMMDDNNフォーマットに変更するには：**

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [DNS設定] に進みます。
2. ドメイン名が複数存在する場合は、管理したいDNS設定を持つドメイン名を選択してください。
3. [SOAレコード] をクリックします。
4. [IETFとRIPEが推奨するシリアル番号フォーマットを利用する] チェックボックスをオンにします。

注： 選択したフォーマットで生成した SOA シリアル番号のサンプルを参照してください。生成した番号が現在のゾーン番号よりも小さい場合、変更によってこのドメイン用の DNS が一時的に誤動作する場合があります。ゾーンの更新は、しばらくの間インターネットユーザに表示されない可能性があります。

5. [OK] をクリックして [アップデート] をクリックします。

➤ **ゾーンからリソースレコードを削除するには：**

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [DNS設定] に進みます。
2. ドメイン名が複数存在する場合は、管理したいDNS設定を持つドメイン名を選択してください。
3. 削除するレコードのチェックボックスをオンにします。
4. [削除] をクリックします。
5. 削除を確認して [OK] をクリックして、[アップデート] をクリックします。

➤ **サーバで使用されているデフォルト DNS テンプレート設定に従って元のゾーン構成に復元するには：**

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [DNS設定] に進みます。
2. ドメイン名が複数存在する場合は、管理したいDNS設定を持つドメイン名を選択してください。
3. [デフォルトに復元する] をクリックします。
4. [IPアドレス] メニューで、ゾーンの復元に使用するIPアドレスを選択します。
5. ドメインにwwwエイリアスが必要かどうかを指定します。
6. [DNSゾーンの復元を確認する] チェックボックスをオンにして、[OK] をクリックします。

➤ **ドメインの SOA シリアル番号フォーマットをデフォルト (UNIX タイムスタンプ) に戻すには：**

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [DNS設定] に進みます。
2. ドメイン名が複数存在する場合は、管理したいDNS設定を持つドメイン名を選択してください。
3. [SOAレコード] をクリックします。

4. [IETFとRIPEが推奨するシリアル番号フォーマットを利用する]チェックボックスをオフにします。

注： 選択したフォーマットで生成した SOA シリアル番号のサンプルを参照してください。生成した番号が現在のゾーン番号よりも小さい場合、変更によってこのドメイン用の DNS が一時的に誤動作する場合があります。ゾーンの更新は、しばらくの間インターネットユーザに表示されない可能性があります。

5. [OK] をクリックして [アップデート] をクリックします。

デフォルトでは、DNS ゾーン転送が許可されるのは、各ゾーンに含まれる NS レコードで指定されているネームサーバのみです。Windows ベースのホスティングアカウントを使用している場合、ゾーン転送の設定を変更できます。

➤ **ドメイン名レジストラから、すべてのゾーンへの転送を許可するよう求められている場合は、以下を実行してください。**

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [DNS設定] に進みます。
2. ドメイン名が複数存在する場合は、管理したいDNS設定を持つドメイン名を選択してください。
3. [ゾーン転送] をクリックします。すべてのゾーンへのDNSゾーン転送が許可されているホストがすべて表示されます。
4. レジストラのIPアドレスまたはネットワークアドレスを指定して、[ネットワーク追加] をクリックします。

セカンダリ DNS サーバとして Panel を使用する

ホスティングアカウントでウェブサイトホスティングしており、このサイトのプライマリ（マスタ）ネームサーバとして機能するスタンドアロン DNS サーバが存在する場合は、セカンダリ（スレーブ）ネームサーバとして機能するように Panel の DNS サーバをセットアップすることができます。

➤ **Panel の DNS サーバをセカンダリネームサーバとして機能させるには：**

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [DNS設定] に進みます。
2. ドメイン名が複数存在する場合は、管理したいDNS設定を持つドメイン名を選択してください。
3. [DNSサービスモードを切り替える] をクリックします。
4. [レコードを追加する] をクリックします。
5. プライマリ（マスター）DNSサーバのIPアドレスを指定します。
6. [OK] をクリックして [アップデート] をクリックします。
7. サーバ上でセカンダリネームサーバを持つ必要があるウェブサイトごとに、ステップ2~6を繰り返します。

➤ **Panel の DNS サーバをプライマリバックとして機能させるには：**

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [DNS設定] に進みます。
2. ドメイン名が複数存在する場合は、管理したいDNS設定を持つドメイン名を選択してください。
3. [DNSサービスモードを切り替える] をクリックします。
そのゾーンの元のリソースレコードが復元されます。

Panel におけるレジストラの DNS 設定

一部のウェブサイト进行管理する外部プライマリネームサーバとセカンダリネームサーバがある場合、これらの各サイトに対して Panel の DNS サービスをオフに切り替えてください。

➤ 外部ネームサーバで管理しているサイトに対して Panel の DNS サービスをオフに切り替えるには：

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [DNS設定] に進みます。
2. ドメイン名が複数存在する場合は、管理したいDNS設定を持つドメイン名を選択してください。
3. [DNSサービスを無効にする] をクリックします。

ゾーンの DNS サービスを無効にすると、画面が更新され、ネームサーバのリストだけが表示されます。リストに含まれるネームサーバのレコードは、システムに影響を与えません。これらのレコードはクリックブルリンクとして画面に表示され、リンクをクリックすると、権限を持つ外部のネームサーバで管理されているゾーンの構成を確認することができます。

4. 権限のあるネームサーバで管理されているゾーンの構成を確認するには：
 - a. ゾーンに対して権限のある該当ネームサーバのエントリをリストに追加します。[レコードの追加] をクリックし、ネームサーバを指定して [OK] をクリックし、[アップデート] をクリックします。
 - b. テストするネームサーバごとに、これを繰り返します。レコードがリストに表示されます。
 - c. 作成したレコードをクリックします。

Panel は、リモートネームサーバからゾーンファイルを取得し、リソースレコードをチェックして、ドメインのリソースが正しく解決されていることを確認します。結果が解釈され、画面に表示されます。

コントロールパネルが課金システムと統合されている場合、ドメインに対する以下の操作をパネルから実行できます。

- レジストラのサイトでドメイン管理パネルにアクセスするためのパスワードを設定する
- 他のプロバイダへの移管のためにドメインをロック/ロック解除する
- ドメイン登録者やその他の連絡先情報を変更する
- ドメインレジストラが管理しているドメインゾーンの DNS 設定を変更する
- ドメイン名登録事業者でのドメインアカウントの自動更新を構成する

➤ **レジストラのサイトでドメイン管理コントロールパネルにアクセスするための新しいパスワードを設定するには：**

1. [アカウント]タブに進みます。
2. 設定を変更するドメイン名の横にある [ドメイン情報を表示する] リンクをクリックします。
3. [ドメインパスワードを変更する] をクリックします。
4. 新しいパスワードを入力し [OK] をクリックします。

➤ **他のプロバイダへの移管のためにドメイン名をロック/ロック解除するには：**

1. [アカウント]タブに進みます。
2. 設定を変更するドメイン名の横にある [ドメイン情報を表示する] リンクをクリックします。
3. [レジストラのロック設定を変更する] をクリックします。
4. ドメイン名転送を許可するには、 [ロック] チェックボックスをクリアして、 [OK] をクリックします。

➤ **ドメイン所有者の連絡先情報、技術情報、管理情報、課金情報などを変更するには：**

1. [アカウント]タブに進みます。
2. 設定を変更するドメイン名の横にある [ドメイン情報を表示する] リンクをクリックします。
3. [連絡先情報を編集する] をクリックします。
4. 必要な変更を加えて [OK] をクリックします。

➤ **ドメインのDNS設定を変更するには：**

1. [アカウント]タブに進みます。
2. 設定を変更するドメイン名の横にある [ドメイン情報を表示する] リンクをクリックします。
3. [DNS設定を編集する] をクリックします。
4. ウェブサイトのDNSゾーンを管理するドメインネームサーバと、ウェブサイトをホスティングしているサーバのIPアドレスを指定します。

5. ウェブサイトのDNSゾーンがドメインレジストラによって管理されている場合、貴社のウェブサイトのサービスにインターネット経由でアクセスする方法に影響を与えるその他のリソースレコードを指定することもできます。
6. [OK] をクリックすると変更が保存されます。

➤ **ドメイン名の自動更新を構成するには：**

1. [アカウント]タブに進みます。
2. 設定を変更するドメイン名の横にある [ドメイン情報を表示する] リンクをクリックします。
3. [ドメイン登録の自動更新を許可する] をクリックします。
4. ドメイン登録の自動更新を許可するには、[自動更新をオンにする] チェックボックスをオンにして、[OK] をクリックします。

ホスティング設定を変更する

Panel では、以下のような各種ホスティング設定を管理することができます。

- **基本設定**：ドメイン名やホスティングタイプなど。
- **セキュリティ設定**：サイト接続のセキュリティを SSL 証明書で強化するには、まず SSL サポートを有効化する必要があります。
- **スクリプト設定**：サイトでサポートするスクリプト言語を指定することができます。詳しくは、「**ウェブスクリプト設定**」のセクション（8917ページ）を参照してください。さらに、Panel は、サイト単位（サブドメイン単位）で PHP 言語のカスタム構成をサポートします。調整可能な PHP 設定について詳しくは、「**PHP 設定**」のセクション（8917ページ）を参照してください。

➤ **ホスティング設定を確認したり、サイトでサポートするホスティング機能やスクリプト言語を選択するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、アカウントに関連付けられた複数のウェブスペースにアクセスできる場合、画面上部にある **[契約]** メニューで、ウェブサイトがホスティングされているウェブスペースを選択してください。
2. **[ウェブサイトとドメイン]** タブをクリックします。
3. 画面の下部にあるウェブサイトのリストで、ウェブサイトのアドレスをクリックします。
4. 次のホスティング設定とオプションをレビューまたは変更します。
 - **ホスティングタイプ**：デフォルトで選択されているホスティング構成のタイプは、ウェブサイトホスティングです。つまり、ウェブサイトはこのサーバでホスティングされます。また、訪問者を他のウェブサイトにもリダイレクトすることもできます（別名「ウェブ転送」）。メールボックスとメールリングリストのみをこのドメインでホスティングする必要がある場合は、ウェブホスティングサービスをオフにしてください。あるいは、ウェブサイトのドメイン名の下でホスティングされているウェブサイトとすべてのメールボックスおよびメールリングリストを一時停止することもできます。
 - 訪問者を他のサイトにリダイレクトするには、**[変更]** リンクをクリックし、**[転送]** オプションを選択して転送先のアドレスを入力し、転送方法を選択して **[OK]** をクリックします。
 - ウェブサービスをオフにして、ドメイン下のメールサービスのみを使用するには、**[変更]** リンクをクリックし、**[ウェブホスティングなし]** オプションを選択して、**[OK]** をクリックします。

- ウェブサイトとそれに関連付けられたすべてのサービス（メールを含む）を一時停止するには、[一時停止] リンクをクリックします。このドメインまたはウェブサイトをオンラインに戻す必要がある場合、[ウェブサイトとドメイン] タブでドメイン名を選択し、[有効化] リンクをクリックします。
- **ドキュメントルート**： サイトのすべてのファイルとサブディレクトリを格納しているディレクトリの場所です。デフォルトディレクトリの「httpdocs」を使用することも、他のディレクトリを指定することもできます。
- **SSL サポートを有効にする**： 一般に、SSL 暗号化は、専用 IP アドレスで機能する e-コマースウェブサイトでのオンライントランザクション中に機密データの転送を保護するために使用します。暗号化プロセスで使用される SSL 証明書は、通常、単一 IP アドレスの単一ドメイン名に適用されます。そのため、SSL による保護が必要なサイトは、専用 IP アドレス上でホスティングする必要があります。例外はサブドメインであり、ワイルドカード証明書で保護することができます。ドメイン名の異なる複数のウェブサイトを単一の IP アドレス上でホスティングするウェブサーバに SSL 証明書をインストールすることは技術的には可能ですが、この方法はお勧めしません。暗号化は行われますが、ユーザがセキュアサイトに接続しようとする警告メッセージが表示されます。ウェブサイトの SSL 暗号化を許可するには、[SSL サポートを有効にする] チェックボックスをオンにしてください。
- **スクリプト言語**： ウェブサーバでサポートしたいプログラミング言語およびスクリプト言語を、Active Server Pages (ASP)、Server Side Includes (SSI)、PHP hypertext preprocessor (PHP)、Common Gateway Interface (CGI)、Fast Common Gateway Interface (FastCGI)、Perl、Python から指定します。デフォルトでは、PHP はセーフモードで動作するように構成されています。これは、機能的な制限を加えてホスティングセキュリティを強化するためです。PHP セーフモードについて詳しくは、<http://php.net/features.safe-mode> を参照してください。
- **Microsoft FrontPage 設定**： Microsoft FrontPage は一般的なウェブサイト開発ツールです。ユーザが Microsoft FrontPage でコンテンツを作成および公開できるようにするためには、[Microsoft FrontPage サポート]、[Microsoft FrontPage over SSL サポート]、および [リモート FrontPage オーサリング許可] オプションを選択します。
- **ウェブ統計**： ウェブサイト訪問者に関するグラフィカルレポートとチャートを表示するために使用するウェブ統計ソフトウェアを選択します。また、パスワード保護されたディレクトリである<http://your-website/plesk-stat/webstat> にアクセスして統計レポートを利用できるようにするためには、対応するチェックボックスをオンにしてください。
- **カスタムエラードキュメント**： サイトの訪問者が要求したページが見つからない場合、ウェブサーバはエラーメッセージを示す標準 HTML ページを生成して表示します。独自のエラーページを作成してウェブサーバでそのページを使用するには、[カスタムエラードキュメント] チェックボックスをオンにします。

- **追加の書込/編集パーミッション** (Windows ホスティングのみ) : このオプションは、httpdocs ディレクトリの root にあるファイルベースのデータベース (Jet など) をサイトのウェブアプリケーションで使用する場合に必要です。このオプションを選択すると、ウェブサイトのセキュリティが著しく低下する恐れがあります。
5. ホスティング設定の表示または変更の完了後、[OK] をクリックします。

ウェブスクリプト設定

契約内の各ウェブサイトに対して、ウェブサーバでサポートしたいプログラミング言語およびスクリプト言語を、Active Server Pages (ASP)、Server Side Includes (SSI)、PHP hypertext preprocessor (PHP)、Common Gateway Interface (CGI)、Fast Common Gateway Interface (FastCGI)、Perl、Python から指定します。Panel 10.4 以降、契約内の各ウェブサイト（またはサブドメイン）の PHP 設定を個別に構成することが可能になりました。この機能は、適切なパーミッションが契約に付与されている場合のみ使用できます。PHP のカスタム構成について詳しくは、「PHP 設定」のセクション（8917ページ）を参照してください。

PHP 設定

PHP とは、動的なウェブページの作成でよく用いられるスクリプト言語です。最新のウェブサイトやウェブアプリケーションの多くは、PHP スクリプトをベースにしています。従って、サイト管理者は PHP スクリプトの実行を制御する方法を理解しておく必要があります。一般に、PHP の動作は多数の構成設定で定義します。これらの設定により、パフォーマンス（たとえばスクリプトで使用できるメモリ量）やセキュリティ（たとえばファイルシステムとサービスへのアクセス）などに関する様々なスクリプト実行の仕様が決まります。サイト管理者はこれらの設定を様々な理由で調整することができます。

- スクリプトの誤記述によるメモリーリークやサーバハングアップを防ぐため。
- 悪意あるスクリプトからデータを保護するため。
- 特定のウェブアプリケーションの要件を満たすため。
- 自社開発のスクリプトなどをテストするため。

一般に、PHP 設定はプロバイダのポリシーによって規定されます。Panel 10.4 より、個々のウェブサイトまたは契約の PHP 設定をコントロールパネルで個別にカスタマイズする機能が提供されています。この機能を使用すれば、プロバイダによる PHP 構成はプロバイダの顧客のホスティングアカウントのプリセットとなり、顧客はいつでもこれを上書きすることができます。顧客のホスティングプランには、この機能を実行するために必要なパーミッションが付与されている必要があります。このセクションでは次に、ウェブサイト別のカスタム PHP 構成をセットアップする方法を説明します。

注：ウェブサイトのカスタム PHP 構成は、このサイトのすべてのサブドメインに対してプリセットとして機能します。ウェブサイトの場合と同様に、サブドメインについても個別の PHP 構成をさらに構成することができます。

基本の PHP 設定

ウェブサイトのカスタム PHP 構成に進む前に、**[ウェブサイトとドメイン]** でリストからサイトを選び、PHP がサポートされており以下のいずれかの事前定義されたモードで機能することを確認してください。

- ISAPI (Windows のみ) : このモードでは、サーバリソースの消費が抑えられますが、ウェブサイトは専用の IIS アプリケーションプール上で稼働している場合に限り、隔離されます。
- Apache モジュール (Unix のみ) : このモードでは、サーバリソースの消費が抑えられますが、セキュリティは最も低くなります。PHP セーフモードをオンにした場合に限り、サイトが隔離されます。
- FastCGI アプリケーション : このモードは CGI より高速ですが、メモリ消費が増えます。サイト隔離が可能です。
- CGI アプリケーション : このモードでは、処理速度が最も遅くなりますが、メモリの消費を最も低く抑えることができます。

注 : PHP を Apache モジュールから FastCGI アプリケーションに切り替えると、既存の PHP スクリプトが正しく機能しなくなる可能性があります。

Windows ホスティングを使用する場合、追加で PHP バージョンを選択することができます。古い PHP アプリケーションのホスティングに PHP 4.x が必要な場合を除き、必ず PHP 5.x を使用してください。

ウェブサイト用の PHP 構成をカスタマイズする

カスタマイズ可能なすべての PHP 設定は、ウェブサイトの [PHP 設定] タブにあります。便宜上、すべての PHP 設定は以下の 2 つのグループに分類されています。

- **パフォーマンス設定 :**
これらの設定は、スクリプトがシステムリソースをどのように処理するかを定義します。例えば、`memory_limit` パラメータを使用してスクリプト用のメモリ量を制限し、メモリリークを防ぐことができます。あるいは、スクリプトによるサーバの拘束を防止するために、`max_execution_time` を使用してスクリプトの実行が許可される最長時間を制限することができます。
- **共通設定 :**
このグループには、他の一般的な PHP 設定が含まれます。主な設定に、セキュリティ設定 (例 : PHP セーフモードのオン/オフ切り替え、グローバル変数の登録パーミッション)、エラー報告設定 (例 : エラーログディレクティブ) などがあります。

注 : PHP パフォーマンスと共通設定をカスタマイズできる範囲は、ホスティングプランの 2 つの別パーミッションによって制御されます。たとえば、共通 PHP 設定を管理するパーミッションがない場合、これらの設定は読取専用モードで顧客に表示されます。

PHP 設定の各パラメータの値を設定するには、プリセットから値を選択するか、カスタムの値を入力するか、あるいはデフォルト値を使用します。デフォルト値を使用する場合、プロバイダが定義した値が Panel で使用されます。特定の PHP 設定に関する情報は、該当するドキュメントを参照してください (例 : <http://php.net/manual/en/ini.list.php>)。

パフォーマンス設定または共通設定で、特定のパラメータが見つからない場合は、ホスティングプロバイダにお問い合わせください。

ASP.NET 設定 (Windows ホスティング)

➤ サイトの用の ASP.NET 設定を構成するには :

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [ASP.NET設定] に進みます。
3. データベースを使用するASP.NETアプリケーションのデータベース接続データを定める文字列をセットアップします。このオプションはASP.NET 2.0.xでのみ有効です。

ASP.NET 構成画面に初めてアクセスすると、共通の構造を持つ接続パラメータのサンプルが表示されます。サンプルを削除し、独自の文字列に変更することができます。

- 文字列を追加するには、[名前] および [接続パラメータ] 入力フィールドに必要なデータを入力し、横にある  をクリックします。
 - 文字列を削除するには、横にある  をクリックします。
4. [カスタムエラー設定] フィールドで、ASP.NETアプリケーションが返すカスタムエラーメッセージをセットアップします。
 - カスタムエラーメッセージモードを設定するには [カスタムエラーモード] メニューで適切なオプションを選択します。
 - オン: カスタムエラーメッセージが有効になります。
 - オフ: カスタムエラーメッセージが無効になり、エラーの詳細が表示されません。
 - リモートのみ: カスタムエラーメッセージはリモートクライアントに対してのみ表示され、ローカルホストユーザにはASP.NETエラーが表示されます。
 - 新規カスタムエラーメッセージ (※ [オフ] モードを選択していなければ適用されます) を追加するには、[ステータスコード] および [リダイレクトURL] フィールドに値を入力して  をクリックします。
 - ステータスコード: エラーページにリダイレクトされる HTTP ステータスコードを定義します。
 - リダイレクトURL: エラーに関する情報をクライアントに提供するエラーページのアドレスを定義します。

競合を避けるため、既存のエラーコードで新規カスタムエラーメッセージを追加することはできませんが、既存のコードに対してURLを再定義することはできます。

- リストからカスタムエラーメッセージを削除するには、横にある  をクリックします。
5. [コンパイルおよびデバッグ] フィールドで、コンパイル設定を構成します。
- 動的コンパイルファイルのデフォルトとして使用するプログラミング言語を決定するには、[ウェブページのデフォルト言語] リストからエントリを選択します。
 - リテールバイナリのコンパイルを有効にするには、[デバッグの有効化] チェックボックスをクリアしておきます。
 - デバッグバイナリのコンパイルを有効にするには、[デバッグの有効化] チェックボックスをオンにします。この場合、ソースコードの一部にエラーがあると、診断ページメッセージに表示されます。

注： アプリケーションをデバッグモードで実行すると、メモリやパフォーマンスのオーバーヘッドが発生します。デバッグは、アプリケーションのテスト時に使用して、本稼働段階では無効にすることをお勧めします。

6. [グローバル化設定] セクションで、ASP.NETアプリケーションのエンコーディング設定を構成します。
- すべての受信リクエストに適用するエンコーディングを設定するには、[リクエストのエンコーディング] フィールドにエンコーディングの値を入力します（デフォルトは「utf-8」です）。
 - すべてのレスポンスに適用するエンコーディングを設定するには、エンコーディング値を [レスポンスのエンコーディング] フィールドに入力します（デフォルトは「utf-8」です）。
 - .aspx、.asmx、.asax ファイルの解析にデフォルトで使用するエンコーディングを設定するには、エンコーディング値を [ファイルのエンコーディング] フィールドに入力します（デフォルトは「Windows-1252」です）。
 - 受信するウェブリクエストに対してデフォルトで使用するカルチャーを設定するには、[カルチャー] リストから適切なアイテムを選択します。
 - ロケールに依存するリソースの検索時にデフォルトで使用するカルチャーを設定するには、[UIカルチャー] リストで適切なアイテムを選択します。
7. ASP.NETアプリケーションのCAS（コードアクセスセキュリティ）信用レベルを [コードアクセスセキュリティ] フィールドに設定します。

CAS 信用レベルとは、アプリケーションの実行を割り当てるセキュリティゾーンであり、アプリケーションがアクセスできるサーバリソースを定義します。

重要： アセンブリに割り当てられた信用レベルが低すぎると、アセンブリは正しく機能しません。パーミッションレベルの詳細については

http://msdn.microsoft.com/library/jp-jp/dnnetsec/html/THCMCh09.asp?frame=true#c09618429_010 を参照してください。

8. **[スクリプトライブラリ設定]** フィールドで補助スクリプトの使用を有効にします。ウェブサイトを検証ウェブコントロールを使用している場合は、スクリプトライブラリ設定を指定する必要があります。このオプションはASP.NET 1.1.xでのみ有効です。
 - 補助スクリプト（具体的には、入力データ検証用オブジェクトを実行するスクリプト）を使用する必要がある場合は、.NET フレームワークスクリプトライブラリの設定を指定してください。これを行うには、**[Microsoft スクリプトライブラリへのパス]** フィールドに、スラッシュに続けてドメインのルートディレクトリから始まるパスを入力するか、**[Microsoft スクリプトライブラリへのパス]** フィールドの横にあるフォルダアイコンをクリックして必要なロケーションを選択します。
 - スクリプトを含むファイルを特定のロケーションへ自動インストールするには、**[インストール]** チェックボックスをオンにします。既存のファイルは上書きされます。
9. クライアントセッションパラメータを**[セッション設定]** フィールドに設定します。
 - アプリケーションのデフォルト認証モードをセットアップするには、**[認証モード]** リストで適切なアイテムを選択します。IIS 認証を使用している場合は、Windows 認証モードを選択してください。
 - セッションがアイドル状態のままでいられる時間をセットアップするには、**[セッションタイムアウト]** ボックスに分単位で時間を入力します。
10. **[OK]** をクリックすると、変更した内容がすべて適用されます。

ウェブサイトを一時的に停止または起動する

ウェブサイトを一時的に停止すると、このサイトはインターネット経由でアクセスできなくなり、サイトのドメイン名を使用するメールアドレスは機能が停止します。

➤ **ウェブサイトを一時的に停止するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、アカウントに関連付けられた複数のウェブスペースへのアクセス権がある場合は、画面上部にある**【契約】**メニューで必要なウェブスペースを選択してください。
2. **【ウェブサイトとドメイン】** タブをクリックします。
3. 一時停止するサイトのドメイン名をクリックします。
4. **【ホスティングタイプ】** フィールドの横にある**【停止する】** リンクをクリックします。

➤ **ウェブサイトを起動するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、アカウントに関連付けられた複数のウェブスペースへのアクセス権がある場合は、画面上部にある**【契約】**メニューで必要なウェブスペースを選択してください。
2. **【ウェブサイトとドメイン】** タブをクリックします。
3. 起動するサイトのドメイン名をクリックします。
4. **【ホスティングタイプ】** フィールドの横にある**【起動する】** リンクをクリックします。

ウェブサイトをメンテナンスのために一時停止する

サイトメンテナンスモードに切り替えると、サイトをメンテナンス用にシャットダウンし、一時的に閲覧できないことを訪問者に知らせて後で再アクセスするよう呼びかけることができます。サイトをメンテナンスモードにすると、ウェブサイトの訪問者に実際のサイトページではなく「503 Service Unavailable」エラーページが表示されます。

ウェブサーバのエラー文書（「カスタムエラーページ」オプション）をカスタマイズするオプションがホスティングプランに含まれている場合、ファイルマネージャを使用してエラーメッセージを開いてカスタマイズすることができます。「Service Temporarily Unavailable」メッセージの代わりに、「このサイトは現在メンテナンス中です。まもなく復旧いたしますのでお待ちください」といった独自のメッセージを記述することができます。

メンテナンス作業の終了後、サイトのメンテナンスモードをオフにして、訪問者がアクセスできるようにしてください。

➤ ウェブサイトのメンテナンスモードをオンにするには：

1. [ウェブサイトとドメイン] タブに進みます。
2. [ウェブサイトのメンテナンスモード]（[高度なオペレーション] グループ内）をクリックします。
3. 複数のウェブサイトがある場合、一時的に停止するサイトを特定し、[管理] リンクをクリックします。
4. [ウェブサイトのメンテナンスモードに切り替える] チェックボックスをオンにします。
5. [OK] をクリックします。

カスタムエラードキュメントオプションがサイトに対してオンになっている場合、「503 Service Temporarily Unavailable」ドキュメントを編集して、独自のテキストを追加できます。エラーページのカスタマイズ方法について詳しくは、「カスタムエラーページをセットアップする」のセクション（12717ページ）を参照してください。

➤ メンテナンスモードをオフにしてサイトをオンラインに戻すには：

1. [ウェブサイトとドメイン] タブに進みます。
2. ウェブサイトのリストで、オンラインに戻すウェブサイトを探します。このサイトのステータスインジケータは「メンテナンスのためにオフになっています」です。

3. [変更] リンクをクリックします。
4. [ウェブサイトのメンテナンスモードに切り替える] チェックボックスをクリアします。
5. [OK] をクリックします。

ウェブサイトコンテンツを管理する

ホスティングプランに Web Presence Builder を使用するウェブサイト作成および管理サービスが含まれている場合は、Web Presence Builder でウェブサイトを作成および管理することができます。あるいは、家や会社のコンピュータでサイトコンテンツ（サイトを構成するウェブページ、スクリプト、およびグラフィックファイル）を作成してから、次のいずれかの方法でコンテンツをサーバに公開することができます。

- FTP 接続を経由（最も一般的で簡単な方法）。
- コントロールパネルのファイルマネージャを経由。
- セキュアシェル接続を経由（Linux および FreeBSD オペレーティングシステムのユーザのみ）。
- Adobe Dreamweaver または Microsoft FrontPage ソフトウェア経由（Microsoft Windows オペレーティングシステムのユーザのみ）。

Web Presence Builder でウェブサイトを作成する

ホスティングサービスでオプションとして提供されていれば、Web Presence Builder を使用してウェブサイトを作成し、公開することができます。

Web Presence Builder で公開されたサイトがホスティングサービスに含まれていない場合や、サイト公開数の上限に到達した場合でも、Web Presence Builder でウェブサイトを新規作成できます。このとき、Web Presence Builder のウェブサイト編集オプションをすべて使用できます。このウェブサイトを公開するためには、ホスティングプランをアップグレードする必要があります。

Web Presence Builder は、HTML マークアップやグラフィックデザインのスキルがないユーザでもプロフェッショナルなサイトを作成できる便利なツールです。適切なページデザインとコンテンツテンプレートを選択し、ページにテキストを追加し、サイトを公開するだけです。

➤ *Web Presence Builder* を使用してウェブサイトの作成を開始するには :

1. [ホーム] タブまたは [ウェブサイトとドメイン] タブに進み、[Web Presence Builder を起動する] をクリックします。
構成されているドメイン名を 1 つだけの場合、Web Presence Builder は新しいウィンドウまたはタブで開きます。
2. 複数のドメイン名またはサブドメインがある場合、該当する [Web Presence Builder で編集する] リンクをクリックしてください。新しいブラウザウィンドウまたはタブに Web Presence Builder ウィザードが開きます。

FTP 経由でコンテンツをアップロードする

➤ **FTP 経由でウェブサイトを公開するには：**

1. 自分のFTPアカウントのユーザ名とパスワードを使用して、FTPクライアントプログラムでサーバのウェブスペースに接続します。

Panel でユーザ名とパスワードを変更するには、[ウェブサイトとドメイン] タブで [ウェブホスティング設定] を選択します。

FTP アドレスは ftp://your-domain-name.com という形式 (your-domain-name.com はサイトのインターネットアドレス) にします。

ファイアウォールを使用している場合は、パッシブモードを有効にします。

2. サイトのファイルとディレクトリをhttpdocsディレクトリにアップロードします。 CGIスクリプトを使用する場合、cgi-binディレクトリにスクリプトを置きます。

3. FTPセッションを終了します。

また、ウェブサイトコンテンツに関して他のユーザとコラボレーションする必要がある場合は、追加の FTP アカウントをセットアップすることもできます。詳しくは、「FTP アカウントを追加する」のセクションを参照してください。

ファイルマネージャを使用する

➤ *Panel* のファイルマネージャ経由でファイルをアップロードするには :

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、アカウントに関連付けられた複数のウェブスペースへのアクセス権がある場合は、画面上部にある [契約] メニューで必要なウェブスペースを選択してください。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブをクリックします。
3. [ファイルマネージャ] をクリックします。
4. ファイルまたはディレクトリを作成し、アップロードします。

サイトのファイルとディレクトリを `httpdocs` ディレクトリに置きます。 CGI スクリプトを使用する場合、`cgi-bin` ディレクトリにスクリプトを置きます。

- コンピュータからファイルをアップロードするには、[新しいファイルを追加する] をクリックし、[参照] ボタンをクリックしてファイルを探すか、[ファイルへのパス] ボックスでファイルのパスを指定してから [OK] をクリックします。
- サーバに ZIP アーカイブをアップロードしてコンテンツを抽出するには、[新しいファイルを追加する] をクリックし、[参照] ボタンをクリックしてアーカイブファイルを見つけ、[OK] をクリックしてください。 ファイルのアップロード後、左側のチェックボックスをオンにして、[ファイルの抽出] をクリックしてください。
- 現在のディレクトリ内に新しいディレクトリを作成するには、[新しいディレクトリを追加] をクリックします。
- 必要なディレクトリに新しいファイルを作成するには、[新しいファイルを追加する] をクリックします。 [ファイルを作成する] オプションをオンにしてファイル名を指定し、(ファイルマネージャで新しいファイルに基本的な HTML タグを挿入する場合は) [HTML テンプレートを使用する] チェックボックスをオンにして、[OK] をクリックします。 新しいページが開くので、ここで新しいファイルのコンテンツまたは HTML 形式のソースを入力します。 終了したら [OK] をクリックします。
- ZIP アーカイブにファイルを追加するには、パックしたいファイルを選択して [アーカイブに追加] をクリックし、アーカイブファイルの名前を指定してください。

ウェブコンテンツをファイルマネージャまたはFTP経由でアップロードすると、Panelはファイルやディレクトリに対して適切なアクセスパーミッションを自動的に設定します。Linuxベースのサーバでは、パーミッションを「`rwX rwX r--`」のように3セットの文字組み合わせで表現します。1番目のセットはファイルまたはディレクトリの所有者がどのような権限を持つかを示し、2番目のセットはファイルまたはディレクトリが属するユーザグループと、そのグループがファイルまたはディレクトリに対して持つ権限を示し、3番目のセットは、他のユーザ（そのサイトを訪問したインターネットユーザなど）がファイルまたはディレクトリに対して持つ権限を示します。「R」はファイルまたはディレクトリの読み取り、「W」はファイルまたはディレクトリへの書き込み、「X」はファイルの実行またはディレクトリ内の閲覧を許可するパーミッションです。

Linuxベースのホスティングアカウントでファイルまたはディレクトリのパーミッションを変更するには、[パーミッション]列でパーミッションのセットを示すハイパーリンクをクリックします。Windowsベースのホスティングアカウントを使用している場合、 アイコンをクリックしてください。必要に応じてパーミッションを変更して [OK] をクリックします。

ファイルのソースコードを編集するには、 をクリックします。

ビルトインの Visual Editor でウェブページを編集するには（Microsoft Internet Explorer ユーザのみ可能）、 をクリックします。HTMLファイルの編集時には、デフォルトで内部 WYSIWYG エディタが開きます。HTMLファイルのソースコードを編集するには、[HTML] をクリックします。WYSIWYG モードに戻るには、[デザイン] をクリックします。

ファイルを表示するには  をクリックします。

ディレクトリまたはファイルの名前を変更するには  をクリックします。ここで新しい名前を入力して [OK] をクリックします。

ディレクトリやファイルを新しい場所にコピーまたは移動するには、対応するチェックボックスで必要なディレクトリやファイルを選択し、[コピー/移動] アイコンをクリックします。コピーまたは名称変更するディレクトリやファイルのコピー先または移動先を指定し、コピーをする場合は [コピー] を、移動する場合は [移動] をクリックします。

ディレクトリまたはファイルの作成日を更新するには、[タイムスタンプの変更] をクリックします。タイムスタンプが現在のローカルタイムで更新されます。

ファイルをダウンロードするには、対応するアイコン  をクリックします。

ファイルまたはディレクトリを削除するには、対応するチェックボックスを選択し、[削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

ファイルおよびディレクトリのアクセスパーミッションを設定する (Linux ホスティング)

➤ **ファイルおよびディレクトリのパーミッションセットを確認または変更するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、アカウントに関連付けられた複数のウェブスペースへのアクセス権がある場合は、画面上部にある [契約] メニューで必要なウェブスペースを選択してください。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブをクリックします。
3. [ファイルマネージャ] をクリックします。
 ファイルとディレクトリに設定されているパーミッションが [パーミッション] 列に表示されます。パーミッションは「rwx rwx r--」のような文字の組み合わせ 3 セットで表現されます。1 番目のセットはファイルまたはディレクトリの所有者がどのような権限を持つかを示し、2 番目のセットはファイルまたはディレクトリが属するユーザグループと、そのグループがファイルまたはディレクトリに対して持つ権限を示し、3 番目のセットは、他のユーザ（そのサイトを訪問したインターネットユーザなど）がファイルまたはディレクトリに対して持つ権限を示します。「R」はファイルまたはディレクトリの読み取り、「W」はファイルまたはディレクトリへの書き込み、「X」はファイルの実行またはディレクトリ内の閲覧を許可するパーミッションです。
4. パーミッションを変更したいファイルまたはディレクトリを探し、[パーミッション] 列でハイパーリンクをクリックします。
5. 必要に応じてパーミッションを変更して [OK] をクリックします。

ファイルおよびディレクトリのアクセスパーミッションを設定する (Windows ホスティング)

➤ **ファイルまたはディレクトリのアクセスパーミッションを設定するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [ファイルマネージャ] に進みます。
3. アクセスパーミッションを設定するファイルまたはディレクトリを探し、該当するアイコン  をクリックします。
4. 以下を実行してください。
 - 親フォルダからファイルまたはフォルダにパーミッションを継承するには、[親フォルダからこのオブジェクト（およびすべての子オブジェクト）へのパーミッション継承を許可する。ここで明示的に定義したエントリを含める。] チェックボックスをオンにします。

- このフォルダに含まれるファイルとフォルダに、定義したフォルダパーミッションを継承させるには、**【すべての子オブジェクトのパーミッションエントリを、ここに表示されるエントリに置き換える】** チェックボックスをオンにします。
 - グループまたはユーザのパーミッションを変更または削除するには、パーミッションの名前を**【グループまたはユーザ名】** リストでクリックします。該当するグループまたはユーザが**【グループまたはユーザ名】** リストに存在しない場合は、リストの上にあるメニューで必要なユーザまたはグループ名を選択し、 をクリックします。リストに、ユーザ/グループ表示されます。それを選択します。
選択したユーザ/グループのパーミッションを許可または却下するには、**【次のユーザ/グループのパーミッション：<ユーザ/グループ名>】** にリストされたパーミッションに対して**【許可】** または**【却下】** チェックボックスをオンにします。
【許可】 または**【却下】** 列でチェックボックスがグレー表示されている場合、このパーミッションは親フォルダから継承されたものです。
 - 親フォルダから継承されたパーミッションを却下するには、**【却下】** 列のチェックボックスをオンにします。これにより、このファイルまたはフォルダに継承されたパーミッションは上書きされます。
 - 親フォルダから「拒否」として継承されたパーミッションを「許可」に設定するには、**【親フォルダからこのオブジェクト（およびすべての子オブジェクト）へのパーミッション継承を許可する。ここで明示的に定義したエントリを含める。】** チェックボックスをクリアします。これにより、継承されたパーミッションが削除されます。次に、必要に応じて**【許可】** および**【却下】** 列でチェックボックスをオンにします。
 - グループまたはユーザからアクセスパーミッションを削除するには、**【グループまたはユーザ名】** リストで必要な名前を選択し、横にある  アイコンをクリックします。
5. パーミッションを詳細に設定する必要がある場合は、**【拡張】** ボタンをクリックして以下の作業を行ってください。
- グループまたはユーザのパーミッションエントリを作成するには、該当する名前を**【グループまたはユーザ名】** リストで選択して  をクリックします。
 - グループまたはユーザにファイル/フォルダパーミッションを設定または変更するには、**【グループまたはユーザ名】** リストで名前を選択し、**【次のユーザ/グループのパーミッション：<ユーザ/グループ名>】** にリストされたパーミッションに対して**【許可】** または**【却下】** チェックボックスをオンにします。
 - グループまたはユーザのパーミッションエントリを削除するには、**【グループまたはユーザ名】** リストで名前を選択して  をクリックします。
 - **【次のユーザ/グループのパーミッション：<ユーザ/グループ名>】** で定義したパーミッションがフォルダの子オブジェクトに継承されるようにするには、**【すべての子オブジェクトのパーミッションエントリを、子オブジェクトに適用されるここに示すエントリに置き換える】** チェックボックスをオンにして、**【適用先】** リストでパーミッション継承先オブジェクトのチェックボックスをオンにします。
6. **【OK】** をクリックします。

ファイルおよびディレクトリのアクセスパーミッションを設定する（Linux ホスティング）

➤ **ファイルおよびディレクトリのパーミッションセットを確認または変更するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、アカウントに関連付けられた複数のウェブスペースへのアクセス権がある場合は、画面上部にある **【契約】** メニューで必要なウェブスペースを選択してください。
2. **【ウェブサイトとドメイン】** タブをクリックします。
3. **【ファイルマネージャ】** をクリックします。

ファイルとディレクトリに設定されているパーミッションが **【パーミッション】** 列に表示されます。パーミッションは「`rwX rwx r--`」のような文字の組み合わせ 3 セットで表現されます。1 番目のセットはファイルまたはディレクトリの所有者がどのような権限を持つかを示し、2 番目のセットはファイルまたはディレクトリが属するユーザグループと、そのグループがファイルまたはディレクトリに対して持つ権限を示し、3 番目のセットは、他のユーザ（そのサイトを訪問したインターネットユーザなど）がファイルまたはディレクトリに対して持つ権限を示します。「`R`」はファイルまたはディレクトリの読み取り、「`W`」はファイルまたはディレクトリへの書き込み、「`X`」はファイルの実行またはディレクトリ内の閲覧を許可するパーミッションです。

4. パーミッションを変更したいファイルまたはディレクトリを探し、**【パーミッション】** 列でハイパーリンクをクリックします。
5. 必要に応じてパーミッションを変更して **【OK】** をクリックします。

ファイルおよびディレクトリのアクセスパーミッションを設定する (Windows ホスティング)

▶ ファイルまたはディレクトリのアクセスパーミッションを設定するには:

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [ファイルマネージャ] に進みます。
3. アクセスパーミッションを設定するファイルまたはディレクトリを探し、該当するアイコン  をクリックします。
4. 以下を実行してください。

- 親フォルダからファイルまたはフォルダにパーミッションを継承するには、[親フォルダからこのオブジェクト (およびすべての子オブジェクト) へのパーミッション継承を許可する。ここで明示的に定義したエントリを含める。] チェックボックスをオンにします。
- このフォルダに含まれるファイルとフォルダに、定義したフォルダパーミッションを継承させるには、[すべての子オブジェクトのパーミッションエントリを、ここに表示されるエントリに置き換える] チェックボックスをオンにします。
- グループまたはユーザのパーミッションを変更または削除するには、パーミッションの名前を [グループまたはユーザ名] リストでクリックします。該当するグループまたはユーザが [グループまたはユーザ名] リストに存在しない場合は、リストの上にあるメニューで必要なユーザまたはグループ名を選択し、 をクリックします。すると、リストにユーザ/グループが表示されるので、これを選択します。

選択したユーザ/グループのパーミッションを許可または却下するには、[次のユーザ/グループのパーミッション: <ユーザ/グループ名>] にリストされたパーミッションに対して [許可] または [却下] チェックボックスをオンにします。 [許可] または [却下] 列でチェックボックスがグレー表示されている場合、このパーミッションは親フォルダから継承されたものです。

- 親フォルダから継承されたパーミッションを却下するには、[却下] 列のチェックボックスをオンにします。これにより、このファイルまたはフォルダに継承されたパーミッションは上書きされます。
- 親フォルダから「拒否」として継承されたパーミッションを「許可」に設定するには、[親フォルダからこのオブジェクト (およびすべての子オブジェクト) へのパーミッション継承を許可する。ここで明示的に定義したエントリを含める。] チェックボックスをクリアします。これにより、継承されたパーミッションが削除されます。次に、必要に応じて [許可] および [却下] 列でチェックボックスをオンにします。

- グループまたはユーザからアクセスパーミッションを削除するには、[グループまたはユーザ名] リストで必要な名前を選択し、横にある  アイコンをクリックします。
5. パーミッションを詳細に設定する必要がある場合は、[拡張] ボタンをクリックして以下の作業を行ってください。
- グループまたはユーザのパーミッションエントリを作成するには、該当する名前を [グループまたはユーザ名] リストで選択して  をクリックします。
 - グループまたはユーザにファイル/フォルダパーミッションを設定または変更するには、[グループまたはユーザ名] リストで名前を選択し、[次のユーザ/グループのパーミッション：<ユーザ/グループ名>] にリストされたパーミッションに対して [許可] または [却下] チェックボックスをオンにします。
 - グループまたはユーザのパーミッションエントリを削除するには、[グループまたはユーザ名] リストで名前を選択して  をクリックします。
 - [次のユーザ/グループのパーミッション：<ユーザ/グループ名>] で定義したパーミッションがフォルダの子オブジェクトに継承されるようにするには、[すべての子オブジェクトのパーミッションエントリを、子オブジェクトに適用されるここに示すエントリに置き換える] チェックボックスをオンにして、[適用先] リストでパーミッション継承先オブジェクトのチェックボックスをオンにします。
6. [OK] をクリックします。

ウェブサイトプレビューする

ドメインの購入後、登録が完了するまではしばらく時間がかかります。このような遅延が発生する理由は、ネームサーバがゾーン情報の更新を一定の間隔をあけて行うためです。したがって、ゾーンに関する情報がすべてのネームサーバに行き渡るまで、ドメイン名でサイトにアクセスすることはできません。ただし、**【ウェブサイトとドメイン】** タブのボタンを使用すれば、ドメイン名の伝搬中でも常にサイトにアクセス可能です。

ドメイン名の伝搬中、他の人もこのサイトにアクセスできます。このために、Panel はプロバイダのいずれかのサイトのサブドメインとして当該ウェブサイトを登録します。たとえば、自分（自社）のウェブサイトが「*my-domain.tld*」であり、プロバイダが *provider-domain.tld* でプレビューサービスを構成している場合、*my-domain.tld.192-0-2-12.provider-domain.tld* で自分のサイトにアクセスできます。ここで *192-0-2-12* は、このサイトの IP アドレスのドットをダッシュに置き換えたものです。

注： **【ウェブサイトとドメイン】** ページにサイトプレビューボタンがない場合は、ホスティングプロバイダにお問い合わせください。

(高度) コンテンツへのアクセスを制限する

許可されたユーザのみが閲覧できるディレクトリをサイトに作成する場合、パスワード保護により、これらのディレクトリへのアクセスを制限します。

➤ サイト内のディレクトリをパスワード保護し、許可されたユーザを指定するには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [仮想ホストテンプレート] に進みます。
3. [保護ディレクトリの追加] をクリックします。
4. [ディレクトリ名] ボックスで、パスワード保護するディレクトリのパスを指定します。

これは、例えば `/private` のように、サイト内に存在するディレクトリになります。保護したいディレクトリをまだ作成していない場合、パスとディレクトリ名を指定すると、Panelによって自動的に作成されます。

5. Linuxベースのホスティングアカウントを使用している場合、`cgi-bin` ディレクトリに保存されているCGIスクリプトを保護することもできます。これには、[ディレクトリ名] ボックスを `/` のままにして、[`cgi-bin`] チェックボックスをオンにします。
6. [保護エリアのタイトル] ボックスに、リソースの説明または保護エリアにユーザが訪問すると表示されるウェルカムメッセージを入力します。
7. [OK] をクリックします。指定したディレクトリは保護されます。
8. 許可されたユーザを追加するには、[新規のユーザの追加] をクリックします。
9. 保護されたエリアへのアクセスに使用するログイン名とパスワードを指定します。パスワードは5~14文字にします。[OK] をクリックします。

➤ 保護ディレクトリに許可されたユーザを追加するには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [仮想ホストテンプレート] に進みます。

3. 必要なディレクトリ名をクリックします。
4. **【新規ユーザの追加】** アイコンをクリックします。
5. 保護されたエリアへのアクセスに使用するログイン名とパスワードを指定します。パスワードは5~14文字にします。
6. **【OK】** をクリックします。

➤ **保護ディレクトリで許可されたユーザのパスワードを変更するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある**【契約】**メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. **【ウェブサイトとドメイン】** タブで**【高度なオペレーション】** グループにある**【仮想ホストテンプレート】** に進みます。
3. 必要なディレクトリ名をクリックします。許可されたユーザのリストが開きます。
4. ユーザ名をクリックします。
5. 新しいパスワードを指定し、確認のために再入力します。
6. **【OK】** をクリックします。

➤ **保護ディレクトリにユーザがアクセスするパーミッションを無効にするには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある**【契約】**メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. **【ウェブサイトとドメイン】** タブで**【高度なオペレーション】** グループにある**【仮想ホストテンプレート】** に進みます。
3. 必要なディレクトリ名をクリックします。許可されたユーザのリストが開きます。
4. 該当するユーザ名に対応するチェックボックスをオンにします。
5. **【削除】** をクリックします。操作を確認して**【OK】** をクリックします。

➤ **パスワード保護を解除し、リソースをすべてのユーザが利用できるようにするには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [仮想ホストテンプレート] に進みます。
3. 保護を解除するディレクトリ名のチェックボックスをオンにします。
4. [保護を解除する] をクリックします。保護が解除され、ディレクトリの内容は制限なくすべてのユーザに公開されます。

ウェブサイトアプリケーションを採用する

別のウェブアプリケーションを使用して、ウェブサイトの機能を大幅に増強することができます。ウェブサイトにはこれらのアプリケーションをインストールすることで、多数の作業に対応可能です。個人ユーザの場合、ブログで自己表現したり、メディアファイルのオンラインストレージを構成することができます。企業の場合、ウェブメール、eコマース、CRMなどのウェブアプリケーションを使用して、一部の業務をオンラインに移行することができます。これらすべてのアプリケーションはコントロールパネルから直接インストール可能です。

利用可能なアプリケーションのリストは、ホスティングプランによって決まります。たとえば、無償アプリケーションのみ含めることや、アプリケーションを全く含めないことなどがあります。利用可能なアプリケーションについて詳しくは、ホスティングプロバイダにお問い合わせください。

アプリケーションの種類

ウェブアプリケーションには2つのタイプがあります。

- ウェブサイトに直接インストールするアプリケーション（WordPress ブログプラットフォーム、Joomla! コンテンツ管理システムなど）
- ウェブサイトへのインストールが不要なアプリケーション。これらは主に、ウェブ上で提供されている外部アプリケーションであり、サービスへのリンクのみが提供されています（iMind ビデオ会議サービス、OfficeDrive オンラインオフィススイートなど）。

アプリケーションのインストールとメンテナンス

インストール作業に、特別なスキルは不要です。アプリケーション設定（管理者のクレデンシャルなど）を顧客が指定するだけで、Panelがアプリケーションをインストールします。アプリケーションの更新や削除を Panelで行うため、インストール後のアプリケーション管理も簡単です。さらに、アプリケーションにログインすることなく、コントロールパネルでアプリケーションが提供している一部の機能を実行できます。たとえば、SugarCRMのユーザアカウントをコントロールパネルで直接追加することができます。このようなアプリケーション機能は、アプリケーションが提供する「サービス」です。

アプリケーションのインストール後に、他の Panel ユーザにもアクセス権を付与して、これらのユーザにアプリケーションを使用させることもできます。アプリケーション管理について詳しくは、「[アプリケーションを管理する](#)」のセクションを参照してください。

アプリケーションへのアクセス

アプリケーションを特定のユーザが利用できるようにするには、これらのユーザのパーミッションを調整してください。アプリケーションへのアクセスをユーザに許可すると、このユーザの【ホーム】ページにアプリケーションへのリンクが表示されます。アプリケーションへのアクセスは、ユーザグループ単位でしか制御できません。そのため、既存のグループのパーミッションを変更するか、新しいグループを作成してからユーザを割り当てます。アプリケーションへのアクセス権について詳しくは、「Panel ユーザにアプリケーションへのアクセス権を付与する」のセクション（11317ページ）を参照してください。

デフォルトで、Panel のアプリケーション管理者とは、「所有者」の役割を持つユーザです。このユーザは、【ホーム】ページでアプリケーションにアクセスできるほか、契約内でアプリケーションのインストールと管理が可能です。これらの管理ツールは、アプリケーション管理者のみに表示される【アプリケーション】タブに含まれています。これらのツールへのアクセス権を、他の契約ユーザに付与することができます。このオペレーションについて詳しくは、「Panel ユーザにアプリケーションへのアクセス権を付与する」のセクション（113ページ）を参照してください。

アプリケーションおよび Panel のユーザアカウント

一部のアプリケーションは、ユーザアカウントを Panel で直接作成し、管理することができます。たとえば SugarCRM アプリケーションの場合、アプリケーションにログインせずに SugarCRM ユーザを追加できます。このような「アカウントサービス」が提供されているすべてのアプリケーションでは、アプリケーションのユーザを Panel 契約のユーザ（代替ユーザ）と関連付けることが可能です。関連付けを行うには、Panel ユーザにアカウントサービスへのアクセス権を付与する必要があります（アプリケーションへのアクセスの付与と同様）。アカウントの関連付けについて詳しくは、「アプリケーションと Panel のアカウントを関連付ける」のセクション（11417ページ）を参照してください。

Panel では、アプリケーションの各種オペレーションを実行できます。つまり、アプリケーションのインストール、構成、更新、削除を Panel から直接実行することが可能です。

アプリケーションを構成する

一般に、コントロールパネルではすべてのアプリケーションのメインパラメータを構成できます。[アプリケーション] > [インストール済みアプリケーションの管理] のリストでアプリケーションを選択すると、このアプリケーションの設定にアクセスできます。アプリケーションの選択後、以下に関する構成を実行できます。

- **一般設定**
[設定の変更] で変更可能な、アプリケーションの基本設定（管理者パスワードなど）。
- **サービス設定**
アプリケーションが機能の一部をサービスとして Panel に提供している場合、これらのサービスを構成するオプションがあります。たとえば SugarCRM アプリケーションの場合、ユーザアカウントの作成機能をコントロールパネルでサービスとして提供しています。[提供されているサービス] でこのサービスを選択すると、すべてのアプリケーションユーザアカウントの表示や、新規ユーザアカウントの作成を実行できます。
一部のアプリケーションでは、アプリケーションアカウントと Panel ユーザアカウントを関連付けることができます。アカウントの関連付けについて詳しくは、「**アプリケーションと Panel のアカウントを関連付ける**」のセクション（11417ページ）を参照してください。

Panel ユーザにアプリケーションへのアクセス権を付与する

デフォルトで、インストールが完了したアプリケーションにアクセスできるのは、所有者の役割を持つユーザのみです。他の契約ユーザがアプリケーションにアクセスできるようにするには：

- 該当アプリケーションへのアクセスパーミッションを、[ユーザ] > [ユーザ役割] で特定のユーザグループに付与します。
- 必要なユーザを選んでグループに追加してください。

アプリケーションへのアクセスをユーザに許可すると、このユーザの [ホーム] ページにアプリケーションへのリンクが表示されます。

デフォルトで、アプリケーションの管理者とは、「所有者」の役割を持つ契約ユーザです。このユーザは、[ホーム] ページでアプリケーションにアクセスできるほか、契約内でアプリケーションのインストールと管理が可能です。これらの目的のために、ユーザのインターフェースには [アプリケーション] タブが追加されています。他の契約ユーザに対して、同じ管理権限を付与するには、[ユーザ] > [ユーザ役割] で該当ユーザに「アプリケーションのインストールと管理」パーミッションを付与します。これにより、契約内のすべてのアプリケーションへの完全な管理アクセスが可能になります。管理者と同じく、このパーミッションを持つユーザも、コントロールパネルの [アプリケーション] タブでアプリケーションをインストール、構成、更新、削除することができます。

アプリケーションと Panel のアカウントを関連付ける

一部のアプリケーションでは、アプリケーションにログインせずにユーザアカウントを作成および管理することができます。アプリケーションにこのような「アカウントサービス」機能があれば、Panel 契約のユーザをアプリケーションのアカウントに関連付けることができます。関連付けを行うには：

1. ユーザを1つのグループにまとめます（ [ユーザ] > [ユーザ役割] ）。
2. 次のグループパーミッションのいずれかを付与します。
 - **パブリックアクセス**
これを付与すると、グループ内の全ユーザが [ホーム] ページのリンクからアプリケーションにアクセスできるようになります。
 - **パーソナルアクセス**
これを付与すると、アプリケーションはグループ内の全ユーザに対してアカウントを自動的に作成します。その後、ユーザの [ホーム] ページにリンクが追加され、アプリケーションのパーソナルアカウントにログインできるようになります。**パーソナルアクセス**パーミッションを拒否すると、アプリケーションはこのグループに関連付けられた全アカウントを自動的に削除します。

インストール済みアプリケーションを更新する

一般的に、アプリケーションのアップデートの管理はサービスプロバイダの仕事です。アップデートが公開されると、プロバイダはユーザのためにアップデートを適用します。規定によっては、ユーザ自身が行うこともできます。後者のケースは、新しいバージョンに加えられた変更をユーザ自身が確認し、これに基づいてアプリケーションを更新するか現行バージョンのまま残すかを決めたい場合に該当します。更新用のリンクは、[アプリケーション] > [インストール済みアプリケーションの管理] に表示されます。

(高度)ウェブサイトのセキュリティを強化する

接続を SSL 証明書で保護する

サーバでホスティングされているそれぞれの E-コマースウェブサイトに対し、正式な SSL 証明書を購入してインストールする必要があります。

SSL 証明書は、インターネット上にセキュアな通信チャネルを確立したり、ウェブサイトの身元を確認したりするために使用されます。セキュアオンラインストアをユーザが訪問すると、クレジットカード番号などの重要データの転送にセキュアチャネルが使用されるという通知が表示されます。

SSL 証明書を購入してインストールするには、次のいずれかの方法があります。

- Panel で SSL 証明書購入のリンクを使用する。デフォルトで Panel 内のリンクは MyPlesk.com オンラインストアに関連付けられています。このオンラインストアで、SSL 証明書を Comodo、GeoTrust, Inc、GoDaddy から簡単に購入できます。プロバイダはこのリンクを変更して、プロバイダのオンラインストアに関連付けることができます。
- Panel で証明書の署名要求 (CSR) を作成し、任意の認証局へ送信すると、SSL 証明書が作成されます。

➤ **Panel 内のリンクから SSL 証明書を購入およびインストールし、サイトを保護するには :**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブをクリックします。

3. [サイトをセキュリティ保護する] をクリックします。リポジトリ内にあるSSL証明書のリストが表示されます。
4. [SSL証明書の追加] をクリックします。
5. 以下を指定します。
 - 証明書の名前：リポジトリ内で証明書を識別するのに役立ちます。
 - 暗号化レベル：SSL 証明書の暗号化レベルを選択します。1024 より大きい値を入力することをお勧めします。
 - 所在地と組織名を指定します。64 文字まで入力可能です。
 - SSL 証明書を購入するドメインの名前: your-domain.com などの完全修飾ドメイン名にしてください。
 - ウェブサイト管理者のメールアドレス：
6. この情報を基に秘密鍵が生成されるため、間違いがないかよく確認してください。
7. [SSL証明書の購入] をクリックします。

秘密鍵および証明書の署名要求が生成されます。これらは削除しないでください。MyPlesk.com またはプロバイダが設定したその他のオンラインストアが、新しいウィンドウブラウザまたはタブに表示されます。
8. 既存のアカウントに登録またはログインし、手順に従って証明書を購入します。
9. 購入する証明書の種類を選択します。
10. [購入に進む] をクリックし、証明書を注文します。[承認者メールアドレス] ドロップダウンボックスで、承認者の正しいメールアドレスを選択します。

承認者メールアドレスは、特定のドメイン名に対する証明書が、認証されたユーザーによって要求されたことを確認するためのメールアドレスです。このメールアドレスは、WHOIS データベースでドメイン所有者またはドメイン管理者の連絡先情報に含まれています。
11. 証明書要求の処理が終わると、確認のメールが送信されます。これを要求者が確認すると、SSL証明書がメールで送信されます。
12. 受信したSSL証明書は、自分のコンピュータに保存してください。
13. SSL証明書リポジトリに戻ります（[ウェブサイトとドメイン] タブ > [サイトをセキュリティ保護する] ）。
14. SSL証明書をアップロードします。画面中央にある [ブラウズ] をクリックし、保存された証明書の保存場所を開きます。証明書を選択し、[ファイル送信] をクリックします。

これにより、該当する秘密鍵に対する証明書がアップロードされ、インストールされます。

15. サイトに証明書をインストールするには、[ウェブサイトとドメイン] タブに戻り、セキュリティ保護するウェブサイトのドメイン名をクリックします。
16. SSL保護をスイッチオンするには、[SSLサポートを有効にする] チェックボックスをオンにします。
17. [SSL証明書] メニューでSSL証明書を選択し、[OK]をクリックします。

➤ **SSL 証明書を任意の認証局から取得し、サイトにインストールするには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブをクリックします。
3. [SSL証明書] をクリックします。リポジトリ内にあるSSL証明書のリストが表示されます。
4. [SSL証明書の追加] をクリックします。
5. 証明書のプロパティを指定します。
 - 証明書の名前：リポジトリ内で証明書を識別するのに役立ちます。
 - 暗号化レベル：SSL 証明書の暗号化レベルを選択します。1024 より大きい値を入力することをお勧めします。
 - 所在地と組織名を指定します。64 文字まで入力可能です。
 - SSL 証明書を購入するドメインの名前: your-domain.com などの完全修飾ドメイン名にしてください。
 - ウェブサイト管理者のメールアドレス：
6. この情報を基に秘密鍵が生成されるため、間違いがないかよく確認してください。
7. [リクエスト] をクリックします。秘密鍵および証明書署名要求が生成され、リポジトリに保存されます。
8. 証明書のリストで、必要な証明書の名前をクリックします。証明書のプロパティを示すページが開きます。
9. ページ内でCSRセクションを検索し、「-----BEGIN CERTIFICATE REQUEST-----」から「-----END CERTIFICATE REQUEST-----」までのテキストをクリップボードにコピーします。

10. SSL証明書を購入する証明書認証機関のウェブサイトを開き、サイトのリンクを辿って証明書の注文処理を開始します。CSRテキストを入力するよう指示されたら、クリップボードからオンラインフォームヘッダを貼り付けて、**[続行]**をクリックします。入力した情報に基づいて、認証局がSSL証明書を作成します。
11. 受信したSSL証明書はローカルマシンかネットワークに保存してください。
12. SSL証明書リポジトリに戻ります（**[ウェブサイトとドメイン]** タブ > **[サイトをセキュリティ保護する]**）。
13. SSL証明書をアップロードします。画面中央にある**[ブラウズ]**をクリックして、保存された証明書のある場所に移動します。証明書を選択し、**[ファイル送信]**をクリックします。

これにより、該当する秘密鍵に対する証明書がアップロードされ、インストールされます。
14. サイトに証明書をインストールするには、**[ウェブサイトとドメイン]** タブに戻り、セキュリティ保護するウェブサイトのドメイン名をクリックします。
15. SSL保護をスイッチオンするには、**[SSLサポートを有効にする]** チェックボックスをオンにします。
16. **[SSL証明書]** メニューでSSL証明書を選択し、**[OK]**をクリックします。

SSL 証明書を注文する

コントロールパネルに課金システムが統合されている場合、サイトの SSL 証明書を [アカウント] タブから購入できます。

➤ SSL 証明書を購入してサイトにインストールするには：

1. [アカウント] タブに進みます。
2. 契約リストで、[契約を追加する] リンクをクリックします。
3. SSL 証明書に関連するオプションまたはプランを選択し、[今すぐ購入] をクリックします。画面の指示に従って注文を完了します。
4. [ウェブサイトとドメイン] タブで [サイトをセキュリティ保護する] に進み、必要なドメイン名を選択し、[SSL 証明書の追加] をクリックしてください。
5. 証明書のプロパティを指定します。
 - 証明書の名前：リポジトリ内で証明書を識別するのに役立ちます。
 - 暗号化レベル：SSL 証明書の暗号化レベルを選択します。1024 より大きい値を入力することをお勧めします。
 - 所在地と組織名を指定します。64 文字まで入力可能です。
 - SSL 証明書を購入するドメインの名前: your-domain.com などの完全修飾ドメイン名にしてください。
 - ウェブサイト管理者のメールアドレス：
6. この情報を基に秘密鍵が生成されるため、間違いがないかよく確認してください。
7. [リクエスト] をクリックします。秘密鍵および証明書署名要求が生成され、リポジトリに保存されます。
8. 証明書のリストで、必要な証明書の名前をクリックします。証明書のプロパティを示すページが開きます。
9. ページ内で CSR セクションを検索し、「-----BEGIN CERTIFICATE REQUEST-----」から「-----END CERTIFICATE REQUEST-----」までのテキストをクリップボードにコピーします。
10. [アカウント] タブに戻ります。
11. 契約のリストで、[SSL 証明書をリクエストする] リンクをクリックします。
12. [証明書の署名要求] フィールドに、ステップ9でコピーしたテキストをクリップボードから貼り付けます。

13. [次へ] をクリックします。
14. 要求に入力した情報が正しいことを確認し、[次へ] をクリックします。
15. 管理者連絡先メールアドレスを選択し、[次へ] をクリックします。
16. 技術および課金連絡先情報を指定し、[次へ] をクリックします。
17. 画面に表示される情報を確認し、[証明書リクエストを送信する] をクリックします。
18. 証明書をメールで受信したら、[ウェブサイトとドメイン] タブで [サイトをセキュリティ保護する] に戻り、どのドメインに対して証明書を注文したのかを選択します。
19. SSL証明書をPanelにアップロードします。画面中央にある [ブラウズ] をクリックし、保存された証明書の保存場所を開きます。証明書を選択し、[ファイル送信] をクリックします。

これにより、該当する秘密鍵に対する証明書がアップロードされ、インストールされます。
20. サイトに証明書をインストールするには、[ウェブサイトとドメイン] タブに戻り、セキュリティ保護するウェブサイトのドメイン名をクリックします。
21. SSL保護をスイッチオンするには、[SSLサポートを有効にする] チェックボックスをオンにします。
22. [SSL証明書] メニューでSSL証明書を選択し、[OK] をクリックします。

共有 SSL 証明書を使用する (Windows ホスティング)

ホスティングサービス事業者が、サイトへのアクセスをセキュリティ保護するために共有 SSL を提供している場合、独自の SSL 証明書を購入せずに SSL 暗号化を有効にできます。

➤ **プロバイダが共有設定している SSL 証明書を使用して、サイトへの接続をセキュリティ保護するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [共有SSL] に進みます。
3. セキュリティ保護するサイトのドメイン名を選択します。
4. [共有SSLをスイッチオンする] チェックボックスをオンにします。

5. 該当する入力フィールドに仮想ディレクトリ名を指定します。指定した名前の仮想ディレクトリが、SSL証明書が共有されているドメイン(「マスター SSLドメイン」)の下に作成されます。このディレクトリは、SSL経由で貴社のサイトにアクセスするために使用されます。

例えば、貴社が「mydomain.com」という名前のドメインを所有しており、マスター SSLドメインが「master_ssl_domain.com」と定義されているときに、仮想ディレクトリの名前として「my_virtual_dir」と指定するとします。この場合、SSL経由で貴社のサイトにアクセスするためには、アドレス「https://master_ssl_domain.com/my_virtual_dir」を使用します。

注：貴社が共有 SSL を使用している場合、貴社のドメイン名 (例 : mydomain.com) を使用して SSL 経由で貴社のサイトにアクセスすることはできません。

6. 保護されたウェブサイトコンテンツが保存されているディレクトリを指定します。指定したディレクトリ内のドキュメントはSSL経由でしかアクセスできません。
7. ドメインへのSSL経由のアクセスのみを許可する場合は、[セキュア接続によってのみ、このウェブサイトへのアクセスを許可] チェックボックスをオンにします。
8. [OK] をクリックします。

ホットリンクからサイトを保護する (Windows ホスティング)

ホットリンク (別名: ファイルリーチング、リモートリンク、ダイレクトリンク、帯域幅盗用、帯域幅流用など) とは、 タグなどを使用して、あるドメイン所有者のウェブページから別のドメイン所有者のウェブページ上の画像 (もしくはその他のマルチメディアファイル) に直接リンクすることです。ドメインがホットリンクされると、帯域幅使用率が過剰になるという問題が起こります。

➤ ウェブサイトをホットリンクから保護するには:

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [ホットリンク保護] に進みます。
3. [スイッチオン] をクリックしてホットリンクからの保護を有効にします。
4. [保護されるファイル拡張子] フィールドに、ホットリンクから保護するファイルの拡張子 (jpg、bmpなど) を指定します。複数のファイル拡張子を指定する場合はスペースで区切ります。
5. 特定のサイトから自分のファイルへの直接リンクを許可する場合は、該当するウェブサイトのアドレスを [許容するウェブサイトのアドレス] フィールドに入力し、[追加] をクリックします。
6. [OK] をクリックします。

(高度) 拡張ウェブサイト管理

Panel は、上級ユーザのために、様々なウェブサイトとドメイン用オペレーションを提供しています。サードパーティ製アプリケーションおよびサービスの利用、システムサービスの詳細設定などが可能です。このセクションでは、これらすべてのオペレーションについて詳しく説明します。

ステージングサイトを使用する

本稼働ウェブサイトに対し、大規模な変更を計画している場合、ステージングサイトのセットアップを検討することをお勧めします。ステージングサイトとはサーバ上の独立したロケーションであり、変更を本稼働サイトに適用する前に、ここでサイトコピーに対して更新を加えてテストすることができます。

ステージングサイトによる作業は、次のように進めることを推奨します。

1. 開発コピーをホスティングして開発環境を準備する場所を決めます。同じウェブスペース内でホスティングすることも、同じサーバ上の別のウェブスペースでホスティングすることも、他のサーバの FTP アカウントにアップロードすることもできます。
同じウェブスペースを選択した場合、ドメインまたはサブドメインを追加して新しいウェブサイトをセットアップする必要があります。
2. (オプションのステップ) Panel の自分のアカウントを使用して開発環境をセットアップしており、Panel を使用して ([アプリケーション] タブで) 本稼働サイトに APS アプリケーションをインストールしている場合は、開発環境内のサイトアプリケーションは、本稼働サイトと同じサブディレクトリにインストールしてください。このステップはオプションですが、アプリケーションスクリプトのデータベース接続設定を手作業で変更してしまうことを防止できます。
3. ウェブサイトのコピーを作成し、ステージング環境に配置します。
4. サイトで使用するデータベースのコピーを作成し、ステージング環境にデプロイします。
5. スクリプト内のデータベース接続設定を変更し、ステージング環境内のデータベースを指すようにします。
6. (オプションのステップ) APS アプリケーションのセットアップを完了します。開発サイト用の [アプリケーション] タブに進み、インストールされているアプリケーションのリストでアプリケーションを探し、 [設定] 画面を開き、パラメータを保存し直します。この操作を行うと、APS スクリプトの接続先が本稼働データベースではなくなり、アプリケーションの接続先がコピーのデータベースに変更されます。このステップは、本稼働サイトに Panel 経由で APS アプリケーションがインストールされており、この手順のステップ 2 を実行済みである場合に必要になります。

7. ステージング環境でサイトコピーに必要な変更を加えてテストして、意図したとおりに機能することを確認してください。
8. 更新したサイトを公開します。これには、本稼働サイトのドキュメントルートをステージングサイトのロケーションにします。

➤ **ステージング用にサイトをセットアップするには：**

1. [ウェブサイトとドメイン] タブに進みます。
2. [新しいドメインを追加する] または [新しいサブドメインを追加する] をクリックします。

ステージングにはサブドメインを使用することをお勧めします。

3. 「ドメインを追加する (6717ページ)」または「サブドメインを追加する (7017ページ)」の手順に従います。

インターネットユーザがステージングサイトにアクセスできないようにするには、新しく追加したドメインまたはサブドメインの名前をドメイン名レジストラに登録しないでください。あるいは、.htaccess ファイル (Linux ホスティングの場合) を使用してアクセスを制限してください。

➤ **ウェブサイトファイルのコピーを作成するには：**

1. [ウェブサイトとドメイン] タブに進みます。
2. [ウェブサイトのプレビュー] ([高度なオペレーション] グループ内) をクリックします。
3. 複数のウェブサイトがある場合、必要なサイトをクリックし、[管理] をクリックしてください。
4. 既存のサイトのドキュメントルートにウェブサイトファイルをコピーするには：
 - a. [Panel内のウェブサイト] オプションを選択します。
 - b. [サイト名] メニューでコピー先サイトを選択します。
 - c. コピー先ディレクトリに既に存在する可能性があるファイルに対して行う作業を指定します。
5. このサーバまたは他のサーバ上のFTPアカウントにウェブサイトファイルをコピーするには：
 - a. [FTPストレージ] オプションを選択します。
 - b. サーバのホスト名と、FTPアカウントへの接続用のクレデンシャルを指定します。

- c. [FTP接続方法] フィールドは [アクティブモード] オプションを選択したままにします。Panelが外部FTPアカウントの接続できない場合、ここで [パッシブモード] オプションを選択してください。

6. [OK] をクリックします。

サイトで、データベースを操作するスクリプトを使用している場合、このデータベースをステージング環境にコピーします。

- このデータベースを、Panel 10で管理している同一サーバ上でホスティングしている場合は、下の手順でコピーしてください。
- Panel 10で管理していないサーバ上でホスティングしている場合は、mysqldumpユーティリティを使用してデータベースをエクスポートし、生成されるデータダンプファイルをステージング環境に移動して、ここでデプロイしてください。ステージング環境でサイトのスクリプトを変更して、コピーされたデータベースに接続するようにします。

➤ Panel で管理するサーバからデータベースをコピーするには：

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [データベース] を選択し、データベース名をクリックします。
2. [コピーを作成する] をクリックします。
3. 以下を指定します。
 - **コピー先データベースサーバ**：同じ Panel で管理するデータベースサーバを選択することも、別の場所にあるデータベースサーバを選択することもできます。外部データベースサーバの場合、ホスト名または IP アドレス、およびアクセス用のクレデンシャルを指定します（データベースおよびデータベーステーブルの新規作成が許可されているデータベース管理システムユーザのユーザ名とパスワード）。
 - **コピー先データベース**：新しいデータベースを作成することも、既存データベースにデータをコピーすることもできます。
 - **フルコピーを作成する**：データベース構造とすべてのデータをコピーするには、このオプションをオンにしておきます。

4. [OK] をクリックします。

データベースのコピーがコピー先サーバにデプロイされます。

5. ステージング環境でサイトのスクリプトを変更して、コピーされたデータベースに接続するようにします。

ステージング環境のサイトコピーが更新され、本稼働の準備が整い次第、次の手順に従ってこれを公開します。

➤ 更新されたサイトを本稼働環境に公開するには：

1. [ウェブサイトとドメイン] タブに進みます。
2. ドメイン名のリストで、本稼働サイトのアドレスを探し、クリックします。
3. [ドキュメントルート] ボックスで、ステージングサイトのドキュメントルートディレクトリを指定します。
4. [OK] をクリックします。

これにより、本稼働サイトアドレスの訪問者がステージングサイトロケーションにある更新されたサイトコピーにアクセスできるようになります。

モバイルサイトをセットアップする

貴社のサービスプランに、モバイルデバイスでの閲覧用に最適化されたウェブサイトコピーを作成するオプションを含めることができます。コピーは、外部の UNITY Mobile オンラインサービスでホスティングされます。

➤ **モバイルデバイスでの閲覧用に最適化されたウェブサイトのコピーを作成するか、新しいモバイルウェブサイトをセットアップするには：**

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [モバイルウェブサイト] に進みます。
2. [モバイルサイトを作成する] リンクをクリックします。
3. モバイルサイトのアドレスを指定します。
たとえば、サイトにアクセスするためのドメイン名が「example.com」である場合、「mobile」のようなプレフィックスを入力すると、最適化されたウェブサイトのコピーに「mobile.example.com」というアドレスでアクセスできるようになります。
4. [OK] をクリックします。
5. [サイトコンテンツを編集する] をクリックします。UNITY Mobile サイトが新しいブラウザウィンドウまたはタブで開き、すでにアカウントにログオンした状態になっています。
6. メインウェブサイトのドメイン名を示す [Import from the web] セクションで、 ボタンをクリックします。
7. 画面に表示される指示に従ってウェブサイトインポートウィザードを完了します。

モバイルサイトの作成後、メインサイトにモバイルサイトへのリンクを追加できます。

コントロールパネルのリンクを使用して、モバイルサイトに対して次の操作を実行できます。

- サイトエディタを開く。
- モバイルサイトを削除する。

カスタムエラーページをセットアップする

サイトの訪問者が要求したページが見つからない場合、ウェブサーバはエラーメッセージを示す標準 HTML ページを生成して表示します。独自のエラーページを作成して、サイトや個別の仮想ディレクトリで使用することができます。以下に、よくカスタマイズされるエラーメッセージを示します。

- 400 Bad File Request -通常は、URL の構文が正しくないことを意味します（例：大文字を小文字にすべきである、句点記号が違う）。
- 401 Unauthorized -サーバがクライアントからの暗号化キーを要求していますが、取得できません。あるいは、入力したパスワードが正しくない場合もあります。
- 403 Forbidden/Access denied -401 に類似のエラーです。 サイトへのアクセスに、特別なパーミッションが必要です（登録の問題の場合はパスワードまたはユーザ名）。
- 404 Not Found -サーバが、要求されたファイルを検索できません。ファイルが移動または削除されています。あるいは入力された URL またはドキュメント名が正しくありません。これは最も一般的なエラーです。
- 500 Internal Server Error -サーバの構成上の問題により、HTML ドキュメントを取得できませんでした。
- 503 Service Temporarily Unavailable -サイトはメンテナンスのために一時的に使用できません。

Windows サーバでカスタムエラーページをセットアップする

➤ **サイト内のサイトまたはディレクトリにカスタムエラーページを表示するようにウェブサーバを構成するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. カスタムエラードキュメントのサポートをオンにします。
 - a. [ウェブサイトとドメイン] タブにあるドメインのリストで、必要なドメイン名をクリックします。
 - b. [カスタムエラードキュメント] チェックボックスをオンにします。
 - c. [OK] をクリックします。
3. [ウェブサイトとドメイン] タブで [仮想ディレクトリ] に進み、ルートウェブディレクトリ用のエラードキュメントのリストを表示します。ここに表示されるエラードキュメントは、選択したサイトのすべてのウェブページで使用されます。特定の仮想ディレクトリ用のエラーページをカスタマイズするには、該当ディレクトリに進んでください。
4. [エラードキュメント] タブをクリックし、必要なエラードキュメントをリストからクリックします。
 - このエラーページ用に IIS が提供するデフォルトドキュメントを使用するには、[タイプ] メニューから [デフォルト] を選択します。
 - ドメインの仮想ホストディレクトリにある error_docs ディレクトリに存在しているカスタム HTML ドキュメントを使用するには、[タイプ] メニューから [ファイル] を選択し、[ロケーション] フィールドにファイル名を指定します。
 - ドメイン上の error_docs 以外のディレクトリにあるカスタム HTML ドキュメントを使用する場合は、[タイプ] メニューから [URL] を選択して [ロケーション] フィールドにドキュメントへのパスを入力します。これは、仮想ホストルート (<vhosts>¥<domain>¥httpdocs) を基準にした相対パスにする必要があります。

例えば、forbidden_403_1.html というファイルを作成して、それを httpdocs にある my_errors ディレクトリに保存したとします。このファイルをエラードキュメントとして使用するには、次のパスを [ロケーション] フィールドに入力します。

```
/my_errors/forbidden_403_1.html
```

注：カスタムエラードキュメントをサーバにアップロードするには、FTP またはファイルマネージャ経由の接続を使用できます。デフォルトでは、すべてのエラードキュメントは `/vhosts/your-domain.com/error_docs/` ディレクトリ（デフォルトでは `C:\inetpub` の下）に保存されます。

5. ウェブサーバを再起動すると、カスタムエラードキュメントが使用されるようになります。

Linux サーバでカスタムエラーページをセットアップする

➤ サイトでカスタムエラーページが表示されるようにウェブサーバを構成するには :

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. カスタムエラードキュメントのサポートをオンにします。
 - a. [ウェブサイトとドメイン] タブにあるドメインのリストで、必要なドメイン名をクリックします。
 - b. [カスタムエラードキュメント] チェックボックスをオンにします。
 - c. [OK] をクリックします。
3. FTPアカウントに接続してerror_docsディレクトリに移動します。
4. 必要なファイルを編集するか、置き換えます。ファイル名が正しいことを確認します。
 - 400 Bad File Request - bad_request.html
 - 401 Unauthorized - unauthorized.html
 - 403 Forbidden/Access denied - forbidden.html
 - 404 Not Found - not_found.html
 - 405 Method Not Allowed - method_not_allowed.html
 - 406 Not Acceptable - not_acceptable.html
 - 407 Proxy Authentication Required - proxy_authentication_required.html
 - 412 Precondition Failed - precondition_failed.html
 - 414 Request-URI Too Long - request-uri_too_long.html
 - 415 Unsupported Media Type - unsupported_media_type.html
 - 500 Internal Server Error - internal_server_error.html
 - 501 Not Implemented - not_implemented.html
 - 502 Bad Gateway - bad_gateway.html
 - 503 Service Temporarily Unavailable - maintenance.html

ウェブサーバの再起動後、数時間で、カスタムエラードキュメントが使用されるようになります。

ドメインフォワーダを追加する

新しいドメイン名をセットアップするか、既存のドメイン名を再構成して、訪問者を他のウェブサイトのリダイレクトすることができます。

➤ **新しいドメインフォワーダを追加するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、アカウントに関連付けられた複数のウェブスペースへのアクセス権がある場合は、画面上部にある**【契約】**メニューで必要なウェブスペースを選択してください。
2. **【ウェブサイトとドメイン】** タブをクリックします。
3. **【新しいドメインの追加】** をクリックします。
4. 以下を指定します。
 - a. **【ドメイン名】** ボックスに、サービスプロバイダまたはドメイン名登録機関に登録したドメイン名を入力します。
 - b. **【DNSサーバ設定】** で、**【このサーバのマスター DNSゾーンを維持する】** オプションを選択します。
 - c. **【ホスティングタイプ】** で **【転送】** オプションを選択します。
 - d. **【転送先アドレス】** ボックスに、訪問者のリダイレクト先にするインターネットアドレスを入力します。
 - e. **【転送タイプ】** で、希望する転送タイプを選択します。**標準転送**では、ユーザはそのサイトにリダイレクトされ、ユーザのブラウザには実際のサイトURLが表示されます。従って、他のURLにリダイレクトされたことをユーザが認識できます。**フレーム転送**では、サイトが実際には別のロケーションにあることをユーザが認識できないようにしてユーザをリダイレクトします。従って、標準転送より望ましい選択肢となります。
5. **【OK】** をクリックします。

➤ **既存のドメインを再構成し、ドメインフォワーダにするには：**

1. **【ウェブサイトとドメイン】** タブでドメイン名を選択します。
2. **【ホスティングタイプ】** フィールドの横にある **【変更】** リンクをクリックします。
3. 以下を指定します。
 - a. **【ホスティングタイプ】** で **【転送】** オプションを選択します。

- b. **【転送先アドレス】** ボックスに、訪問者のリダイレクト先にするインターネットアドレスを入力します。
 - c. **【転送タイプ】** で、希望する転送タイプを選択します。**標準転送**では、ユーザはそのサイトにリダイレクトされ、ユーザのブラウザには実際のサイトURLが表示されます。従って、他のURLにリダイレクトされたことをユーザが認識できます。**フレーム転送**では、サイトが実際には別のロケーションにあることをユーザが認識できないようにしてユーザをリダイレクトします。従って、標準転送より望ましい選択肢となります。
4. **【OK】** をクリックします。

Google サービスを使用する

Panel 内のリンクを使用して、サイトに Google カスタム検索エンジンを挿入するコードを生成したり、ウェブマスターツールでウェブサイトの情報を Google に送信したり、AdSense プログラムに登録したり、YouTube 動画、Google 翻訳サービス、その他の Google 製品をサイトに埋め込むことができます。

Google カスタム検索とは、Google が提供する検索エンジンです。Google カスタム検索により、自分のウェブサイトに検索機能を追加して、検索結果ページの外観をウェブサイトに合わせて調整することができます。個人および非営利団体のウェブサイトで、無料で使用できます。一方、一般企業や営利団体の場合は、Google からの広告が表示されるカスタム検索エンジンを使用するか、Google Site Search サービスを契約してください（1年 \$100 より）。Google Site Search の詳細や価格については、<http://www.google.co.jp/intl/ja/sitesearch/index.html> で確認してください。

Google ウェブマスター ツールにより、ウェブマスターはウェブサイトの情報を Google に送信して、検索統計を確認することができます。ウェブマスターツールの詳細については、<http://www.google.com/support/webmasters/?hl=jp> を参照してください。

Google AdSense により、ウェブマスターは関連性の高い Google 広告をウェブサイトに表示し、収益を得ることができます。AdSense の詳細については、<https://www.google.com/adsense/login/jp/> を参照してください。

Google Web Elements により、ウェブマスターは任意の Google 製品をウェブサイトに簡単に追加できます。ニュース、マップ、YouTube 動画などのコンテンツをウェブページに埋め込んだり、Google Friend Connect を使用してコミュニティサイトの機能やサービスを充実させることができます。Google Web Elements の詳細については、<http://www.google.com/webelements/> を参照してください。

Google サービスを使用する前に、Google Terms of Service（利用条件）に同意し、サイトの所有権を確認する必要があります。

➤ *Google の利用条件に同意し、サイトの所有権を確認するには：*

1. [ホーム] タブまたは [ウェブサイトとドメイン] タブに進み、[Google Services for Websites] リンクをクリックします。
2. Panel で利用条件のリンクをクリックし、ドキュメントを読みます。
3. 利用条件に同意する場合は、チェックボックスをオンにして [確認] をクリックします。

これで、以下を実行できます。

- [Google ウェブマスター ツール] をクリックしてサイト情報を Google に送信し、サイトの認知度を向上する。

- [新しいカスタム検索エンジンを追加する] をクリックして、サイトに検索機能を追加する。
- [Google AdSense] をクリックして、AdSense プログラムに登録する。
- [Google Web Elements] をクリックして、Google 製品を埋め込む。

➤ **Google にサイト情報を送信するには :**

1. [ホーム] タブまたは [ウェブサイトとドメイン] タブに進み、[Google Services for Websites] リンクをクリックします。
2. [Googleウェブマスター ツール] をクリックします。
[Google ウェブマスター ツール] エリアが別のブラウザウィンドウまたはタブに表示されます。
3. <http://www.google.com/support/webmasters/bin/answer.py?hl=en&answer=156184> の指示に従ってサイトマップを作成し、それをGoogleに送信します。

➤ **サイトにカスタム検索エンジンを追加するには :**

1. [ホーム] タブまたは [ウェブサイトとドメイン] タブに進み、[Google Services for Websites] リンクをクリックします。
2. [カスタムサイト検索] をクリックします。
3. [新しいカスタム検索エンジンを追加する] をクリックします。
4. 検索エンジン名を入力して、ウェブサイトを選択します。
5. 利用条件に同意して [OK] をクリックします。
新しい検索エンジンのレコードが Panel に追加されます。
6. [コードを取得する] リンクをクリックして、生成されたコードをクリップボードにコピーし、ウェブサイトページのソースコードに貼り付けます。

カスタム検索エンジンのリストにあるその他のリンクを使用して、以下の操作を実行できます。

- **収益を得る** : カスタム検索エンジンを Google AdSense アカウントと関連付けます。ユーザーが広告をクリックして表示すると、収益を得られます。複数のカスタム検索エンジンを使用している場合、すべてのエンジンは同じ AdSense アカウントに自動的に関連付けられます。
- **管理する** : カスタム検索エンジンを管理します。
- **デザインを変更する** : 検索ボックスと検索結果ページの外観を調整します。
- **アップグレードする** : カスタム検索エンジンを、広告のない Google Site Search にアップグレードします。
- **統計** : サイト検索レポートを確認します。

- **削除する** : カスタム検索エンジンを削除します。
- **Google AdSense プログラムに参加するには** :
 1. [ホーム] タブまたは [ウェブサイトとドメイン] タブに進み、 [Google Services for Websites] リンクをクリックします。
 2. [Google AdSense] をクリックします。
 3. [Google AdSense] アカウントをクリックします。
 4. 必要事項を入力して新しいAdSenseアカウントを作成するか、既存のアカウントを選択して [OK] をクリックします。
今後の手順を説明する確認メールが送信されます。

ドメイン下で個人ウェブページをホスティングする

専用のドメイン名を必要としないユーザの個人用ウェブページを、貴社のウェブサーバでホスティングできます。このような個人用ページのウェブアドレスは「`http://your-domain.com/~username`」のようになります。

- **ドメイン下で個人用ウェブページをホスティングし、公開用のFTPアカウントをセットアップするには** :
 1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
 2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [ウェブユーザ] に進みます。
 3. [設定] をクリックします。
 4. 個人用ウェブページに埋め込まれたスクリプトを実行できるようにするには、 [ウェブユーザにスクリプトの使用を許可する] チェックボックスをオンにします。
 5. [OK] をクリックします。
ステップ4で定義した設定は、貴社のウェブサーバでホスティングするすべての個人用ウェブページで共通となります。従って、今後新しいウェブユーザアカウントをセットアップする際に、ステップ3~5を実行する必要はありません。
 6. [新しいウェブユーザを追加する] をクリックします。
 7. FTPを使用してウェブスペースにアクセスし、ウェブページを公開する時に使用するユーザ名とパスワードを指定します。

ユーザ名には小文字の英数字、ハイフン、アンダースコア記号のみ使用できます。ユーザ名の先頭はアルファベット文字にします。空白は使用できません。パスワードには引用符、空白、ユーザのログイン名を使用できず、長さは5~14文字と決められています。

8. このウェブページコンテンツで使用できるディスク容量を制限する場合、**[ハードディスククォータ]** ボックスに、必要な値をメガバイト単位で入力します。

指定した制限値を超えると、ウェブページの所有者はウェブスペースにファイルを追加できなくなります。

9. ウェブページでサポートされるプログラミング言語を指定します。

例えば、ウェブページを PHP で記述する場合、**[PHP 対応]** チェックボックスをオンにします。

10. Windowsベースのホスティングアカウントを使用しており、この個人用ウェブページのアプリケーションでhttpdocsディレクトリのルートにあるファイルベースのデータベース（Jetなど）を使用する必要がある場合は、**[追加の書込/変更パーミッション]** オプションを選択してください。このオプションを選択すると、ウェブサイトのセキュリティが著しく低下する恐れがあります。

11. **[OK]** をクリックします。

これでFTPアカウントのクレデンシャルをユーザに伝え、このユーザが自分のウェブページを公開できるようになります。

➤ **ウェブページ所有者のFTPパスワードを変更するには：**

1. **[ウェブサイトとドメイン]** タブで **[ウェブユーザ]** に進みます。
2. 必要なユーザ名をクリックします。
3. **[新しいパスワード]** ボックスおよび **[パスワードの確認]** ボックスで新しいパスワードの入力と確認を行います。
4. **[OK]** をクリックします。

➤ **ウェブページ所有者へのディスク容量割り当てを増やすには：**

1. **[ウェブサイトとドメイン]** タブで **[ウェブユーザ]** に進みます。
2. 必要なユーザ名をクリックします。
3. **[ハードディスククォータ]** ボックスに、ディスク容量をメガバイトで入力します。
4. **[OK]** をクリックします。

- **ウェブページ所有者のアカウントをウェブページごと削除するには：**
1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [ウェブユーザ] に進みます。
 2. 削除するユーザアカウントのチェックボックスをオンにして、[削除] をクリックします。
 3. 削除を確認して [OK] をクリックします。

ウェブサイトへの接続の帯域幅と数を制限する

帯域幅の過剰な使用を回避し、サイトを DoS 攻撃から防御するために、サイトの帯域幅使用率と同時接続可能数を制限することができます。

- **サイトへの帯域幅使用率と接続数を制限するには：**
1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
 2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [帯域幅制限] に進みます。
 3. [帯域幅制限をスイッチオンする] チェックボックスをオンにします。
 4. [帯域幅使用率の上限 (KB/s)] ボックスに、キロバイト単位で最大転送速度を指定します。
 5. [接続数制限をスイッチオンする] チェックボックスを選択します。
 6. [接続数の上限] ボックスに、サイトへの同時接続数の上限を指定します。
 7. [OK] をクリックします。

Microsoft Frontpage ウェブサイトを使用する (Windows ホスティング)

Microsoft FrontPage は、ディスクベースとサーバベースという 2 種類のウェブサイトに対応しています。ディスクベースのウェブサイトの場合、ローカルハードディスク上で FrontPage ウェブサイトを作成してからウェブサーバに公開します。サーバベースのウェブサイトの場合、ウェブサーバ上でウェブサイトを直接作成して作業するため、改めて公開手続きを行う必要はありません。ここでは、ディスクベースのウェブサイトを公開する手順のみ説明します。

ディスクベースのウェブサイトは、FTP または HTTP 経由で公開できます。ホスティングサーバで FrontPage Server Extensions を実行している場合、HTTP 経由でサイトを公開します（例：http://your-domain.com/MyWebSite）。ホスティングサーバが FTP をサポートしている場合、FTP ロケーションでサイトを公開することになります（例：ftp://ftp.your-domain.com/myFolder）。

公開後、FrontPage Server Extensions を使用してサイトを管理できます。

➤ *FrontPage Server Extensions* 管理インターフェースにアクセスするには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブをクリックします。
3. [高度なオペレーション] グループで [FrontPage] をクリックします。
4. 以下のいずれかを行います。
 - HTTP 接続経由でサイトを管理する場合、[Frontpage Webadmin] をクリックします。
 - セキュア SSL 接続経由でサイトを管理する場合、サイトに対して SSL サポートが有効になっていれば、[Frontpage SSL Webadmin] をクリックします。
5. FrontPage 管理者のユーザ名とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。

FrontPage server extensions の使用方法については、オンラインヘルプ（ [Frontpage WebAdmin] > [ヘルプ] ）または Microsoft のウェブサイトを参照してください。

Panel では、次の FrontPage 設定を変更可能です。

- Microsoft FrontPage IIS Index Server を使用してウェブサイトのフルテキストインデックスを構築する。

- SMTP メールサーバおよび送信者のメールアドレス。これらのオプションは、サイトからメールで情報を送信する FrontPage フォームを使用する場合に適用されます。デフォルトでは、ドメインの DNS ゾーンに指定された SMTP サーバがメール送信に使用されます。ゾーンに SMTP サーバが指定されていなければ、FrontPage はドメイン（サイト）がホスティングされているサーバ上で稼働しているメールサービスを使用します。

➤ **これらのいずれかの設定を変更するには：**

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [FrontPage] > [設定] に進みます。
2. 必要な変更を行い [OK] をクリックします。

FrontPage ウェブサイトを公開する

➤ *FTP 経由でファイルを公開するには :*

1. FrontPageプログラムを開きます。
2. FrontPageのウェブサイトを開きます。【ファイル】メニューで【サイトを開く】アイテムを選択します。
3. 【リモートWebサイト】ビューに進みます。【Webサイト】タブをクリックしてから、ウィンドウの下部にある【リモートWebサイト】ボタンをクリックします。
4. リモートウェブサイトのプロパティをセットアップします。
 - ウィンドウの右上隅にある【リモート Web サイトのプロパティ】ボタンをクリックします。
 - リモートウェブサーバとして【FTP】を選択します。
 - 【リモート Web サイトの場所】ボックスに、ホスト名を入力します（例：`ftp://ftp.your-domain.com`）。
 - 【FTP ディレクトリ】ボックスに、ホスティング事業者から指定されたFTPディレクトリを入力します。指定されていない場合は、空欄にしておいてください。
 - コンピュータまたはネットワークがファイアウォールで防御されている場合、【パッシブFTPを使用する】チェックボックスをオンにします。
5. 【OK】をクリックして、リモートサイトに接続します。

【リモート Web サイト】ビューには、ローカルサイトとリモートサイトにあるファイルが表示されます。
6. ウィンドウの右下隅にある【Webサイトの公開】ボタンをクリックします。



➤ *FrontPage Server Extensions をサポートするサーバ上に HTTP 経由でファイルを公開するには :*

1. FrontPageプログラムを開きます。
2. FrontPageのウェブサイトを開きます。【ファイル】メニューで【サイトを開く】アイテムを選択します。
3. 【リモートWebサイト】ビューに進みます。【Webサイト】タブをクリックしてから、ウィンドウの下部にある【リモートWebサイト】ボタンをクリックします。

4. ウィンドウの右上隅にある **[リモートWebサイトのプロパティ]** ボタンをクリックします。
5. **[リモートWebサイト]** タブの **[リモートWebサーバーの種類]** で、FrontPage またはSharePoint Servicesをクリックします。
6. **[リモートWebサイトの場所]** ボックスで、フォルダやファイルの公開先リモートウェブサイトのインターネットアドレスをプロトコルを含めて入力するか (http://www.your-domain.comなど)、**[参照]** をクリックしてサイトを探します。
7. 以下のいずれかを実行します。
 - SSL を使用して安全な通信チャネルを確立し、機密情報を盗難から防御するには、**[暗号化接続の要求 (SSL)]** をクリックします。ウェブサーバ上で SSL 接続を行うには、公認認証局が発行したセキュリティ証明書をサーバに設定する必要があります。サーバが SSL をサポートしていない場合、このチェックボックスをオフにします。オンのままにすると、フォルダやファイルをリモートウェブサイトに公開できません。
 - ウェブページ公開時に特定のタイプのコードを削除するには、**[HTML の最適化]** タブで希望のオプションを選択します。
 - 公開のデフォルトオプションを変更するには、**[公開]** タブで希望のオプションを選択します。
8. **[OK]** をクリックして、リモートサイトに接続します。

[リモート Web サイト] ビューには、ローカルサイトとリモートサイトにあるファイルが表示されます。
9. ウィンドウの右下隅にある **[Webサイトの公開]** ボタンをクリックします。

FrontPage アカウントを追加する

ウェブサイトコンテンツで他のユーザとコラボレーションするために Microsoft FrontPage を使用するには、追加の Microsoft FrontPage アカウントを作成する必要があります。

➤ *追加の Microsoft FrontPage アカウントを作成するには :*

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブをクリックします。
3. [高度なオペレーション] グループで [FrontPage] をクリックします。
4. [新しいFrontPageアカウントを追加する] をクリックします。
5. 以下を指定します。
 - アカウントのユーザ名とパスワード。
 - ディスク容量の上限。このアカウントで使用できるディスク容量を制限するには [無制限] チェックボックスをオフにして [ハードディスククォータ] ボックスに上限をメガバイト単位で入力します。
指定した上限に到達すると、ユーザはウェブスペースにファイルをそれ以上アップロードできなくなります。
6. [OK] をクリックします。

➤ *追加の Microsoft FrontPage アカウント設定を変更するには :*

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [FrontPage] に進みます。
2. 一覧から必要なアカウント名をクリックします。
3. 必要に応じて設定を調整し、[OK] をクリックして変更を保存します。

➤ *追加の Microsoft FrontPage アカウントを削除するには :*

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [FrontPage] に進みます。
2. 削除するアカウントのチェックボックスをオンにします。
3. [削除] をクリックします。
4. 削除を確認して [OK] をクリックします。

仮想ディレクトリを使用する (Windows ホスティング)

仮想ディレクトリとは、サーバのハードディスク上にある既存の物理ディレクトリへのリンクです。仮想ディレクトリには、カスタム ASP.NET 構成、アクセスパーミッション、パスワード保護などの様々な設定があります。

各仮想ディレクトリはカスタマイズ ASP.NET 構成などの設定を独自に持つことができるため、仮想ディレクトリは、ASP.NET で記述されたウェブアプリケーションをセットアップする際などに非常に便利です。例えば、ASP.NET バージョン 1.1 を使用しているウェブアプリケーションが 3 つあり、ASP.NET バージョン 2.0 を使用しているウェブアプリケーションを 1 つインストールする必要がある場合、ASP.NET 2.0 アプリケーション用に仮想ディレクトリを作成して、このディレクトリ用の ASP.NET 設定を構成してバージョン 2.0 に対応させ、必要なアプリケーションをインストールすることができます。

仮想ディレクトリをエイリアスとして使用することもできます。例えば、物理ディレクトリ `/my_data/web_apps/forum` のドメイン「`example.com`」にウェブアプリケーションがインストールされているとします。このウェブアプリケーションにアクセスするためには、ユーザは「`example.com/my_data/web_apps/forum`」と入力する必要がありますが、長すぎて覚えるのも入力するのも大変です。そこで、仮想ディレクトリ「`forum`」を仮想ホストのルートに作成し、この仮想ディレクトリを「`/my_data/web_apps/forum`」と関連付けます。ウェブアプリケーションにアクセスしたいユーザは「`example.com/forum`」と入力するだけでウェブアプリケーションを利用できます。これは短いため覚えるのも簡単です。

仮想ディレクトリを作成する

➤ 仮想ディレクトリを作成するには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [仮想ディレクトリ] に進みます。ここがウェブサイトのルートになります。
3. 新しい仮想ディレクトリを作成するディレクトリに進みます。
4. [仮想ディレクトリを作成する] をクリックします。

注：仮想ディレクトリの代わりに物理ディレクトリを作成する場合は、[ディレクトリを作成する] をクリックしてディレクトリ名を指定し、[OK] をクリックします。

5. 以下の必要パラメータを指定します。

- **名前**：仮想ディレクトリ名を指定します。
- **パス**：仮想ディレクトリパスを指定します。
 - **【仮想ディレクトリと同名の物理ディレクトリを作成する】** チェックボックスをオンにすると、仮想ディレクトリと同じ名前の物理ディレクトリが自動的に作成されます。
 - 既存の物理ディレクトリを選択する場合は、**【仮想ディレクトリと同名の物理ディレクトリを作成する】** チェックボックスをオフにしてフィールドにパスを指定してください。
- **スクリプトソースへのアクセス**：このチェックボックスをオンにすると、読み取りまたは書き込みパーミッションが設定されているユーザはソースコードにアクセスできます。ソースコードにはASPアプリケーションのスクリプトも含まれます。
- **読み取りパーミッション**：このチェックボックスをオンにすると、ユーザはファイルまたはディレクトリ、および関連するプロパティを読み取ることができます。
- **書き込みパーミッション**：このチェックボックスをオンにすると、ユーザはファイルおよび関連プロパティを仮想ディレクトリにアップロードしたり、書き込み可能なファイルのコンテンツを変更することができます。書き込みパーミッションは、HTTP 1.1 プロトコルのPUT機能がサポートされているブラウザのみで有効です。
- **ディレクトリの参照**：このチェックボックスをオンにすると、ユーザは仮想ディレクトリのファイルとサブディレクトリのハイパーテキストリストを参照できます。
- **訪問をログに保存する**：このチェックボックスをオンにすると、仮想ディレクトリへの訪問者に関する情報が保存されます。
- **アプリケーションの作成**：このチェックボックスをオンにすると、ディレクトリがIISアプリケーションになります。当該ディレクトリはウェブサイトの他の部分から論理的に独立します。
- **実行パーミッション**：仮想ディレクトリで許可されるプログラムの実行レベルを選択します。
 - **なし**：HTMLや画像ファイルなどの静的ファイルへのアクセスのみを許可します。
 - **スクリプトのみ**：スクリプトの実行のみを許可します。その他の実行可能ファイルを実行することはできません。
 - **スクリプトと実行可能ファイル**：制限がすべて解除され、すべてのファイルタイプを実行できます。
- **ASP設定**：ASPベースのウェブアプリケーションに固有の設定を行います。

- 使用している ASP ベースのウェブアプリケーションが、IIS で設定しているデータ転送制限では正常に動作しない場合、変更したいフィールドの横の**「親ディレクトリの定義を使用」** チェックボックスをクリアして、必要な数値を入力してください。
- サーバ側で ASP アプリケーションのデバッグを有効にするには、**「親ディレクトリの定義を使用」** チェックボックスをクリアして **「ASP サーバサイドスクリプトのデバッグを有効にする」** チェックボックスをオンにします。
- クライアント側で ASP アプリケーションのデバッグを有効にするには、**「親ディレクトリの定義を使用」** チェックボックスをクリアして **「ASP クライアントサイドスクリプトのデバッグを有効にする」** チェックボックスをオンにします。

root 仮想ディレクトリの ASP 設定を変更する場合、デフォルトのチェックボックスは **「親ディレクトリの定義を使用」** ではなく **「IIS の定義を使用」** であることに注意してください。

6. **「OK」** をクリックします。

➤ **仮想ディレクトリを削除するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある **「契約」** メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. **「ウェブサイトとドメイン」** タブで **「高度なオペレーション」** グループにある **「仮想ディレクトリ」** に進みます。
3. 削除したいディレクトリのチェックボックスをオンにします。
4. **「削除」** をクリックします。
5. 削除を確認して **「OK」** をクリックします。

仮想ディレクトリの ASP.NET 設定

▶ 仮想ディレクトリの ASP.NET 設定を構成するには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [仮想ディレクトリ] に進みます。
3. 必要なディレクトリを検索し、名前のリンクをクリックします。
4. [ASP.NET設定] をクリックします。
5. データベースを使用する ASP.NET アプリケーションのデータベース接続データを定める文字列をセットアップします。このオプションは ASP.NET 2.0.x でのみ有効です。

初めて ASP.NET の構成ページを開くと、共通構成を持つ接続パラメータのサンプルが表示されます。サンプルを削除し、独自の文字列に変更することができます。

- 文字列を追加するには、[名前] および [接続パラメータ] 入力フィールドに必要なデータを入力し、横にある  をクリックします。
 - 文字列を削除するには、横にある  をクリックします。
6. ASP.NET アプリケーションが返すカスタムエラーメッセージをセットアップします。
 - カスタムエラーメッセージモードを設定するには [カスタムエラーモード] メニューで適切なオプションを選択します。
 - **オン**：カスタムエラーメッセージが有効になります。
 - **オフ**：カスタムエラーメッセージが無効になり、エラーの詳細が表示されません。
 - **リモートのみ**：カスタムエラーメッセージはリモートクライアントにのみ表示され、ASP.NET エラーはローカルホストに表示されます。
 - 新規カスタムエラーメッセージ（※ [オフ] モードを選択していなければ適用されます）を追加するには、[ステータスコード] および [リダイレクト URL] フィールドに値を入力して  をクリックします。
 - **ステータスコード**：エラーページにリダイレクトされる HTTP ステータスコードを定義します。
 - **リダイレクト URL**：エラーに関する情報をクライアントに提供するエラーページのアドレスを定義します。

競合を避けるため、既存のエラーコードで新規カスタムエラーメッセージを追加することはできませんが、既存のコードに対して URL を再定義することはできません。

- リストからカスタムエラーメッセージを削除するには、横にある  をクリックします。

7. [コンパイルおよびデバッグ] フィールドで、コンパイル設定を構成します。

- 動的コンパイルファイルのデフォルトとして使用するプログラミング言語を決定するには、[ウェブページのデフォルト言語] メニューからエントリを選択します。
- リテールバイナリのコンパイルを有効にするには、[デバッグの有効化] チェックボックスをクリアしておきます。
- デバッグバイナリのコンパイルを有効にするには、[デバッグの有効化] チェックボックスを選択します。この場合、ソースコードの一部にエラーがあると、診断メッセージに表示されます。

注：アプリケーションをデバッグモードで実行すると、メモリやパフォーマンスのオーバーヘッドが発生します。デバッグは、アプリケーションのテスト時に使用して、本稼働段階では無効にすることをお勧めします。

8. [グローバル化設定] セクションで、ASP.NET アプリケーションのエンコーディング設定を構成します。

- すべての受信リクエストに適用するエンコーディングを設定するには、[リクエストのエンコーディング] フィールドにエンコーディングの値を入力します（デフォルトは「utf-8」です）。
- すべてのレスポンスに適用するエンコーディングを設定するには、エンコーディング値を [レスポンスのエンコーディング] フィールドに入力します（デフォルトは「utf-8」です）。
- .aspx、.asmx、.asax ファイルの解析にデフォルトで使用するエンコーディングを設定するには、エンコーディング値を [ファイルのエンコーディング] フィールドに入力します（デフォルトは「Windows-1252」です）。
- 受信するウェブリクエストに対してデフォルトで使用するカルチャーを設定するには、[カルチャー] リストから適切なアイテムを選択します。
- ロケールに依存するリソースの検索時にデフォルトで使用するカルチャーを設定するには、[UI カルチャー] リストで適切なアイテムを選択します。

9. ASP.NET アプリケーションの CAS (コードアクセスセキュリティ) 信用レベルを [コードアクセスセキュリティ] フィールドに設定します。

CAS 信用レベルとは、アプリケーションの実行を割り当てるセキュリティゾーンであり、アプリケーションがアクセスできるサーバーリソースを定義します。

重要： アセンブリに割り当てられた信用レベルが低すぎると、アセンブリは正しく機能しません。パーミッションレベルの詳細については http://msdn.microsoft.com/library/jp-jp/dnnetsec/html/THCMCh09.asp?frame=true#c09618429_010 を参照してください。

10. ASP.NET 1.1.xを使用している場合は、**【スクリプトライブラリ設定】** フィールドで補助スクリプトの使用を有効にできます。ウェブサイトで検証ウェブコントロールを使用している場合は、スクリプトライブラリ設定を指定する必要があります。

- 補助スクリプト（具体的には、入力データ検証用オブジェクトを実行するスクリプト）を使用する必要がある場合は、.NET フレームワークスクリプトライブラリの設定を指定してください。これを行うには、**【Microsoft スクリプトライブラリへのパス】** フィールドに、スラッシュに続けてドメインのルートディレクトリから始まるパスを入力するか、**【Microsoft スクリプトライブラリへのパス】** フィールドの横にあるフォルダアイコンをクリックして必要なロケーションを選択します。
- スクリプトを含むファイルを特定のロケーションにインストールするには、**【インストール】** チェックボックスをオンにします。既存のファイルは上書きされません。

11. クライアントセッションパラメータを**【セッション設定】** フィールドに設定します。

- アプリケーションのデフォルト認証モードをセットアップするには、**【認証モード】** リストで適切なアイテムを選択します。IIS 認証を使用している場合は、Windows 認証モードを選択してください。
- 許可されるセッションアイドル時間をセットアップするには、**【セッションタイムアウト】** フィールドに適切な値を分単位で入力してください。

12. **【OK】** をクリックすると、変更した内容がすべて適用されます。

仮想ディレクトリ用の PHP を構成する

PHP4 または PHP5 が必要なウェブアプリケーションを使用するには、個別の仮想ディレクトリに対して必要な PHP バージョンを選択できます。

➤ **仮想ディレクトリの PHP バージョンを選択するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [仮想ディレクトリ] に進みます。
3. 必要なディレクトリを検索し、名前のリンクをクリックします。
4. [ツール] グループで [PHP設定] をクリックします。
5. 必要なPHPバージョンを選択し、 [OK] をクリックします。

仮想ディレクトリへのアクセスをセットアップする

▶ 仮想ディレクトリのアクセス権限を設定するには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [仮想ディレクトリ] に進みます。
3. 現在の仮想ディレクトリにアクセス権限を設定するには、[ツール] グループで [ディレクトリアクセスマネージメント] をクリックします。現在のディレクトリの下にあるサブディレクトリにパーミッションを設定するには、 アイコンをクリックします。
4. 以下を実行してください。
 - 親フォルダから当該ファイル/フォルダにパーミッションを継承させるには、[親フォルダからこのオブジェクト（およびすべての子オブジェクト）へのパーミッション継承を許可する。ここで明示的に定義したエントリを含める。] チェックボックスをオンにします。
 - このフォルダに含まれるファイルとフォルダに、定義したフォルダパーミッションを継承させるには、[すべての子オブジェクトのパーミッションエントリを、ここに表示されるエントリに置き換える] チェックボックスをオンにします。
 - グループまたはユーザのパーミッションを変更または削除するには、パーミッションの名前を [グループまたはユーザ名] リストでクリックします。該当するグループまたはユーザが [グループまたはユーザ名] リストに存在しない場合は、リストの上にあるメニューで必要なユーザまたはグループ名を選択し、 をクリックします。リストに、ユーザ/グループ表示されます。それを選択します。

選択したユーザ/グループのパーミッションを許可または却下するには、[次のユーザ/グループのパーミッション：<ユーザ/グループ名>] にリストされたパーミッションに対して [許可] または [却下] チェックボックスをオンにします。[許可] または [却下] 列でチェックボックスがグレー表示されている場合、このパーミッションは親フォルダから継承されたものです。
 - 親フォルダから継承されたパーミッションを却下するには、[却下] 列のチェックボックスをオンにします。これにより、このファイルまたはフォルダに継承されたパーミッションは上書きされます。
 - 親フォルダから「拒否」として継承されたパーミッションを「許可」に設定するには、[親フォルダからこのオブジェクト（およびすべての子オブジェクト）へのパーミッション継承を許可する。ここで明示的に定義したエントリを含める。] チェックボックスをクリアします。これにより、継承されたパーミッションが削除されます。次に、必要に応じて [許可] および [却下] 列でチェックボックスをオンにします。

- グループまたはユーザからアクセスパーミッションを削除するには、[グループまたはユーザ名] リストで必要な名前を選択し、横にある  アイコンをクリックします。
5. パーミッションを詳細に設定する必要がある場合は、[拡張] ボタンをクリックして以下の作業を行ってください。
- グループまたはユーザのパーミッションエントリを作成するには、該当する名前を [グループまたはユーザ名] リストで選択して  をクリックします。
 - グループまたはユーザにファイル/フォルダパーミッションを設定または変更するには、[グループまたはユーザ名] リストで名前を選択し、[次のユーザ/グループのパーミッション：<ユーザ/グループ名>] にリストされたパーミッションに対して [許可] または [却下] チェックボックスをオンにします。
 - グループまたはユーザのパーミッションエントリを削除するには、[グループまたはユーザ名] リストで名前を選択して  をクリックします。
 - [次のユーザ/グループのパーミッション：<ユーザ/グループ名>] で定義したパーミッションがフォルダの子オブジェクトに継承されるようにするには、[すべての子オブジェクトのパーミッションエントリを、子オブジェクトに適用されるここに示すエントリに置き換える] チェックボックスをオンにして、[適用先] リストでパーミッション継承先オブジェクトのチェックボックスをオンにします。
6. [OK] をクリックします。

➤ **仮想ディレクトリ内のファイルとディレクトリへのアクセスを制限するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [仮想ディレクトリ] に進みます。
3. 保護したいディレクトリに進み、[保護] タブをクリックします。
4. [保護] をクリックします。
5. ディレクトリにアクセスできるユーザを指定するには、[ユーザを追加する] をクリックし、ユーザ名とパスワードを指定して、[OK] をクリックします。
6. ユーザがディレクトリにアクセスしようとする则表示される、保護エリアのタイトルを指定するには、[設定] をクリックし、タイトルを指定して [OK] をクリックします。

➤ ユーザがディレクトリにアクセスする際のパーミッションを無効にするには：

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [仮想ディレクトリ] > [保護] タブに進みます。
2. ユーザ名に対応するチェックボックスを選択し、[削除する] をクリックします。

➤ ディレクトリの保護を解除し、一般ユーザがディレクトリコンテンツを無制限に参照できるようにするには：

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [仮想ディレクトリ] > [保護] タブに進みます。
2. [保護を解除する] をクリックします。
3. [OK] をクリックして削除を確認します。

仮想ディレクトリ設定を変更する

▶ 仮想ディレクトリの設定を変更するには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [仮想ディレクトリ] に進みます。
3. プリファレンスを変更するディレクトリを開いて  をクリックするか、当該ディレクトリ内で [ディレクトリプロパティ] をクリックします。
4. 必要に応じて、設定を変更してください。
 - **名前**：仮想ディレクトリ名を指定します。
 - **パス**：仮想ディレクトリとリンクしている物理ディレクトリのパスを指定します。
 - **スクリプトソースへのアクセス**：このチェックボックスをオンにすると、読み取りまたは書き込みパーミッションが設定されているユーザはソースコードにアクセスできます。ソースコードにはASPアプリケーションのスクリプトも含まれます。
 - **読み取りパーミッション**：このチェックボックスをオンにすると、ユーザはファイルまたはディレクトリ、および関連するプロパティを読み取ることができます。
 - **書き込みパーミッション**：このチェックボックスをオンにすると、ユーザはファイルおよび関連プロパティを仮想ディレクトリにアップロードしたり、書き込み可能なファイルのコンテンツを変更することができます。書き込みパーミッションは、HTTP 1.1 プロトコルの PUT 機能がサポートされているブラウザのみで有効です。
 - **ディレクトリの参照**：このチェックボックスをオンにすると、ユーザは仮想ディレクトリのファイルとサブディレクトリのハイパーテキストリストを参照できます。
 - **訪問をログに保存する**：このチェックボックスをオンにすると、仮想ディレクトリへの訪問者に関する情報が保存されます。
 - **アプリケーションの作成**：このチェックボックスを選択すると、Web ディレクトリを IIS アプリケーションにします。当該ディレクトリはウェブサイトの他の部分から論理的に独立します。
 - **実行パーミッション**：仮想ディレクトリで許可されるプログラムの実行レベルを選択します。
 - **なし**：HTML や画像ファイルなどの静的ファイルへのアクセスのみを許可します。
 - **スクリプトのみ**：スクリプトの実行のみを許可します。その他の実行可能ファイルを実行することはできません。

- **スクリプトと実行可能ファイル**：制限がすべて解除され、すべてのファイルタイプを実行できます。
- **親パスの使用を許可する**：このチェックボックスをオンにすると、現在のウェブディレクトリの1つ上のフォルダを、パス名にダブルピリオドを使用して表現できます。これによってユーザは、具体的なフォルダ名や全体の階層構造を知らなくてもフォルダの上位へ移動できます。このオプションを選択する場合、親パスディレクトリのプロパティで**[実行パーミッション]** チェックボックスをオンにすることはできません。これにより、親パスで許可されないプログラムをアプリケーションで実行することはできなくなります。
- **MTA (マルチスレッドアパートメント) モードでのアプリケーション実行を許可する**：このチェックボックスをオンにすると、MTA (マルチスレッドアパートメント) モードでアプリケーションを実行できます。選択をクリアすると、アプリケーションはSTA (シングルスレッドアパートメント) モードで実行されます。STA では、各アプリケーションプールは専用のプロセスで実行されます。MTA では1つのスレッドで複数の並列アプリケーションプールが実行されるので、場合によってはパフォーマンスが向上します。
- **デフォルトドキュメントを使用する**：このチェックボックスをオンにすると、現在のウェブディレクトリでデフォルトドキュメントを使用することができます。デフォルトドキュメントとは、ユーザがファイル名を指定せずにウェブ上のディレクトリにアクセスした場合に送信されるドキュメントです (例えば、「<http://www.parallels.com>」にアクセスすると「<http://www.parallels.com/index.html>」が表示されます)。このチェックボックスをオフにして、**[ディレクトリの参照]** チェックボックスをオンにすると、ウェブサーバがフォルダのリストを返します。このチェックボックスをオフにして、**[ディレクトリの参照]** チェックボックスもオフにすると、ウェブサーバは「アクセス禁止」のエラーメッセージを返します。
- **デフォルトドキュメントの検索順序**：IIS がデフォルトドキュメントを検索する順序を指定します。最初に検索されたファイルがユーザに提供されます。一致するドキュメントがない場合、IIS はデフォルトコンテンツページが無効である場合と同じ結果を返します。
- **匿名アクセスを許可する**：このチェックボックスをオンにすると、インターネットユーザは認証なしでディレクトリにアクセスできます。
- **SSL が必要**：このチェックボックスをオンにすると、SSL 暗号化された接続でしかフォルダにアクセスできなくなります。
- **ASP 設定**：ASP ベースのウェブアプリケーションに固有の設定を行います。
 - 使用している ASP ベースのウェブアプリケーションが、IIS で設定しているデータ転送制限では正常に動作しない場合、変更したいフィールドの横の**[親ディレクトリの定義を使用]** チェックボックスをクリアして、必要な数値を入力してください。
 - サーバ側で ASP アプリケーションのデバッグを有効にするには、**[親ディレクトリの定義を使用]** チェックボックスをクリアして**[ASP サーバサイドスクリプトのデバッグを有効にする]** チェックボックスをオンにします。

- クライアント側で ASP アプリケーションのデバッグを有効にするには、**【親ディレクトリの定義を使用】** チェックボックスをクリアして **【ASP クライアントサイドスクリプトのデバッグを有効にする】** チェックボックスをオンにします。

root ディレクトリの ASP 設定を変更する場合、デフォルトのチェックボックスは **【親ディレクトリの定義を使用】** ではなく **【IIS の定義を使用】** であることに注意してください。

5. **【OK】** をクリックして変更を保存します。

MIME タイプを追加および削除する

MIME (Multipurpose Internet Mail Exchange) タイプは、サーバから受信するファイルをウェブブラウザまたはメールアプリケーションがどのように処理するのかを決定します。例えば、ウェブブラウザは、サーバ上のアイテムを要求するときに、そのオブジェクトの MIME タイプも同時に要求します。グラフィックなど一部の MIME タイプは、ブラウザ内で表示することができます。ワープロ文書などその他のタイプを表示するには、外部のアプリケーションが必要になります。

ウェブサーバは、クライアントのウェブブラウザにウェブページを提供するときに、データの MIME タイプも同時に通知します。特定形式のファイルが添付または埋めこまれている場合、IIS はクライアントアプリケーションに対し、当該ファイルの MIME タイプについても通知します。この結果、クライアントアプリケーションは、IIS から受信したデータをどのように処理または表示すればよいのかを判断できます。

IIS は、登録されている MIME タイプのファイルしか処理できません。MIME タイプは、グローバル IIS レベルでも、ウェブサイトまたは仮想ディレクトリレベルでも定義することができます。ウェブサイトのメインディレクトリまたは仮想ディレクトリレベルで定義された MIME タイプは、定義したエリアのみで使用されますが、グローバル定義された MIME タイプはすべてのドメインおよび仮想ディレクトリに継承されます。このような継承が行われないと、登録されていない MIME タイプのファイルに対する要求がウェブサーバに受信されたときに、ウェブサーバは 404.3 (Not Found) エラーを返すことになってしまいます。

➤ 仮想ディレクトリに新規 MIME タイプを追加するには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [仮想ディレクトリ] に進みます。
3. 必要な仮想ディレクトリに進み、関連する名前のリンクをクリックします。
4. [MIMEタイプ] タブをクリックします。
5. [MIMEタイプの追加] をクリックします。
6. 以下を指定します。
 - ファイルの拡張子を [拡張子] フィールドに入力します。ファイル拡張子の先頭はドット (.) にします。あるいは、ワイルドカード (*) を使用すれば、ファイル拡張子に関係なくすべてのファイルが対象となります。
 - [コンテンツ] フィールドにファイルコンテンツのタイプを指定します。

- リストから適切な値を選択することも、新規コンテンツタイプを定義することもできます。新規コンテンツタイプを定義するには [カスタム] を選択し、入力ボックスにコンテンツタイプを入力します。
7. 作成を完了したら [OK] をクリックします。

➤ **仮想ディレクトリの MIME タイプを編集するには :**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [仮想ディレクトリ] に進みます。
3. 必要な仮想ディレクトリに進み、関連する名前のリンクをクリックします。
4. [MIMEタイプ] タブを選択します。
5. リストから必要なMIMEタイプを選択します。
 - ファイルの拡張子を [拡張子] フィールドに入力します。ファイル拡張子の先頭はドット (.) にします。あるいは、ワイルドカード (*) を使用すれば、ファイル拡張子に関係なくすべてのファイルが対象となります。
 - [コンテンツ] フィールドにファイルコンテンツのタイプを指定します。
 - リストから適切な値を選択することも、新規コンテンツタイプを定義することもできます。新規コンテンツタイプを定義するには [カスタム] を選択し、入力ボックスにコンテンツタイプを入力します。
6. [OK] をクリックして変更を保存します。

➤ **仮想ディレクトリの MIME タイプを削除するには :**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [仮想ディレクトリ] に進みます。
3. 必要な仮想ディレクトリに進み、関連する名前のリンクをクリックします。
4. [MIMEタイプ] タブを選択します。
5. 削除したいMIMEタイプに該当するチェックボックスをオンにします。
6. [削除] をクリックします。

7. 削除を確認して [OK] をクリックします。

IIS アプリケーションプールをセットアップする (Windows ホスティング)

IIS アプリケーションプールには、サイトにインストールされたすべてのウェブアプリケーションが含まれます。サービスプロバイダによりサイトに専用 IIS アプリケーションプールが付与されている場合、自分のドメインで使用するウェブアプリケーションを、同じサーバ上でウェブサイトをホスティングしている別のホスティングユーザが使用しているウェブアプリケーションから分離することができます。各アプリケーションプールは独立して動作するため、あるアプリケーションプールでエラーが発生しても、別のアプリケーションプールで動作しているアプリケーションには影響がありません。

一度アプリケーションプールを有効にすると、ドメイン上のすべてのウェブアプリケーションで使用されます。

➤ ウェブサイト用の専用 IIS アプリケーションプールをスイッチオンするには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [ウェブサイト用の専用 IIS アプリケーションプール] に進みます。
3. [スイッチオン] をクリックします。
4. このアプリケーションプールで使用できる CPU リソース量を制限するには、[CPU モニタリングをスイッチオンする] チェックボックスをオンにして [最大 CPU 使用率 (%)] フィールドにパーセント値を入力します。
5. [OK] をクリックします。

➤ アプリケーションプールで稼働しているアプリケーションをすべて停止するには：

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [ウェブサイト用の専用 IIS アプリケーションプール] に進みます。
2. [停止] をクリックします。

➤ アプリケーションプール内のアプリケーションをすべて起動するには：

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [ウェブサイト用の専用 IIS アプリケーションプール] に進みます。

2. **【起動】** をクリックします。

既知のメモリリークがあるか、長期的な使用により状態が不安定になったアプリケーションを実行している場合は、アプリケーションを再起動した方がよい場合があります。

➤ **アプリケーションプールで稼働しているアプリケーションをすべて再起動するには：**

1. **【ウェブサイトとドメイン】** タブで **【高度なオペレーション】** グループにある **【ウェブサイト用の専用IISアプリケーションプール】** に進みます。
2. **【リサイクル】** をクリックします。

➤ **ウェブサイト用の専用IISアプリケーションプールをスイッチオフするには：**

1. **【ウェブサイトとドメイン】** タブで **【高度なオペレーション】** グループにある **【ウェブサイト用の専用IISアプリケーションプール】** に進みます。
2. **【スイッチオフ】** をクリックします。

Web Deploy によるウェブパブリッシング (Windows ホスティング)

Microsoft 製の *Web Deploy* (ウェブデプロイメントツール) とは、ウェブサイトおよびウェブアプリケーションの移行、管理、導入を簡素化するツールです。具体的には、*Visual Studio* (IDE) や *WebMatrix* (開発ツール) などのお好みの環境でコードを作成してから、Web Deploy を使用して本稼働サーバに更新内容を定期的に発行します。

Visual Studio と WebMatrix の違い

ホスティングアカウントにコードの更新をシームレスに発行できる環境をお求めの場合、おそらく Visual Studio または WebMatrix が主な選択肢となるでしょう。

- Visual Studio は、従来からある IDE であり、あらゆる規模の .NET アプリケーションやサイトを作成できます。基本的な機能を拡張できる様々なプラグインが用意されています。ただし、Visual Studio でアプリケーションを実行およびデバッグするためには、追加の構成を行う必要があります (データベースおよび環境設定の準備など)。したがって、このツールは上級ユーザ向けです。
- WebMatrix の場合、アプリケーションテンプレートや作業用アプリケーション (WordPress、Joomla) を設定なしで使用できます。ホスティングアカウントにアプリケーションを追加したり、このアプリケーションを一から実行したい場合は、リストからアプリケーションを選択するだけで WebMatrix がすべての設定を行います。さらに、WebMatrix を終了せずに、プロジェクト用のホスティングプランを簡単に探し、契約することができます。従って、このツールは初心者ユーザでも使用でき、設定なしで実行可能なアプリケーションやテンプレートを使用して迅速に開発を進めることができます。

プロジェクトに適したツールをお選びください。

Visual Studio および WebMatrix でウェブパブリッシングを構成する方法

一般に、自分 (自社) の環境でウェブパブリッシングをセットアップするには、発行設定の画面を開き、ホスティングアカウントの IP アドレスとコントロールパネルへのログイン用のユーザ名/パスワードを指定します。

WebMatrix では、発行設定は [ホーム] > [発行] で行います。WebMatrix でのウェブパブリッシングのセットアップ方法について詳しくは、<http://www.microsoft.com/web/post/how-to-publish-a-web-application-using-webmatrix> (英語) を参照してください。

Visual Studio での発行設定について詳しくは、<http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/7z83t16a.aspx> を参照してください。

注：ホスティングアカウントに更新内容をセキュア接続で送信したい場合は、発行設定で関連するオプションを選択します。有効な SSL 証明書をホスティングプロバイダが所有していない場合は、発行しようとするエラーになります。この問題を解決するには、セキュア接続の使用を中止するか、ホスティングプロバイダにご相談ください。

ウェブサイトへの FTP アクセス

ウェブサイトコンテンツ更新の最も簡単な方法は、FTP 経由でのアップロードです。FTP（ファイル転送プロトコル）とは、2つのホスト（たとえば自分のコンピュータと Panel サーバ）間でファイルを転送するための標準ネットワークプロトコルです。Panel が FTP サーバとなり、ユーザは任意の FTP クライアントを使用してサーバ上のディレクトリにアクセスします。Panel は、次のようにあらゆる FTP 機能を備えています。

- **サーバへの認証付きのアクセス。** 詳しくは、「**FTP アクセスクレデンシャルを変更する**」のセクション（16417ページ）を参照してください。
- **複数ユーザアカウントによるコラボレーション。** 詳しくは、「**FTP アカウントを追加する**」のセクション（16517ページ）を参照してください。
- **匿名 FTP アクセス：** 認証なしのアクセス。これは、ソフトウェアアップデートを共有するためなどに使用できます。詳しくは、「**匿名 FTP アクセスをセットアップする**」のセクション（16717ページ）を参照してください。

この章の内容:

FTP アクセスクレデンシャルを変更する	164
FTP アカウントを追加する	165
匿名 FTP アクセスをセットアップする	167

FTP アクセスクレデンシャルを変更する

サイトに関連するすべてのファイルとディレクトリはサーバの単一のディレクトリに保存され、このディレクトリを「ウェブスペース」と呼びます。FTP 経由でウェブスペースに接続し、ファイルをアップロード、ダウンロード、削除するためには、FTP アカウントのユーザ名とパスワードを使用します。

➤ **FTP アカウントのユーザ名またはパスワードを変更するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、アカウントに関連付けられた複数のウェブスペースにアクセスできる場合、画面上部にある [契約] メニューで、ウェブサイトがホスティングされているウェブスペースを選択してください。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブをクリックします。
3. [ウェブホスティング設定] をクリックします。
4. 新しいユーザ名またはパスワードを入力します。
5. [OK] をクリックします。

FTP アカウントを追加する

自社のウェブサイトで他のユーザと共同作業したり、他のユーザにサブドメインをホスティングする場合、他のユーザのために個別のFTPアカウントを作成すると便利です。

➤ **追加のFTPアカウントを作成するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある **【契約】** メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. **【ウェブサイトとドメイン】** タブをクリックします。
3. **【FTPアクセス】** をクリックします。
4. **【追加FTPアカウント】** タブで **【追加FTPアカウントを作成する】** をクリックします。
5. 以下を指定します。
 - **FTPアカウント名**：任意の名前を入力します。
 - **ホームディレクトリ**：ユーザがFTPアカウントに接続すると表示されるディレクトリを選択します。
 - **FTPパスワード**：
 - **ハードディスククォータ**（Windows ホスティング）：サーバ上でFTPユーザが占有できるディスク容量を制限するには、**【ハードディスククォータ】** ボックスの横の **【無制限】** チェックボックスをオフにして、ディスク容量をメガバイトで入力します。
 - **読み取りパーミッション**（Windows ホスティング）。ホームディレクトリのコンテンツを参照し、そこからファイルをダウンロードする権限をFTPユーザに与えるには、**【読み取りパーミッション】** チェックボックスをオンにします。
 - **書き込みパーミッション**（Windows ホスティング）。ホームディレクトリでディレクトリの作成/表示/名前変更/削除を行う権限をFTPユーザに与えるには、**【書き込みパーミッション】** チェックボックスをオンにします。

Windows ホスティングでは、パーミッションを付与しないと、FTPアカウントへの接続が確立されても、ユーザにホームディレクトリのコンテンツが表示されません。
6. **【OK】** をクリックします。

➤ **追加FTPアカウントのプロパティを変更するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブをクリックします。
3. [FTPアクセス] をクリックします。
4. [追加FTPアカウント] タブのリストで、必要なFTPアカウント名をクリックします。
5. 必要な変更を行い、 [OK] をクリックします。

➤ **追加FTPアカウントを削除するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブをクリックします。
3. [FTPアクセス] をクリックします。
4. [追加FTPアカウント] タブで削除するアカウントのチェックボックスをオンにし、 [削除] をクリックします。
5. 削除を確認して [OK] をクリックします。

匿名 FTP アクセスをセットアップする

他のユーザやサイトと IP アドレスを共有せず、専用 IP アドレスでサイトをホスティングしている場合、他のユーザが FTP 経由でファイルを匿名でダウンロードまたはアップロードできるディレクトリをサイト内にセットアップすることができます。匿名 FTP をオンにすると、ユーザは「ftp://ftp.your-domain.com」などのアドレスを持つディレクトリに「anonymous」というユーザ名と任意のパスワードを使用してログインできるようになります。

➤ 匿名 FTP アクセスを許可するには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある **[契約]** メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. **[ウェブサイトとドメイン]** タブをクリックします。
3. **[FTPアクセス]** をクリックします。
4. **[匿名FTP]** タブをクリックします。
5. 以下を実行してください。
 - a. 匿名FTPサービスを有効にするには、**[スイッチオン]** をクリックします。
 - b. ユーザがFTPサイトにログインすると表示されるウェルカムメッセージを設定するには、**[ログインメッセージを表示する]** チェックボックスをオンにして、入力フィールドに任意のメッセージテキストを入力します。

すべての FTP クライアントでウェルカムメッセージが表示されるわけではありません。
 - c. サイトの訪問者に `/incoming` ディレクトリへのファイルのアップロードを許可するには、**[受信ディレクトリへのアップロードを許可する]** チェックボックスを選択します。
 - d. ユーザに `/incoming` ディレクトリでのサブディレクトリの作成を許可するには、**[受信ディレクトリでのディレクトリ作成を許可する]** チェックボックスをオンにします。
 - e. `/incoming` ディレクトリからのファイルのダウンロードを許可するには、**[受信ディレクトリからのダウンロードを許可する]** チェックボックスをオンにします。

- f. アップロードするファイルが占有できるディスク容量を制限するには、**【受信ディレクトリのディスク容量を制限する】**オプションに対して**【無制限】**チェックボックスをクリアし、容量をキロバイトで指定します。

これがハードクォータです。この制限に達すると、ユーザはディレクトリにファイルを追加できなくなります。

- g. 匿名FTPサーバに同時接続できる数を制限するには、**【同時接続の数を制限する】**オプションに対して**【無制限】**チェックボックスをオフにし、許可される接続数を指定します。
- h. 匿名FTP接続の帯域幅を制限するには、**【この仮想FTPドメインのダウンロード帯域幅を制限する】**オプションに対して**【無制限】**チェックボックスをクリアし、最大帯域幅をキロバイト毎秒で入力します。

6. **【OK】** をクリックします。

➤ **匿名FTPサービスを設定変更するか、無効にするには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある**【契約】**メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. **【ウェブサイトとドメイン】** タブをクリックします。
3. **【FTPアクセス】** をクリックします。
4. **【匿名FTP】** タブをクリックします。
5. 必要な操作を実行します。
 - 必要に応じて設定を調整し **【OK】** をクリックします。
 - 匿名FTPサービスを無効にするには、**【スイッチオフ】** をクリックします。

第 9 章

メール

Panelには、最新のメール機能がすべて搭載されています。コントロールパネルでメールアカウントを作成または削除したり、メール転送をセットアップしたり、スパムやウイルスからの防御を設定することなどができます。メールサービスの構成について詳しくは、「メールを構成する」のセクション（17117ページ）を参照してください。

一部のメールボックスをニュースやプロモーションの配信に使用したり、グループディスカッションをセットアップするには、メーリングリスト機能を使用できます。これは、複数のユーザが登録されているメールアドレスです。詳しくは、「メーリングリストを使用する」のセクション（18017ページ）を参照してください。

この章の内容:

メールアカウントを追加する	170
メールを構成する	171
メーリングリストを使用する	180

メールアカウントを追加する

➤ **メールアドレスを作成するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある**【契約】**メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. **【メール】** タブをクリックします。
3. **【メールアドレスの作成】** をクリックします。
4. メールアドレスの @ 記号の左側部分を入力し、（アカウントに複数のドメイン名がある場合は）メールアドレスを作成するドメイン名を選択します。
5. **【メールボックス】** チェックボックスはオンにしておきます。
このチェックボックスは、受信メールを他のアドレスに転送するメールフォワーダとしてこのアドレスを使用する場合に限ってオフにしてください。
6. メールボックスのサイズを指定するか、プロバイダのポリシーまたはサービスプランに定義されているデフォルトサイズを使用します。
7. 半角アルファベット5文字以上のパスワードを入力します。
8. **【OK】** をクリックします。

➤ **メールアドレスを削除するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある**【契約】**メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. **【メール】** タブをクリックします。
3. 削除するメールアドレスに対応するチェックボックスを選択し、**【削除】** をクリックします。
4. 削除を確認して、**【はい】** をクリックします。

メールを構成する

Panel では、次の 2 つのレベルでメールサービスを構成できます。

- **メールアカウント設定の構成**：これらの設定は、メールアカウントのみに影響します。たとえば、受信メッセージの転送先や、スパムの可能性があるメールの処理方法などです。メールアカウントに対して可能なオペレーションについては、「**メールアカウントを構成する**」のセクション（17217ページ）を参照してください。
- **グローバルなメール設定の構成**：これらは、契約内のすべてのメールボックスに影響する契約全体の設定です。たとえば、Panel で使用するウェブメールシステムや、存在しないユーザに送信されたメールの処理方法などです。ただし、ホスティングプランによっては、これらの設定を使用できない場合があります。グローバルなメール設定を変更する方法は、「**(高度)メールのグローバル設定を構成する**」のセクション（17917ページ）を参照してください。

メールアドレスを構成する

プロバイダのポリシーで、コントロールパネルでのメールアドレスとサービスのセットアップが許可されている場合、次のメールサービスをセットアップして使用できます。

- 貴社のドメイン名に関連付けられたメールボックス。
- メールエイリアス：ユーザのプライマリ（メイン）メールアドレスに関連付けられている追加のメールアドレス。メールエイリアスは、インターネット上で公開できる一時的なアドレスとして使用できます。メールエイリアスとして設定しているアドレスにスパムが届くようになった場合は、エイリアスを削除して別のエイリアスを作成できます。
- メール転送：各メールアドレスに対して、すべての受信メールのコピーを別のメールアドレスに送信するメール転送サービスをセットアップできます。
- 自動返信：各メールアドレスに対して、あらかじめ定義したメッセージをすべての受信メールに返信する自動返信機能をセットアップできます。これは、不在時に「外出中」や「休暇中」などの通知を送信する場合に便利です。
- スпамからの保護：各メールアドレスに対し、アンチスパムフィルタによるすべての受信メッセージの解析をセットアップすることができます。さらに、スパムと見なされたメッセージの処理方法（削除、特別なフォルダに移動、またはメッセージ件名にテキストを追加）を指定できます。
- ウイルス保護：Panelでは、すべての送受信メールに対してウイルスチェックを実行できます。

メール転送をセットアップする

➤ メールアドレスにメール転送をセットアップするには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある【契約】メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. 【メール】タブで【メールアドレス】 > 【転送】タブに進みます。
3. 【メール転送を有効にする】チェックボックスをオンにします。
4. メールの転送先とするメールアドレスを1つ以上指定します。複数のメールアドレスを指定する場合は、スペース、コンマ、セミコロンで区切るか、改行してください。
5. 【OK】をクリックします。
6. 転送したメッセージのコピーをメールボックスに残したくない場合は、【メール】タブで【メールアドレス】に進み、【メールボックス】チェックボックスをオフにして、【OK】をクリックしてください。

➤ メール転送を無効にするには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある【契約】メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. 【メール】タブで【メールアドレス】 > 【転送】タブに進みます。
3. 【メール転送を有効にする】チェックボックスをオフにして、【OK】をクリックします。

メールエイリアスを作成する

- **メールアカウントの追加メールアドレス（メールエイリアス）を追加または削除するには：**
1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある【契約】メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
 2. 【メール】タブで【メールアドレス】 > 【メールエイリアス】タブに進みます。
 3. 以下のいずれかを実行します。
 - アドレスを追加するには、【メールエイリアス】ボックスに入力し、【OK】をクリックします。
 - アドレスを削除するには、削除するアドレスの右側の【削除】リンクをクリックします。

自動返信をセットアップする

➤ メールアドレスに自動返信をセットアップするには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある **【契約】** メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. **【メール】** タブで **【メールアドレス】** > **【自動返信】** タブに進みます。
3. **【自動返信を有効にする】** チェックボックスをオンにして、次の設定を指定します。
 - **自動返信メールの件名。**
 - **メッセージフォーマット。** 受信者によっては、HTML 形式のテキストを表示できないため、**【テキスト形式】** オプションを選択しておくことをお勧めします。
 - **エンコード。** メッセージ内の文字が正しく表示されるようにするためには、UTF-8 を選択しておくことをお勧めします。
 - **メッセージテキスト。**
 - **転送先アドレス。** 受信メッセージを他のメールアドレスに転送する場合、このボックス内に転送先のメールアドレスを入力してください。
 - **添付ファイル。** メッセージにファイルを添付するには、**【参照】** をクリックしてファイルを選択します。
4. **【OK】** をクリックします。

➤ メールアドレスに設定した自動返信をオフにするには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある **【契約】** メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. **【メール】** タブで **【メールアドレス】** > **【自動返信】** タブに進みます。
3. 自動返信をオフにするには、**【自動返信を有効にする】** チェックボックスをオフにして、**【OK】** をクリックします。

スパムから防御する

➤ メールボックスのスパムフィルタを有効にするには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある【契約】メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. 【メール】タブで【メールアドレス】>【スパムフィルタ】タブに進んでください。
3. 【このメールアドレスに対してスパムフィルタを有効にする】チェックボックスをオンにします。
4. スпамに分類されたメッセージに対する処理を指定します。

- ローカルコンピュータのソフトウェアを使用してメールをフィルタする場合は、【スパムメッセージの件名に指定テキストを追加してマーキングする】オプションを選択し、スパムフィルタがスパムとして認識したメッセージをマーキングする方法を指定します。デフォルトでは、「X-Spam-Flag: YES」ヘッダおよび「X-Spam-Status: Yes」ヘッダがメッセージソースに付加され、必要に応じて件名行の先頭に特定のテキスト文字列が追加されます。
- スпамフィルタの精度を信頼できる場合、スパムと認識されたすべての受信メッセージを自動的に削除するようにフィルタを設定できます。この場合、【スパムメッセージをすべて削除する】オプションを選択します。
- IMAP プロトコル経由でメールボックスにアクセスしており、スパムと見なされたすべてのメッセージをスパムフィルタによって「Spam」という名前の IMAP フォルダに移動させたい場合は、【スパムをスパムフォルダに移動する】オプションをオンにしてください。

すべてのメッセージは 30 日後に Spam フォルダから自動的に削除されるため、重要なメッセージを見落とさないように Spam フォルダのコンテンツを定期的にレビューして、スパム以外のすべてのメッセージを受信フォルダに戻す必要があります。

【スパムをスパムフォルダに移動する】オプションをオンにすると、スパムフィルタを学習させ、受信ボックスから Spam へ、あるいは Spam から受信ボックスへ、スパムメッセージを移動して精度を上げることができます。

5. スпамフィルタの感度を調節したい場合は、【高度な設定を表示する】をクリックして、メッセージがスパムとみなされるスコアを示すポイント数を入力してください。

SpamAssassin は、各メッセージの本文と件名に対して複数のテストを実行します。そのため、各メッセージに複数のポイントが記録されます。ポイントが高いほど、メッセージがスパムである可能性が高くなります。例えば、件名と本文にテキスト文字列「BUY VIAGRA AT LOW PRICE!!!」が含まれるメッセージのスコアは、8.3 ポイントになります。デフォルトでは、スコアが 7 ポイント以上のメッセージをスパムと分類するようにフィルタ感度が設定されます。

- 現在の設定のままでは、受信するスパムメッセージが多すぎる場合、**【スパムフィルタの感度】** ボックスの値を6などに下げてみてください。
- スпамフィルタでジャンクとみなされて受信できないメールが多過ぎる場合、**【スパムフィルタの感度】** ボックスの値を上げることにより、フィルタ感度を下げてみてください。

注：スパムフィルタの精度を向上するために、このセクションの説明に従って、受信メールメッセージのスパムフィルタを学習させることができます。

6. 特定の送信者からのメールを常に受信したい場合は、メールアドレスまたはドメイン名を**【ホワイトリスト】** フィールドに追加してください。
複数のアドレスが存在する場合は、アドレスごとに改行するか、コンマ、コロン、スペースでアドレスを区切ってください。アスタリスク (*) は任意の組み合わせ文字を意味し、疑問符 (?) は任意の一文字を意味します。例えば、address@mycompany.net, user?@mycompany.net、*@mycompany.netのように指定します。*@mycompany.netを指定すると mycompany.net というドメインのメールアドレスがすべてホワイトリストに追加されます。
7. 特定のドメインや特定の送信者からのメールを受信したくない場合は、メールアドレスまたはドメイン名を**【ブラックリスト】** フィールドに追加してください。
複数のアドレスが存在する場合は、アドレスごとに改行するか、コンマ、コロン、スペースでアドレスを区切ってください。アスタリスク (*) は任意の組み合わせ文字を意味し、疑問符 (?) は任意の一文字を意味します。例えば「address@spammers.net」、
「user?@spammers.net」、
「*@spammers.net」のように入力します。
「*@spammers.net」を指定すると、「spammers.net」ドメインを持つすべてのメールがブロックされます。
8. Windowsベースのホスティングアカウントを使用している場合、信頼できる言語と文字セットも指定できます。指定された言語と定義された文字セットで記述されているメールメッセージは、スパムフィルタを通過し、スパムとマーキングされません。
9. Windowsベースのホスティングアカウントでは、メールの送信元のコンピュータまたはネットワークのIPアドレスを指定することもできます。ネットワークアドレスを指定する場合、アドレスを入力して、スラッシュの後にネットワークマスクを追加します。例えば「192.168.10.10/24」のようにします。
10. **【OK】** をクリックします。

サーバの SpamAssassin スпамフィルタがアカウントに対してオンになっており、IMAP プロトコル経由でメールボックスにアクセスしている場合、スパムの検出精度を改善することができます。

➤ **スパム検出の精度を改善するには：**

1. メールボックスに、ウェブメールまたはメールクライアントプログラムでアクセスします。
2. 受信フォルダ内のメッセージを確認します。すべてのスパムメッセージをスパムフォルダに移動します。これにより、SpamAssassinスパムフィルタでのスパムの認識率が上がります。

ウイルスから保護する

システムをウイルスから防御するには、疑わしい添付ファイルは開かず、ホスティング事業者がアンチウイルスサービスを提供していればこれを有効にし、ファイアウォールおよびアンチウイルスソフトウェアがPCにインストールされていることを確認してください。また、オペレーティングシステムを常に最新の状態に維持し、適宜、セキュリティホットフィックスとパッチをインストールします。

➤ メールボックスのアンチウイルスを有効にするには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [メール] タブで [メールアドレス] > [アンチウイルス] タブに進みます。
3. [このメールアドレスに対してアンチウイルス防御を有効にする] チェックボックスをオンにします。
4. 使用するメールスキャンモードを選択します。受信メール、発信メール、または送受信メールに対してスキャンを有効にできます。
5. [OK] をクリックします。

ウイルス感染したメッセージが届くと、メールで通知されます。プロバイダが Kaspersky Antivirus を使用している場合、[メール] タブの [メールアドレス] > [アンチウイルス] タブで構成することができます。

➤ メールボックスのアンチウイルスを無効にするには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [メール] タブで [メールアドレス] > [アンチウイルス] タブに進みます。
3. [このメールアドレスに対してアンチウイルス防御を有効にする] チェックボックスをオフにします。
4. [OK] をクリックします。

(高度) メールグローバル設定を構成する

次のようなメールサービス設定を構成し、契約内で作成されたすべてのドメインに適用することができます。

- メールサービスのステータス。メールサービスのオン/オフを切り替えることができます。メールサービスがオフになっている場合は、メールメッセージを送受信できません。
- メールバウンス設定。デフォルトでは、貴社のドメインに存在しないメールアドレス宛でのメールメッセージを受け取ったメールサーバは、メールを受信し、処理して、該当する受信者がドメイン内に存在しないと認識してから、エラーメッセージ付きで送信者にメールを返します。以下のいずれかを選択できます。
 - 今後も、このようなメールは送信者に返す（[メッセージ付きでバウンスする] オプション）
 - 指定メールアドレスに転送する（[キャッチ転送] オプション）
 - 指定した IP アドレスを持つ外部メールサーバに転送する（[指定した IP アドレスの外部メールサーバに転送する] オプション）（※Windows ホスティングのみ）
 - メールを受け取らず、送信者に通知せずに拒否する（[拒否] オプション）
- ウェブメール。サービスプランに、アカウントで使用するウェブメールプログラムを選択するオプションが含まれている場合、グローバルメール設定でプログラムを選択できます。

➤ メールサービス設定を構成するには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [メール] タブで [設定の変更] をクリックします。
3. 必要なオプションを選択し [OK] をクリックします。

メーリングリストを使用する

メーリングリストとは、多数のユーザが登録されているグループメールアドレスです。メーリングリストを使用して、複数の受信者宛てにメールメッセージを一括送信できます。メーリングリストに登録されたユーザ宛てに送信されるメールメッセージには、テキスト形式のメースからカラフルなニュースレターまで、さらには画像やリンクが組み込まれたプロモーション、マルチメディアや発表資料の添付など、あらゆるものを含めることができます。

メーリングリストのメカニズム：Parallels Panelにメーリングリストのメールアドレスを作成し、そこにユーザを登録します。メーリングリストのアドレス宛てにメッセージを送信すると、登録されたすべてのユーザがこのメッセージを受信します。

➤ **メーリングリストをセットアップしてユーザを登録するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある【契約】メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. 【メール】タブで【メーリングリスト】タブに進みます。
3. 【メーリングリストの作成】をクリックします。
4. メーリングリストのアドレスを入力します。複数のウェブサイトを使用している場合は、メーリングリストを作成するウェブサイトを選択してください。
5. メーリングリストにユーザを登録するには、ユーザのメールアドレスを1行に1件ずつ入力します。
6. メーリングリストが作成されたことをメーリングリスト管理者に通知するためには、【メーリングリストの作成を管理者に通知する】チェックボックスをオンにします。
7. 【OK】をクリックします。

➤ **ユーザを登録または登録解除するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある【契約】メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. 【メール】タブで【メーリングリスト】タブに進みます。
3. メーリングリストのアドレスをクリックします。
4. 以下のいずれかを実行します。

- メーリングリストにユーザを登録するには、[登録者] フィールドにユーザのメールアドレスを1行に1件ずつ入力します。
 - ユーザの登録を解除するには、[登録者] フィールドから該当アドレスを削除します。
5. [OK] をクリックします。

➤ **メーリングリストを削除するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [メール] タブで [メーリングリスト] タブに進みます。
3. 削除するメーリングリストに対応するチェックボックスを選択し、[削除] をクリックします。
4. 削除を確認して、[はい] をクリックします。

➤ **メーリングリストサービスと、現在選択されている契約で作成されたすべてのメーリングリストを無効にするには：**

1. [メール] タブで [メーリングリスト] タブに進みます。
2. [サービスを無効にする] をクリックします。

➤ **現在選択している契約のメーリングリストサービスを有効にするには：**

1. [メール] タブで [メーリングリスト] タブに進みます。
2. [サービスを有効にする] をクリックします。

タスクをスケジュールリングする

決まった時間にホスティングアカウントでスクリプトを実行する必要がある場合は、Panel のタスクスケジューラを使用して、スクリプトを自動実行することができます。

タスクをスケジューリングする(Linux ホスティング)

決まった時間にホスティングアカウントでスクリプトを実行する必要がある場合は、Panel のタスクスケジューラを使用して、スクリプトを自動実行することができます。

Panel のインストール時に、以下のタスクが自動的に作成されます。

- `autoreport.php` - ドメインに関するレポートを毎日、毎週、毎月配信します（3つの別々のタスク）。
- `backupmng` - スケジュールされたドメインバックアップを 30 分ごとに開始します。
- `statistics` - ドメイン別のリソース使用率の統計を生成します。
- `mysqldump.sh` - 3つの MySQL データベース（`psadump`、MySQL、Horde データベース）のバックアップコピーを作成します。

これらのタスクは統計、データベース、レポートに関連しているため、変更または削除しないことをお勧めします。

➤ タスクをスケジューリングするには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [スケジュール済みタスク] に進みます。
3. [新しいタスクをスケジュールする] をクリックします。
4. [スイッチオン] チェックボックスはオンのままにします。
5. コマンドを実行する時間を指定します。
 - 分：0~59 の値を指定します。
 - 時：0~23 の値を指定します。
 - 日：1~31 の値を指定します。
 - 月：1~12 の値を指定するか、ドロップダウンボックスから月を選択します。
 - 曜日：0~6（日曜日が 0）の値を入力するか、メニューから曜日を選択します。

UNIX `crontab` エントリ形式を使用して、時間をスケジュールできます。この形式では、以下の操作が可能です。

- 複数の値をコンマ区切りで入力する。2つの数字をハイフンでつなげると、包含範囲を意味します。例えば、ある月の4日、5日、6日、20日にタスクを実行するには、「4-6,20」と入力します。
 - そのフィールドで許可されるすべての値を指定するには、アスタリスクを使用します。例えば、タスクを毎日実行する場合、[日] テキストボックスに「*」と入力します。「N」ごとに実行するようにタスクをスケジュールするには、「*/N」という組み合わせを入力します（「N」はフィールドの値で、単位は分、時、日、月）。例えば、[分] フィールドに「*/15」と入力すると、15分ごとに起動するタスクがスケジュールされます。月と曜日は省略名で入力できます（Aug、Jul、Mon、Satなどの最初の3文字）。ただし、省略名をコンマで区切ったり、数字と一緒に指定することはできません。
6. 実行するコマンドを指定します。[コマンド] 入力ボックスにコマンドを入力します。
- 例えば、バックアップ作成タスクを指定の時間に実行し、バックアップファイルを自分のメールアドレスに送信するには、次のコマンドを[コマンド]入力ボックスに指定します。
- ```
/usr/local/psa/admin/sbin/backupmng
```
7. [OK] をクリックします。

➤ **タスク開始時に通知を受け取るには：**

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [スケジュール済みタスク] に進みます。
2. [設定] をクリックし、通知ポリシーを指定します。



➤ **スケジューリングされたタスクの実行を一時停止するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [スケジュール済みタスク] に進みます。
3. 一時停止するタスクのリンクを、[コマンド] 列でクリックします。
4. [スイッチオン] チェックボックスをオンにして、[OK] をクリックします。

➤ **スケジューリングされたタスクの実行を再開するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。

2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [スケジュール済みタスク] に進みます。
3. 実行を再開するタスクのリンクを、 [コマンド] 列でクリックします。
4. [スイッチオン] チェックボックスをオンにして、 [OK] をクリックします。

➤ **タスクをキャンセルするには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [スケジュール済みタスク] に進みます。
3. キャンセルするタスクの左側にあるチェックボックスをオンにして、 [削除] をクリックします。
4. 削除を確認して [OK] をクリックします。

# タスクをスケジューリングする (Windows ホスティング)

決まった時間にホスティングアカウントでスクリプトを実行する必要がある場合は、Panel のタスクスケジューラを使用して、スクリプトを自動実行することができます。

Panel のインストール時に、以下のタスクが自動的に作成されます。

- Update antivirus database: Parallels Premium Antivirus データベースをアップデートします。
- Statistics calculation: トラフィックやディスク容量といったリソース使用量の統計を生成します。

これらのタスクはサイト統計、データベース、レポートに関連しているため、変更または削除しないことをお勧めします。

## ➤ タスクをスケジューリングするには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [スケジュール済みタスク] に進みます。
3. [新しいタスクをスケジュールする] をクリックします。
4. スケジュールタスクを作成後すぐに有効にしたい場合は [スイッチオン] チェックボックスをオンにしておきます。
5. [説明] フィールドにタスクの名前を入力します。
6. [スケジューラからの通知] で、スケジューラによるタスク実行時に通知するかどうかを指定します。使用可能なオプションは次のとおりです。
  - スイッチオフ：通知しません。
  - デフォルトメールに送信：デフォルトメールアドレスに通知を送信します。
  - 指定するメールアドレスに送信：該当フィールドで指定したメールアドレスに通知を送信します。このオプションの選択後、右側のフィールドにメールアドレスを入力する必要があります。
7. 実行するコマンドまたは実行可能ファイルを指定します。[実行可能ファイルのパス] 入力ボックスに入力します。オプションを指定してコマンドを実行する必要がある場合は、オプションを [引数] フィールドに入力します。

- 例えば、ディスク容量を計算する統計計算タスクを実行し、example.com および example.net ドメインの詳細を表示するには、**【実行可能ファイルのパス】** 入力ボックスに次のパスを指定します。

```
C:\Program Files\Parallels\Parallels
Panel\admin\bin\statistics.exe
```

次に、以下のオプションを**【引数】** フィールドに入力します。

```
--disk-usage --process-domains=example.com, example.net -verbose
```

- 独自の php スクリプトをタスクスケジューラを使用して実行するには、次のパスを**【実行可能ファイルのパス】** 入力ボックスに指定します。

```
C:\Program Files (x86)\Parallels\Parallels
Panel\Additional\PleskPHP5\php.exe
```

次に、以下のスクリプトの場所を**【引数】** フィールドに入力します。

```
C:\Inetpub\vhosts\mydomain.tld\httpdocs\myscript.php
```

8. **【タスクの優先度】** フィールドで、適切な優先度を選択します。タスクの優先度は**【低】**、**【中】**、**【高】** から選択できます。
9. **【時】**、**【日】**、**【月】**、**【曜日】** フィールドで適切なチェックボックスをオンにして、コマンドをいつ実行するかを指定します。
10. **【OK】** をクリックしてタスクをスケジューリングするか、**【今すぐ実行する】** をクリックしてスケジュールしたタスクを今すぐ実行します。

#### ➤ **スケジューリングされたタスクの実行を一時停止するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある**【契約】**メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. **【ウェブサイトとドメイン】** タブで**【高度なオペレーション】** グループにある**【スケジュール済みタスク】** に進みます。
3. 一時停止するタスクを選択し、該当するリンクを**【説明】** 列でクリックします。
4. **【スイッチオン】** チェックボックスをオフにします。
5. **【OK】** をクリックします。

#### ➤ **スケジューリングされたタスクを再開するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある**【契約】**メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. **【ウェブサイトとドメイン】** タブで**【高度なオペレーション】** グループにある**【スケジュール済みタスク】** に進みます。

3. 実行を再開するタスクを選択し、該当するリンクを [説明] 列でクリックします。
4. [スイッチオン] チェックボックスをオンにします。
5. [OK] をクリックします。

➤ **タスクをキャンセルするには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [スケジュール済みタスク] に進みます。
3. キャンセルするタスクの左側にあるチェックボックスをオンにして、[削除] をクリックします。
4. 削除を確認して [OK] をクリックします。

# (高度) データベースを使用する

ウェブサイト独自のデータ処理アプリケーションを組み込んだり、ウェブページをダイナミックに生成する場合は、データの保存や取得のためにデータベースが必要になります。その場合、サイト用に新しいデータベースを作成するか、または以前に MySQL、PostgreSQL、または Microsoft SQL データベースにバックアップしたデータを取り込むことが可能です。アプリケーションカタログからアプリケーションをインストールすると、必要なデータベースとデータベースユーザアカウントはすべて自動的に作成されます。

## この章の内容:

|                                        |     |
|----------------------------------------|-----|
| データベースを管理する.....                       | 189 |
| 外部データベースにアクセスする (Windows ホスティング) ..... | 194 |

---

## データベースを管理する

Panel では、様々なデータベース管理オペレーションを実行できます。

- データベースの作成と削除
- 既存のデータベースのインポート
- コラボレーション用の追加データベースユーザアカウントの作成。

これらのオペレーションについて詳しくは、この章の各セクションを参照してください。

## データベースを作成する

➤ **ホスティングアカウントに新しいデータベースを作成するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブをクリックします。
3. [高度なオペレーション] グループの [データベース] をクリックします。
4. [新しいデータベースの追加] をクリックします。
5. データベースの名前を入力します。  
名前は、先頭をラテン文字にし、英数字とアンダースコアだけを使用することをお勧めします (64 文字以内)。
6. 使用するデータベースタイプを選択します。MySQL、PostgreSQL、または Microsoft SQL サーバです。[OK] をクリックします。
7. データベース管理者のクレデンシャルをセットアップするには、[新しいデータベースユーザを追加する] をクリックします。
8. データベースのコンテンツにアクセスするために使用するユーザ名とパスワードを入力します。
9. [OK] をクリックします。

➤ **データベースとそのコンテンツを削除するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [データベース] に進みます。
3. 削除するデータベースのチェックボックスをオンにします。  
チェックボックスが灰色で表示された場合、このデータベースはウェブアプリケーションで使用されており、該当アプリケーションを削除しなければ削除することはできません。
4. [削除] をクリックします。
5. 削除を確認して [OK] をクリックします。

## データベースをインポートする

### ➤ 既存のデータベースをインポートするには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある **[契約]** メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. **[ウェブサイトとドメイン]** タブで **[データベース]** ( **[高度なオペレーション]** グループ) > **[新しいデータベースユーザを追加する]** の順に進みます。
3. データベースの名前を入力します。名前は、先頭をラテン文字にし、英数字とアンダースコアだけを使用することをお勧めします (64文字以内)。
4. 使用するデータベースタイプを選択します。MySQL、PostgreSQL、またはMicrosoft SQLサーバです。 **[OK]** をクリックします。
5. データベース管理者のクレデンシャルをセットアップするには、 **[新しいデータベースユーザを追加する]** をクリックします。
6. データベースのコンテンツにアクセスするために使用するユーザ名とパスワードを入力します。 **[OK]** をクリックします。
7. **[ツール]** グループの **[Webadmin]** アイコンをクリックします。  
phpMyAdmin、phpPgAdmin、またはASPEnterpriseManagerデータベース管理ツールのインターフェースが別のブラウザウィンドウで開きます。データベース管理ツールにより、ウェブブラウザでデータベースユーザアカウントを操作したり、SQLクエリを実行できます。

MySQL データベースを使用している場合：

- a. 左フレームの **[クエリウィンドウ]** をクリックして、 **[ファイルのインポート]** タブをクリックします。
- b. データが含まれているテキストファイルを選択し、 **[Go]** をクリックします。
- c. **[テキストファイルよりデータを挿入する]** リンクをクリックします。

MS SQL データベースを使用している場合：

- a. 左フレームでデータベース名をクリックします。
- b. **[クエリ]** (虫メガネボタン) をクリックします。

- c. テキストエリアにスクリプトのテキストをコピーして [クエリの実行] をクリックします。

データベースおよびそのコンテンツを管理するには、MySQL、PostgreSQL、Microsoft SQL サーバクライアントや、Panel からアクセスできるウェブベースのデータベース管理ツール（ [ウェブサイトとドメイン] タブ > [データベース] > [データベース名] > [WebAdmin] ）を使用してください。

## データベースユーザアカウントを作成する

他のユーザと協力してウェブサイトを管理しており、これらすべてのユーザがデータベースにアクセスできるようにするには、別のユーザアカウントを作成する必要があります。

### ➤ データベースユーザアカウントを作成するには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [データベース] > [データベース名] の順に進み、 [新しいデータベースユーザを追加する] をクリックします。
3. データベースのコンテンツにアクセスするために使用するユーザ名とパスワードを入力します。 [OK] をクリックします。

### ➤ データベースユーザのパスワードを変更するには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [データベース] を選択し、 [データベース名] > [データベースのユーザ名] をクリックします。
3. 新しいパスワードを入力し [OK] をクリックします。

### ➤ Webadmin ツールでのデータベース管理にデフォルトで使用するユーザアカウントクレデンシャルを指定するには：

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [データベース] を選択し、データベース名をクリックします。

3. 必要なユーザアカウントに該当するチェックボックスをオンにします。
4. [DB Webadminのデフォルトに指定する] をクリックします。

➤ **データベースユーザアカウントを削除するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [データベース] を選択し、**データベース名**をクリックします。
3. 削除するユーザアカウントのチェックボックスをオンにします。
4. [削除] をクリックして、削除を確認し [OK] をクリックします。

---

## 外部データベースにアクセスする (Windows ホスティング)

アプリケーションで外部データベースにアクセスしてデータを保存する必要がある場合、Panel 経由の ODBC 接続を確立する必要があります。

➤ **外部データベースへの ODBC 接続を確立するには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [ODBCデータソース] に進みます。
3. [新しいODBC DSNを追加する] をクリックします。
4. ODBC接続名およびその説明を、該当するフィールドに指定します。
5. [ドライバ] フィールドに必要なドライバを指定します。
6. [OK] をクリックします。
7. ドライバの構成画面で適切なオプションを選択します。通常、データベースへのパス、ユーザクレデンシャル、その他の接続オプションを、選択したドライバに応じて指定します。
8. [テスト接続] をクリックして、この設定で正しく接続できることを確認します。[終了] をクリックして作成を完了します。

➤ **ODBC 接続の設定を変更するには：**

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [ODBCデータソース] に進みます。
2. リストから、必要な接続名をクリックします。
3. 必要に応じて設定を変更します。
4. [テスト接続] をクリックして、新規設定で接続できるかことを確認します。[完了] をクリックして変更を保存します。

➤ **ODBC 接続を削除するには：**

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループにある [ODBCデータソース] に進みます。

2. 削除する接続のチェックボックスをオンにします。
3. [削除する] をクリックして削除を確認し、 [OK] をクリックします。

# (高度) データをバックアップおよび復元する

データの損失は、現在でも非常によく起こる問題です。ハードウェアの故障、ハッカーの攻撃など、その原因は様々です。データの損失による影響を最小限に抑えるために、Panel にはバックアップ/復元機能が用意されています。バックアップ時に、Panel はアカウント構成とすべてのウェブサイトコンテンツを複数のファイルに保存します。いつでも自由にバックアップを復元し、破損したデータを復旧させたり、Panel を安定した状態に戻すことができます。

この章では、Panel で次のオペレーションを実行する方法を説明します。

- アカウントおよびサイトに関連するすべてのデータをバックアップする。詳しくは、「**アカウントとウェブサイトをバックアップする**」のセクション (19917ページ) を参照してください。
- データベースをバックアップする (Windows ホスティング)。詳しくは、「**データベースをバックアップする (Windows ホスティング)**」のセクション (20117ページ) を参照してください。
- バックアップをスケジュールする。詳しくは、「**バックアップをスケジュールリングする**」のセクション (20217ページ) を参照してください。
- バックアップアーカイブからデータを復元する。詳しくは、「**データを復元する**」のセクション (20717ページ) を参照してください。

## この章の内容:

|                       |     |
|-----------------------|-----|
| データをバックアップする .....    | 197 |
| バックアップファイルを管理する ..... | 203 |
| データを復元する .....        | 207 |

## データをバックアップする

必要に応じて、Panel では次の 2 種類のバックアップを実行できます。

- **ホスティングアカウント構成**：このバックアップはサイズが小さく、構成の問題を解決するために Panel を復元する場合に便利です。
- **ホスティングアカウント構成とウェブサイトコンテンツ**：このタイプのバックアップでは、Panel の構成に加えすべてのウェブサイトのコンテンツも保存するため、ディスク容量とシステムリソースが余分に必要となります。このようなフルバックアップは、データの損失を防ぐ最適な方法です。

バックアップはいつでも手動で実行できますが、指定した時間にスケジュールすることも可能です。たとえば、フルバックアップを 1 日に一度、サイト訪問者数が少ない夜間に行うことなどができます。バックアップのスケジュールについて詳しくは、「バックアップをスケジュールする」のセクション (20217 ページ) を参照してください。

### バックアップを保存する

Panel にバックアップを保存する方法は 2 つあります。

- **ローカル Panel サーバ上**：すべてのバックアップファイルは Panel サーバに他のアカウントコンテンツとともに保存されます。この場合、バックアップファイルは契約で提供されているディスク領域に置かれます。
- **リモート FTP サーバ上**：すべてのバックアップファイルはリモート FTP リポジトリに保存されます。この場合、バックアップファイルは契約で提供されているディスク領域に置かれませんが、Panel で FTP サーバのパラメータを構成する方法については後述します。

### FTP リポジトリを使用するように Panel を構成する

➤ **バックアップファイルを FTP サーバに保存する場合は、FTP アカウントのクレデンシャルを指定する必要があります。**

1. [アカウント] タブで [マイ・アカウントとウェブサイトのバックアップ] > [個人用 FTP リポジトリの設定] の順に選択してください。
2. 以下を指定します。
  - FTP サーバの IP アドレスまたはホスト名。
  - バックアップファイルの保存先サーバのディレクトリ。
  - FTP アカウントへのアクセス用のユーザ名とパスワード。
  - パッシブモードオプション。Panel から FTP ディレクトリへの接続時に問題が発生した場合、これをオンにしてください。

3. [OK] をクリックします。

## アカウントとウェブサイトをバックアップする

➤ **アカウントおよびすべての契約に関連するすべてのデータをバックアップするには：**

1. [アカウント] タブで [マイ・アカウントとウェブサイトのバックアップ] > [バックアップ] の順に選択してください。

2. 以下を指定します。

- バックアップファイル名のプレフィックスおよび説明。任意のファイル名を指定することはできませんが、バックアップファイル名にプレフィックスを付けるように Panel を設定することはできます。バックアップファイル名には、Panel により、バックアップファイルの作成日時（グリニッジ標準時間）が自動的に追加されます。
- バックアップファイルの分割。マルチボリュームバックアップを作成するには、該当するチェックボックスをオンにしてボリュームサイズをメガバイト単位で指定します。
- バックアップファイルの保存場所。バックアップファイルを保存するリポジトリを選択します。
- バックアップ完了時のメール通知。バックアップ完了時に通知を受け取りたい場合は、メールアドレスを入力します。
- バックアップするデータの種類。アカウント設定のみをバックアップすることも、アカウント設定とすべてのデータをバックアップすることもできます。
- バックアップが完了するまでドメインを一時停止する - このオプションを選択して、ウェブサイトのバックアップ中にユーザがコンテンツや設定を変更できないようにします。

---

注： このオプションをオンにする場合、このバックアップファイルからデータを復元した後で、ドメインエイリアスを必要とするすべてのサイトに対して手動でドメインエイリアスを有効にする必要があります。これを行うには、[ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループの [ドメインエイリアス] に進み、[ドメインエイリアス名] > [スイッチオン] を選択します。

---

3. [バックアップ] をクリックします。

バックアップが終了すると、選択したリポジトリにバックアップファイルが保存されます。

➤ **契約に関連するすべてのウェブサイトをバックアップするには：**

1. 複数のホスティングパッケージを契約しており、複数のウェブスペースへのアクセス権がアカウントに付与されている場合は、画面上部にある [契約] メニューを使用して必要なウェブスペースを選択します。
2. [アカウント] タブで [ウェブサイトのバックアップ] > [バックアップ] の順に選択します。
3. 以下を指定します。

- バックアップファイル名のプレフィックスおよび説明。任意のファイル名を指定することはできませんが、バックアップファイル名にプレフィックスを付けるように Panel を設定することはできます。バックアップファイル名には、Panel により、バックアップファイルの作成日時（グリニッジ標準時間）が自動的に追加されます。
- バックアップファイルの分割。マルチボリュームバックアップを作成するには、該当するチェックボックスをオンにしてボリュームサイズをメガバイト単位で指定します。
- バックアップファイルの保存場所。バックアップファイルを保存するリポジトリを選択します。
- バックアップ完了時のメール通知。バックアップ完了時に通知を受け取りたい場合は、メールアドレスを入力します。
- バックアップするデータの種類。以下のバックアップを選択できます。
  - ウェブサイトの設定のみ
  - すべての設定とデータ（メールアカウントおよびメールボックス内のメッセージの有無を問わず）。
  - メッセージのあるメールアカウントのみ
- バックアップが完了するまでドメインを一時停止する - このオプションを選択して、ウェブサイトのバックアップ中にユーザがコンテンツや設定を変更できないようにします。

---

注： このオプションをオンにする場合、このバックアップファイルからデータを復元した後で、ドメインエイリアスを必要とするすべてのサイトに対して手動でドメインエイリアスを有効にする必要があります。これを行うには、[ウェブサイトとドメイン] タブで [高度なオペレーション] グループの [ドメインエイリアス] に進み、[ドメインエイリアス名] > [スイッチオン] を選択します。

---

4. [バックアップ] をクリックします。

バックアップが終了すると、選択したリポジトリにバックアップファイルが保存されます。

# データベースをバックアップする (Windows ホスティング)

Windows ベースのホスティングアカウントを使用している場合、データベース、データベースユーザアカウント、ウェブサイトで使用されるデータをバックアップし、後で復元することができます。

以下が可能です。

- ドメインデータベースをすべてのデータとユーザアカウントごとバックアップする。
- データベースをバックアップファイルから復元する。
- データベースのバックアップファイルをダウンロード、アップロード、削除する。
- 復元後に孤立したユーザを復元する

---

**重要：** Panel では、ストアドプロシージャ、ビュー、トリガーなどの暗号化されたオブジェクトのバックアップは行われません。つまり、バックアップユーティリティはこれらのオブジェクトを無視するため、復元は不可能です。

---

## ➤ データベースをバックアップするには：

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで、[バックアップマネージャ] > [データベースバックアップリポジトリ] に進みます。
2. [データベース] メニューで、バックアップしたいデータベースを選択します。
3. [バックアップ] をクリックします。
4. バックアップファイル名を指定して [OK] をクリックします。
5. 作成したバックアップファイルをダウンロードするには、バックアップ処理の終了後に、次のページでファイル名をクリックします。ファイルを保存する場所を選択し、[保存] をクリックします。
6. [OK] をクリックします。

## バックアップをスケジューリングする

➤ データのバックアップをスケジューリングするには：

1. [アカウント] タブで [マイ・アカウントとウェブサイトのバックアップ]  
> [スケジュール済みバックアップの設定] の順に選択してください。
2. [このバックアップタスクを有効化する] チェックボックスをオンにして、以下を指定します。
  - バックアップを実行する時間と頻度。
  - バックアップファイル名に追加するプレフィックス。
  - バックアップファイルの分割。マルチボリュームバックアップを作成するには、対応するチェックボックスをオンにしてボリュームサイズをメガバイト単位で指定します。ボリュームサイズを4095メガバイト以上にすることはできません。
  - バックアップファイルの保存場所。バックアップファイルを保存するリポジトリを選択します。
  - リポジトリに保存されるバックアップファイルの最大数。バックアップファイルをリサイクルする場合は、数字を入力します。この上限に達すると、最も古いバックアップファイルが削除されます。
  - バックアップでエラーが発生したときのメール通知。バックアップでエラーが発生した場合にメール通知を送信するには、メールアドレスを入力します。
  - バックアップするデータの種類。アカウント設定のみをバックアップすることも、アカウント設定とすべての関連データをバックアップすることもできます。
  - ウェブサイトのバックアップ中に、ユーザがウェブサイトのコンテンツや設定を変更できないようにするには、[バックアップが完了するまでドメインを一時停止する] をオンにします。
3. [OK] をクリックします。

---

## バックアップファイルを管理する

### バックアップファイルをアップロード/ダウンロードする

➤ **サーバのバックアップリポジトリにバックアップファイルをアップロードするには :**

1. [アカウント] タブで [マイ・アカウントとウェブサイトのバックアップ] を選択します。
2. [サーバリポジトリにファイルをアップロードする] をクリックします。
3. [参照] をクリックして、必要なバックアップファイルを選択します。

---

注：適切なバックアップファイル形式を選択してください。これは、Parallels Plesk Panel のインストールされたオペレーティングシステムに応じて異なります。Linux/Unix システムの場合、tar 形式または zipped tar 形式のアーカイブをアップロードし、Windows システムの場合、ZIP 形式のアーカイブをアップロードする必要があります。

---

4. [OK] をクリックします。  
バックアップファイルが、バックアップリポジトリにアップロードされます。

➤ **Panel 内のバックアップリポジトリからバックアップファイルをダウンロードするには :**

1. [アカウント] タブで [マイ・アカウントとウェブサイトのバックアップ] を選択します。
2. ダウンロードするバックアップファイルに対応する  アイコンをクリックします。
3. バックアップファイルの保存場所を選択し、[保存] をクリックします。  
バックアップファイルが、バックアップリポジトリからダウンロードされます。

➤ **Panel 内のバックアップリポジトリからバックアップファイルを削除するには :**

1. [アカウント] タブで [マイ・アカウントとウェブサイトのバックアップ] を選択します。

2. 削除するバックアップファイルに対応するチェックボックスをオンにします。
3. [削除] をクリックします。
4. 削除を確認して [OK] をクリックします。

## データベースバックアップファイルをアップロード/ダウンロードする (Windows ホスティング)

### ➤ バックアップリポジトリにバックアップファイルをアップロードするには :

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで、[バックアップマネージャ] > [データベースバックアップリポジトリ] に進み、[バックアップファイルのアップロード] をクリックします。
2. [データベース名]メニューで、バックアップファイルのアップロード先リポジトリのデータベースを選択します。
3. [参照...] をクリックして、必要なバックアップファイルを選択します。
4. バックアップファイルのアップロード後すぐにデータベースの内容を復元する場合は、[アップロード後すぐにデータベースバックアップを復元する] チェックボックスをオンにしておきます。
5. [OK] をクリックします。

データベースバックアップファイルが、指定したデータベースのバックアップリポジトリにアップロードされます。

### ➤ バックアップリポジトリからバックアップファイルをダウンロードするには :

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで、[バックアップマネージャ] > [データベースバックアップリポジトリ] に進みます。
2. [データベース] メニューで、バックアップファイルを参照したいデータベースを選択します。ドメイン上のすべてのデータベースのバックアップファイルを参照するには、[すべてのドメインデータベース] を選択しておきます。
3. ダウンロードするデータベースバックアップファイルに対応する  アイコンをクリックします。
4. バックアップファイルの保存場所を選択し、[保存] をクリックします。

バックアップファイルが、バックアップリポジトリからダウンロードされます。

### ➤ バックアップリポジトリからバックアップファイルをダウンロードするには :

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで、[バックアップマネージャ] > [データベースバックアップリポジトリ] に進みます。
2. [データベース] メニューで、バックアップファイルを削除したいデータベースを選択します。ドメイン上のすべてのデータベースのバックアップファイルを参照するには、[すべてのドメインデータベース] を選択しておきます。
3. 削除するデータベースバックアップファイルに対応するチェックボックスをオンにします。[削除] をクリックして、削除を確認し [OK] をクリックします。

---

# データを復元する

## バックアップを復元する

サーバ上の Panel リポジトリに保存されているバックアップファイル、カスタム FTP リポジトリ（19717ページ）からデータを復元することや、ZIP アーカイブ（Windows システムの場合）または tar アーカイブ（Linux システムの場合）としてバックアップファイルをアップロードして（20317ページ）、ここからデータを復元することができます。

➤ **バックアップファイルからデータを復元するには：**

1. [アカウント] タブで [マイ・アカウントとウェブサイトのバックアップ] を選択します。
2. 復元するバックアップファイルの名前をクリックします。
3. 以下の設定を指定します。
  - 復元するデータのタイプ。
  - **バックアップが完了するまでドメインを一時停止する**：これを選択すると、サイトのコンテンツや設定のリストア中に、ユーザがコンテンツや設定を変更すると発生する可能性のある競合が回避されます。
  - 復元タスクの完了時に Panel から通知が欲しい場合は、メールアドレスを入力します。
  - 競合解決ポリシー：復元中に競合が発生した場合の対応を指定します。
4. [復元] をクリックします。

データの復元中にエラーまたは競合が発生した場合は、適切な解決策を選択するためのウィザードが起動します。画面の指示に従ってウィザードを完了してください。

## データベースを復元する（Windows ホスティング）

➤ **データベースが既に存在しており、内容だけを復元したい場合は、以下を実行してください。**

1. [ウェブサイトとドメイン] タブで、[バックアップマネージャ] > [データベースバックアップリポジトリ] に進みます。

2. リストから必要なバックアップファイルを選択し、[選択したデータベースをバックアップから復元する] をクリックします。

サーバにバックアップファイルがなければ、ローカルマシンからサーバリポジトリにバックアップファイルをアップロードできます。詳しくは、「データベースバックアップファイルをアップロード、ダウンロード、削除する」のセクションを参照してください。

3. 該当するチェックボックスをオンにして復元を確認し、[OK] をクリックします。

MS SQL データベースを復元すると、一部のデータベースユーザが孤立してしまう場合があります。これらのユーザがデータベースにアクセスしてデータベースを使用できるように、ユーザを修復する必要があります。詳しくは「孤立したデータベースユーザを修復する」のセクションを参照してください。

## 復元後にデータベースを修復する

MS SQL データベースを復元すると、一部のデータベースユーザが孤立してしまう場合があります。これらのユーザがデータベースにアクセスしてデータベースを使用できるように、ユーザを修復する必要があります。

➤ **孤立したユーザがデータベースに存在しないか確認するには：**

1. [ウェブサイトとドメイン] タブの [高度なオペレーション] グループで [データベース] に進み、[データベース名] を選択します。
2. 修復しなければ正しく機能しない孤立ユーザが複数存在するという警告が表示された場合、孤立ユーザを修復する必要があります。
3. 孤立したユーザを修復するには、修復したいユーザに対して [修復する] ボタンをクリックします。
4. このユーザのパスワードを入力して [修復] をクリックします。

パスワードのないシステムユーザである場合は、パスワードフィールドを空にして修復を実行してください。